

長野県松本市

YOKOTA-HURUYASHIKI

横田古屋敷遺跡

—第1・2次発掘調査報告書—

2012. 3

松本市教育委員会

長野県松本市

YOKOTA-HURUYASHIKI

横田古屋敷遺跡

—第1・2次発掘調査報告書—

2012.3

松本市教育委員会



416



404



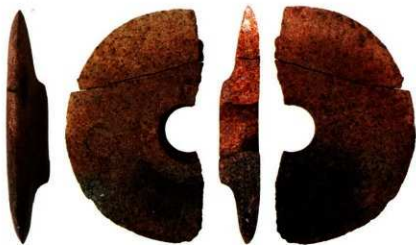
408



416 出土状況



54 出土状況



54 (環状石斧)

例言

1 本書は平成9年6月19日から7月14日と平成20年7月7日から8月11日とにかけて行われた松本市元町2-22ほかに所在する横田古屋敷遺跡（よこた ふるやしき いせき）の第1・2次発掘調査報告書である。

2 第1次調査は遊技場（バチンコ店）建設に伴う緊急発掘調査であり、第2次調査は立体駐車場建設に伴う緊急発掘調査である。松本市が開発者から委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査・整理作業等を実施した。

3 本書の執筆分担は次のとおりである。

第Ⅲ章 3節 1土器・土製品：直井雅尚、2石器：内田陽一郎、その他：吉井理

4 本書の作成・編集にあたっての作業分担は次のとおりである。

遺物洗浄・検査：百瀬二三子、白島文彦 土器実測・トレース：竹平悦子、白島文彦

石器実測・トレース：荒井留美子、石井佑樹、内田陽一郎、原田健司 自然遺物：パミノ・サーヴェイ株式会社（人骨）

遺構図調整・整理・トレース：吉井理、村山牧枝 図版組（遺構）：村山牧枝（遺物）：内田陽一郎、白島文彦

写真撮影：（現場）1次：澤柳秀利、田多井用章、今村克、荒木 龍 2次：三村竜一、吉井理、横井 奏（遺物）：宮嶋洋一

総括・編集：吉井理

5 図中で用いた方位記号はすべて真北を指している。

6 本書で用いている任意座標（NS0、E#0を基準としたもの）は各調査時毎でそれぞれ基準を別に記載している。なお、第1次調査時のグリッド数字は該当するグリッドの北東の1点を示している。

7 表中等で用いたグリッド掘削中の出土遺物は帰属する可能性がある遺構名を（ ）内に表記した。

8 本書の中で使用した遺構名の略称は次のとおりである。

第○号堅穴住居址→○住、第○号土坑→土○、第○号竪立柱建物址→建○、第○号集石遺構→集○

第○号平地式建物址→平建○、第○号溝状遺構→溝○、第○号ピット→P○、第○号墓址→墓○

住居址以外は年次毎1番から付している関係で、土坑及び住居址外ピット、溝状遺構は略称も含め冠に次数を表記する。住居址内ピットは住居名を冠につけることで統一をした。

9 本書の中では遺構・遺物の細部を以下のスクリーントーンで表した。

焼土範囲：

炭化物範囲：

10 注釈は「○^①」上付き文字で表記し、総括の後ろにまとめて記載している。

11 本調査における出土遺物及び測量図・写真等の諸記録は松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館に保管・収蔵されている。（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738番地1 TEL：0263-86-4710 FAX：0263-86-9189）

12 石器の原稿、図及び表作成にあたって関沢聡氏から指導、助言を得た。

目次

第Ⅰ章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査体制	2

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地形・地質	7
第2節 歴史	10

第Ⅲ章 調査結果

第1節 調査の概要	12
第2節 遺構	13

第3節 遺物

1 土器・土製品	24
2 石器	47
3 出土人骨	66

第Ⅳ章 総括

第1節 竊床木棺墓	72
第2節 集落と墓	75
第3節 まとめ	76

第 I 章 調査の経緯

第 1 節 調査に至る経過

今回の調査地点は松本市元町 2-22 ほかにあたり、同敷地内にて 1 次調査を平成 9 年に、2 次調査を平成 20 年に行った。

本遺跡は昭和 57 年の分布調査¹⁾の際に弥生土器が多量に黒色土中から採集されており、周知の埋蔵文化財包蔵地と知られてはいたが、本格的な調査は今回が初めてである。

合併前の本郷地区では「古屋敷遺跡」と呼ばれ、既刊行の報告書の一部では²⁾「元屋敷遺跡」として記載されている。松本市内には「古屋敷」という遺跡名が大村地区や中山地区にも存在しており、混同を避けるためにそれぞれ字名をつけることで区別をして、本遺跡は「横田」の冠を付し、遺跡名称を「横田古屋敷遺跡」とした。

第 1・2 次調査及び試掘・立会調査に伴う文書記録等は以下のとおりである。

平成 9 年度（第 1 次調査）

- 5月9日「市内遺跡に関わる開発行為に関する埋蔵文化財発掘届の提出について」旧文化財保護法第 57 条の 2 第 1 項「土地所有者の承諾書」
- 6月16日～横田古屋敷遺跡試掘調査実施。地表下 80～100cm で弥生時代の遺構・遺物を確認。
「開発事業に伴う横田古屋敷遺跡の保護意見書」
- 6月17日「開発行為に伴う横田古屋敷遺跡保護協議」
「埋蔵文化財発掘調査通知の提出について」旧文化財保護法第 98 条の 2 第 1 項「埋蔵文化財発掘調査実施について」
- 6月18日「横田古屋敷遺跡内開発行為に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約」を締結
- 6月19日～7月13日 横田古屋敷遺跡第 1 次発掘調査実施
- 7月15日「市内遺跡に関わる発掘調査終了通知の提出について」
- 1月19日「市内遺跡に関わる埋蔵物発見届及び埋蔵文化財保管証の提出について」
- 2月26日「埋蔵物の文化財認定について（通知）」9 教文第 185-28 号
- 3月31日「横田古屋敷遺跡埋蔵文化財発掘調査委託の完了報告書の提出について」

平成 12 年度

- 3月26日 立体駐車場建設に伴う雨水浸透枳掘削の立会調査実施。遺物はなし。礫を含む土坑 2 基を確認。

平成 13 年度

- 5月9日 立体駐車場建設に伴う基礎工事及び雨水・排水路掘削の立会調査実施

平成 20 年度（第 2 次調査）

- 4月25日「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」文化財保護法 93 条
- 5月14日「土地所有者の承諾書」
- 5月19～21日 埋蔵文化財発掘調査（立体駐車場建設地）実施。地表下 130～165cm で遺構・遺物を確認。
- 5月28日「横田古屋敷遺跡に関わる保護意見書」
- 5月29日「埋蔵文化財発掘調査報告書（立体駐車場建設地）」
- 6月3日「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」20 教文第 7-129 号
- 7月1日「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約」締結
- 7月4日「埋蔵文化財発掘調査の実施について」

7月7日～8月11日 横田古屋敷遺跡第2次発掘調査実施

8月12日「発掘調査終了報告書」

「埋蔵物発見届及び文化財保管証の提出について」文化財保護法101条・108条並びに遺失物法

8月22日「埋蔵文化財認定及び出土品の帰属について」20教文第26号-67号

8月24～29日 埋蔵文化財試掘調査（遊技場建設地）実施

10月14日「埋蔵文化財試掘調査報告書（遊技場建設地）」

10月17日「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約に関する変更契約」

10月21日「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託完了報告書」

3月5日「出土文化財の譲与申請」

3月12日「出土文化財の譲与について（通知）」20教文第27-34～35号

整理作業：現場測量図と出土品の整理作業は平成22年4月から松本市立考古博物館において実施し、平成24年3月30日に発掘調査報告書(本書)を刊行することで完了した。

第2節 調査体制

平成9年度 第1次発掘調査

調査団長：守屋立秋（松本市教育長）

調査担当者：澤柳秀利、田多井用章、今村 克、荒木 龍

調査員：森 義直

発掘協力者：浅井信興、浅輪敬二、荒井留美子、石井脩二、入山正男、上兼昭一、大月八十喜、岡村行夫、上條道代、河上純一、神田栄次、清沢智恵、奥 喜義、斉藤政雄、高橋登喜雄、田中一雄、寺島 実、中村恵了、林 武佐、藤井源吾、藤井道明、藤本利子、布野行雄、布山 洋、牧 久雄、丸山喜和子、宮田美智子、三代沢二三恵、夔 國成、百瀬二三子、横山 清、吉田 勝

事務局：松本市教育委員会文化課

木下雅文（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、村田正幸（文化財担当係長）、近藤 潔（主事）、山多井用章（主事）、川上真澄（嘱託）

平成20年度 第2次発掘調査

調査団長：伊藤 光（松本市教育長）

調査担当者：三村竜一、横井 奏、古井 理

調査員：森 義直

発掘協力者：井口方宏、石川一男、折井完次、清水陽子、丸山俊樹、百瀬二三子、待井敏夫、待井正和、宮沢文雄、渡辺啓之助、渡辺順子

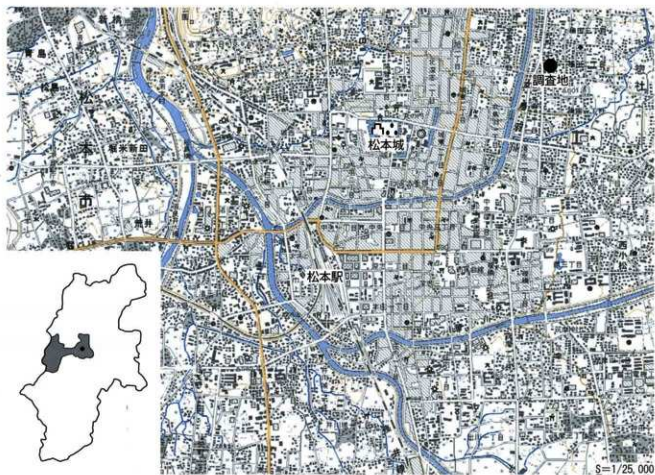
事務局：松本市教育委員会文化財課

小穴定利（文化財課長）、大竹永明（埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（主査）、櫻井 了（主事）、柳澤希歩（嘱託）

平成23年度 報告書刊行

事務局：松本市教育委員会文化財課

塩原明彦（文化財課長）、大竹永明（課長補佐）、埋蔵文化財担当係長、直井雅尚（主査）、柳澤希歩（嘱託）



第1図 調査地の位置

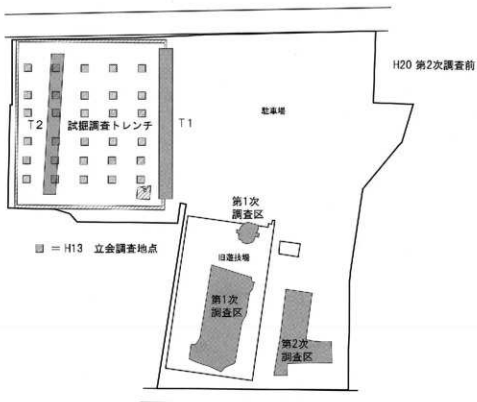


- | | | | |
|-------------|-------------|---------------------|---------------------------|
| 73 大村遺跡 | 148 沢村遺跡 | 173 小島遺跡 | 225 針塚(里山辺4号)古墳 |
| 74 大村古里敷遺跡 | 154 堀ヶ崎遺跡 | 185 鑛銅塚古墳 | 230 御符(里山辺9号)古墳 |
| 75 大福原遺跡 | 155 田町遺跡 | 187 塚1号古墳 | 233 林城址(大城・小城) |
| 76 大村立石遺跡 | 156 女鳥羽川遺跡 | 188 塚2号古墳 | 487 北小松遺跡 |
| 77 大村前田遺跡 | 157 松本城下町跡 | 194 下原遺跡 | 494 松本城(本丸・二の丸・三の丸・外堀・総堀) |
| 78 惣社遺跡 | 158 丸の内遺跡 | 195 新井遺跡 | 495 天神西遺跡 |
| 79 宮北遺跡 | 159 大名町遺跡 | 196 京町遺跡 | 496 岡の宮遺跡 |
| 80 横田遺跡 | 160 四ツ谷遺跡 | 200 荒川寺遺跡 | 498 伊勢町遺跡 |
| 81 大村塚田遺跡 | 161 原町遺跡 | 201 針塚遺跡 | 499 土居尻遺跡 |
| 82 横田古屋敷遺跡 | 162 本町南遺跡 | 209 千鳥頭北遺跡 | 500 片端遺跡 |
| 104 国司塚古墳 | 164 堀橋遺跡 | 210 御符遺跡 | 510 堂町遺跡 |
| 109 惣社車塚古墳 | 165 筑摩遺跡 | 213 林遺跡 | 516 小松下遺跡 |
| 123 大村新切古家址 | 166 三才遺跡 | 220 荒町(里山辺1号)古墳 | |
| 144 狐塚遺跡 | 167 筑摩北川原遺跡 | 221 北河原屋敷(里山辺11号)古墳 | |
| 145 旧射的堀西遺跡 | 168 筑摩南川原遺跡 | 222 巾上(里山辺10号)古墳 | |
| 146 元原遺跡 | 169 筑摩遺跡 | 223 大塚1号(里山辺12号)古墳 | |
| 147 沢村北遺跡 | 172 井川城址 | 224 大塚2号(里山辺3号)古墳 | |

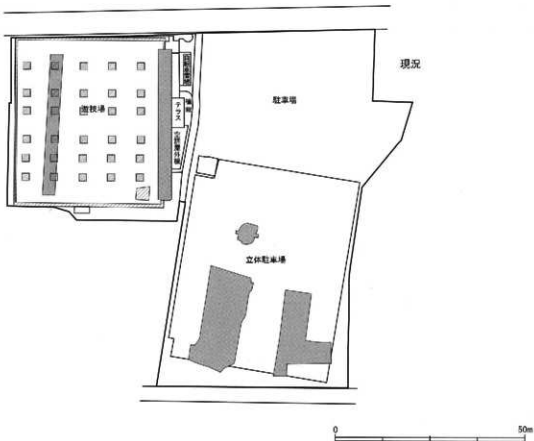
●印：調査地点
No.：松本市遺跡台帳記載の遺跡番号

第2図 周辺遺跡図

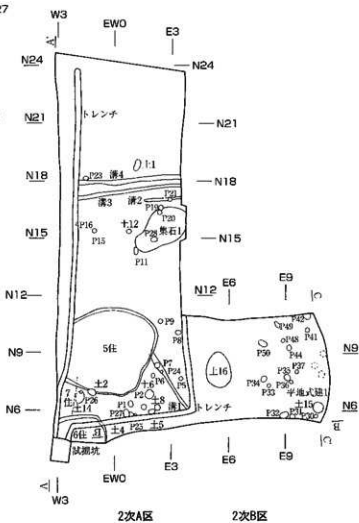
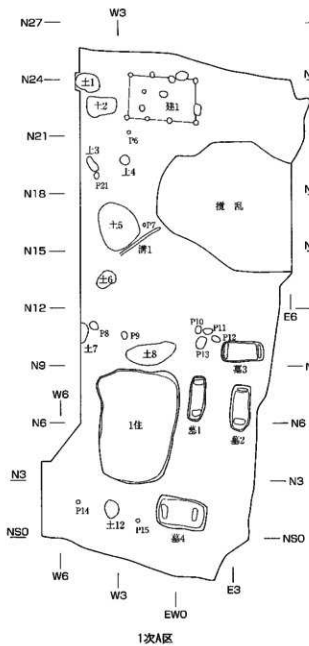
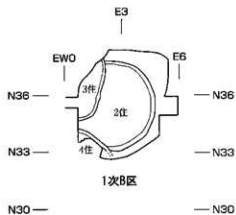
4



4



第3図 調査範囲図



第4図 遺構配置図

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地形・地質

1 本遺跡と河川との関係

本遺跡は松本市市街地の東の元町地籍にあり、松本市東部を形成した薄川による扇状地と、女鳥羽川による扇状地との境界にあたり、女鳥羽川から東に約230mのところを位置する。

薄川は三峯山の西側を源流とし鉢伏山の東北を通り、美ヶ原付近の水を集め入山辺地区から西流し旧松本市南端を流れて田川と合流している。薄川の特徴は下流で堆積物が異常に厚いことであり松本市一帯の地盤沈下など構造上の問題にも関係すると考えられている。堆積物は流域の岩石である緑色変質火山岩、石英閃緑岩、安山岩、珪岩などの礫を主体としている。薄川により形成された扇状地は、扇頂を入山辺地区南方付近とし、南は和泉川付近、北は清水付近の湯川を境として女鳥羽川の扇状地に接し、西は旧松本市の市街地に達している。

女鳥羽川は三才山付近に源を発して西流し、本郷の稲倉で南流に転じて松本市街地の北から流入する河川で、松本市白坂付近にて田川と合流する。堆積物は上流で新生界第三系の内村層とそれに貫入した珪岩を浸食して流下するため、砂岩、珪岩などの礫が多い。女鳥羽川により形成された扇状地は、本郷の稲倉付近を扇頂とし、本郷や岡田に広い扇状地をつくり、湯川を境として薄川の扇状地に接し松本市の北部を形成している。

2 遺跡の上層

第1次調査 調査区中央東壁、墓址付近の土層について概観する。Ⅶ層が本遺跡の遺構検出面にあたり、黄褐色土で現地表レベルから-130cm以下に堆積する。Ⅵ層が20cm堆積し、漆黒土で弥生土器遺物包含層にあたる。Ⅴ層も同じく20cmの堆積で色調は黒、古代の遺物包含層にあたる。Ⅳ層は黄褐色シルト質粘土、Ⅲ層は粗砂の堆積で流理構造が顕著に確認され、Ⅱ層黄褐色シルト質粘土となり、Ⅳ～Ⅱ層(-20～-97cm)は弥生時代以降の流路の痕跡である可能性が高い。Ⅰ層は表土及び擾乱となる。

第2次調査(第5図)

A区西・南壁、B区東・南壁を図示した。

10～14層は弥生時代以前の堆積で褐色～暗褐色土、14層には流路堆積が認められた。

8・9層は弥生時代の遺構検出面で褐色砂質土、層中には炭化物の混入が認められ、1次調査のⅦ層にあたる。

5～7層は弥生時代の遺物包含層で、炭化物を含む黒色土が主で1次調査のⅥ層にあたる。

4～2層は古代以降の堆積で、部分的に遺構・遺物が若干認められたが生活面としての層を成してはいなかった。

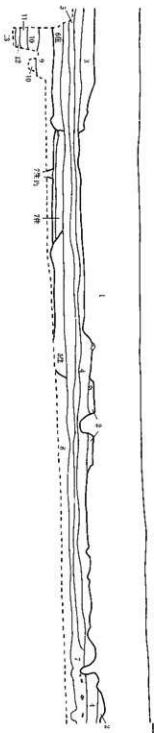
13・14層の存在から弥生時代以前に河川による氾濫があったことは明らかであるが、2層以下、9層までそのほとんどが水平堆積をなしており、1次調査区、大規模試掘調査時に見られた顕著な流理構造を持つ層や氾濫痕跡と思しき堆積が2次調査区では検出されなかった。弥生時代以降の氾濫は1次調査地の範囲中に収まる可能性が高い。

大規模試掘調査(第6図)

調査の結果、調査地には奈良～平安時代の遺物包含層である12・13層が部分的に残ることが分かったが、出土遺物はごく僅かに回収できただけである。2～11層中は幾度にもわたる流路堆積が確認でき、それらは平安以降の堆積と考えられる。なお、弥生時代の遺物包含層及び遺構は灰褐色砂礫層が破壊していると推定され、一切検出されなかった。1・2次調査で確認されている弥生時代の遺構・遺物が発見されなかったのは後世の洪水による影響が多いと考えられるため、岡の宮遺跡へと続くと思定される集落の連続性が確認されなかっただけであり、関連性がないとは断言することはできない。

調査区西壁

A

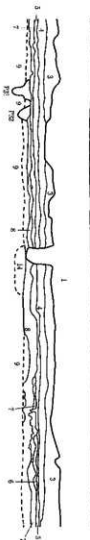


- 1 褐色の腐植土・腐植
 2 褐色土 (腐植土多量 腐植土少量)
 3 褐色土 (腐植土多量)
 4 灰色腐植土 (腐植土多量)
 5 腐植土 (腐植土多量)
 6 褐色少土 (腐植土、腐植土少量)
 7 褐色少土 (腐植土、腐植土少量) 腐植土の付着体 (腐植土)
 8 褐色少土 (腐植土、腐植土少量) 腐植土の付着体 (腐植土)
 9 褐色少土 (腐植土、腐植土少量) 腐植土の付着体 (腐植土)
 10 褐色土 (腐植土多量)
 11 褐色土 (腐植土多量)
 12 褐色土 (腐植土多量)
 13 褐色土 (腐植土多量)
 14 褐色土 (腐植土多量)

A
200.0m

調査区南壁

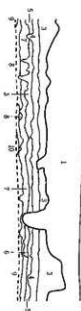
B



B
200.0m

調査区東壁

C

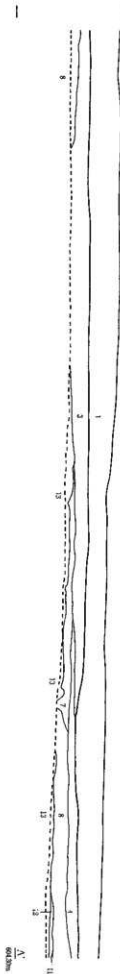


C
200.0m

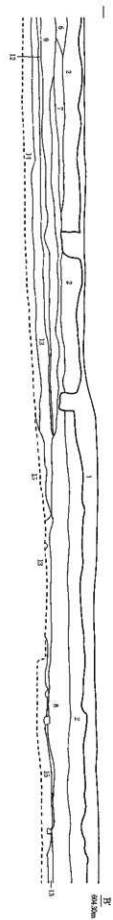
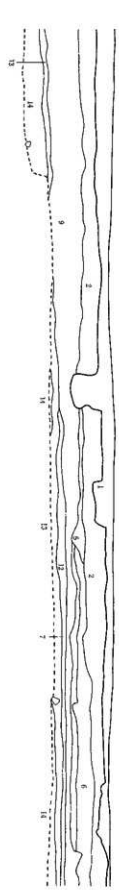


第5図 2次調査区壁面の土層断面図

A トレンチ1



B トレンチ2



- 1 表土の腐植土・腐葉
- 2 腐植土の腐植土
- 3 腐植土の腐植土
- 4 腐植土の腐植土
- 5 腐植土の腐植土
- 6 腐植土の腐植土
- 7 腐植土の腐植土
- 8 腐植土の腐植土
- 9 腐植土の腐植土
- 10 腐植土の腐植土
- 11 腐植土の腐植土
- 12 腐植土の腐植土
- 13 腐植土の腐植土
- 14 腐植土の腐植土
- 15 腐植土の腐植土

第6図 大規模試掘土層断面図

第2節 歴史

本遺跡周辺の弥生時代の遺構・遺物が発見されている遺跡を中心にして概観する。なお、遺跡名はゴシック体で表記し、「遺跡」は省略して記載する。(数字)は第2図に対応するもので、松本市遺跡台帳に登録されている遺跡番号である。

1 女鳥羽川流域

本流域の特徴は左岸一帯の微高地上には南北に連なる各時代の集落が開拓する点、その背後に薄川扇状地北部から続く湿地帯を有する点の二つが挙げられる。弥生後期後半になると**大村古屋敷**(74)、**大村塚田**(81)等に住居址が営まれる。**大村古屋敷**は20軒近い住居址が発見された規模の大きいもので、東方に広がる湿地帯を耕地とする場所に集落を構えている。**女鳥羽川**(156)・**岡の宮**(496)からは栗林式中段階(栗林2式)の上器が出土している。市内遺跡での当該期の上器群と比較すると、泉町遺跡、百瀬遺跡の出土器群より古く、栗林式の中では最古級に位置付けられている。

2 湯川流域

女鳥羽川扇状地と薄川扇状地の接する一帯である。縄文時代中期から古代まで大きな広がりをもつ遺跡が分布する。弥生時代では**横田古屋敷**(82)、**四ツ谷**(160)などがある。

3 薄川流域

扇端に位置する**泉町**(161)はこの地域で最も規模の大きい遺跡で、弥生時代中期後半から古代まで集落址が断続的に継続され続ける特異な遺跡である。なお、扇中央部に位置する針塚からは弥生時代前期末の再葬墓が発見されている。弥生後期後半以降は集落も構えるようになり、**堀の内**(199)からは方形周溝墓も発見されている。

4 奈良井川、鎮川・二間沢川

本遺跡周辺ではないが、「**宮測木村遺跡**」「**境窪遺跡**」の2遺跡からは竊穴木棺墓と考えられる土坑が検出されている。

宮測木村(153)は奈良井川右岸にあり、中期後半～後期の大集落址で80軒以上の住居址が発見されている。

鎮川西岸の扇状地に位置する、**境窪**(312)からは弥生時代中期前半の集落址が発見されている。集落内からは、平地建物址、掘立柱建物址、竊穴木棺墓、再葬または乳幼児墓と考えられる土器棺墓、土坑墓が検出されている。

5 松本市内の竊穴木棺墓

『宮測木村遺跡—遺構編—』松本市文化財調査報告No.45、1986年

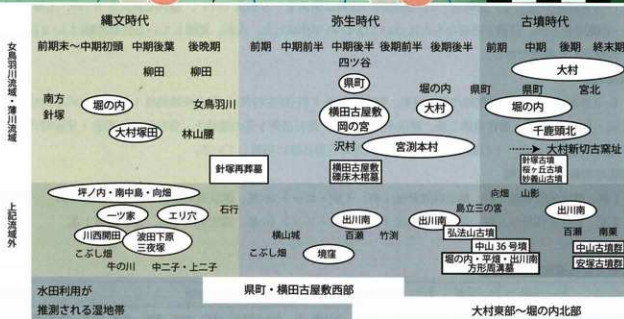
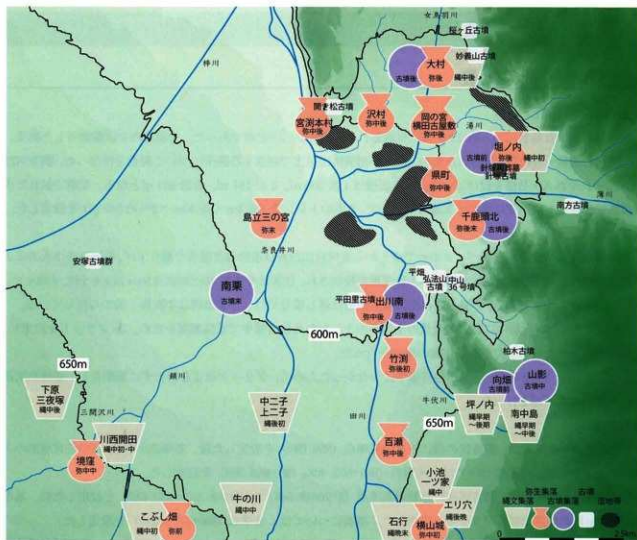
報告書掲載名は土坑25であり、竊穴木棺墓と認識して調査を行っていない。「II区南部に位置し、第18号住居址を切っている。また、土坑東辺中央部から第18号住居址北東コーナーにかけて集石4によって切られている。長軸N-2-W、210×70cmの隅丸長方形プランの土坑である。覆土から床面にかけて、5～25cm大の礫を大量に含んでいる。」本址は、規模、プラン、礫の出土状況などから、竊穴木棺墓の可能性を持っている。

『宮測木村遺跡III—遺構編—』松本市文化財調査報告No.77、1989年

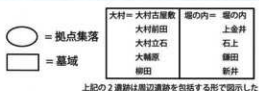
上坑301・302・304・319・320・321の6基が該当する。

『境窪遺跡・川西開田遺跡I・II』松本市文化財調査報告No.130、1998年

竊穴木棺墓はB区中央、建7の北方で検出され、東西に長軸をとる長さ120×100cmの長方形の墓壇である。覆土は小円礫を多量に含み、その上面付近から少量の骨片と土器片が出土したことから礫をなしていたと考えられる。また、墓壇の東西壁で、木棺小口板部分は底面を一段低く掘り窪めていることから想定される木棺の大きさは長さ1m、幅0.8m程度である。



縄文中期に爆発的に増えた集落が縄文晩期から弥生前期にかけて激減する
 ⇒全国的にみて縄文晩期から寒冷期に入ることの影響と考えられている
 弥生時代中期になると温暖期に向けて昇温しはじめる
 ⇒米作りの普及に伴い、各地で大規模な集落が営まれるようになる
 弥生時代中期頃～古墳時代にかけて拠点集落が増加する
 ⇒安定した食糧を水田利用で確保し、人口が増加



上記の2遺跡は周辺遺跡を包括する形で表示した

第7図 松本の縄文時代から古墳時代までの集落変遷

第三章 調査結果

第1節 調査の概要

調査地の設定 (第1・3図)

調査対象地は女鳥羽川から約230m東に位置し、1次調査以前は宅地であった。対象地内を試掘調査した結果、弥生時代の遺構・遺物が確認されたため、掘削が遺構検出面まで到達する箇所について調査を行なった。調査区は1・2次それぞれA・B区を設けている。調査面積は1次306㎡、2次157㎡、合計463㎡となる。前章で触れた大規模試掘調査は2次調査に次いで実施したもので、2本のトレンチ(幅3m×長40m×2=約240㎡)を設定した。

調査方法

発掘調査は大型建設用機械バックホーで表土から遺構検出面及び遺物包含層まで掘り下げ、それ以降は人力による調査を行った結果、各調査区全域で弥生包含層が検出され、住居址や土坑(検出時直径50cm以上を土坑、未溝をピットとして扱った)、竈床墓などが発見された。竪穴住居は通し番号で付し、他遺構は年次毎1番から付している。

1次調査では、包含層中において大量の土器が出土したため包含層中で重機掘削を止め、3mグリッドを設定し、遺構検出が可能な深さまでグリッド毎の掘削を行った。

2次調査では、回収可能な遺物が包含層中に少なかったために、グリッド設定を行わずに掘削をし、遺構検出後に各遺構の掘り下げを行った。

測量方法

1次調査の平面測量は、調査区の南に任意の基準点(NSO、EWO)を設定した後、基準点から3m毎の任意座標のグリッドを設定した。標高については、水準点(BM1=602.408、BM2=603.308)を設定した。

2次調査の平面測量は、調査区南に測量用基準点(X=26648.545、Y=46168.352; NSO、EWO)を設定した後、基準点から3m毎の任意座標のグリッドを設定した。標高については、水準点(BM=602.292m)を設定した。

1・2次調査共通して、遺構図・出土遺物図の測量は簡易造り方測量で行い、遺構配置図を1/100、土層・遺物出土・完掘図を1/20、詳細が必要なものについては1/10で作成した。なお、掲載している任意座標は1・2次、それぞれ独立した座標である。

調査成果

1・2次調査の発掘及び整理作業の結果、竪穴住居址7軒(弥生時代)、掘立柱建物址1軒、平地式建物址1軒、土坑・ピット72基、溝状遺構5条、竈床木棺墓4基、集石遺構1基の遺構と、弥生時代～奈良・平安時代にわたる遺物が確認された。その概要は巻末の発掘調査報告書抄録に掲載している。

調査年次毎の検出遺構

- 1次：竪穴式住居址4軒、掘立柱建物址1軒、土坑・ピット26基、溝状遺構1基、竈床木棺墓4基
2次：竪穴式住居址3軒、平地式建物址1軒、土坑・ピット46基、溝状遺構4基、集石遺構1基

回収できた遺物量及び主な遺物

	土器	石器	主な遺物
1次遺構外	133,692g	8,698.9g	太首壺、短頸壺、台付甕、鉢、有孔土製品、磨斧、打斧、磨鎌、打鎌、砥石、凹・嵌・磨石
1次遺構内	110,111g	50,466.4g	高坏、壺、短頸壺、甗、甕、台付甕、鉢、注口状土製品、土製紡錘車、土製耳飾り、環状石斧、磨製石庖丁、磨斧、打斧、磨鎌、打鎌、石鎌、砥石、凹・嵌・磨石、有孔土製品
2次遺構外	12,396g	796.5g	直口壺、壺、甕、鉢、磨斧
2次遺構内	12,250g	15,046.9g	壺、甕、台付甕、甗、磨鎌、打鎌、石鎌、砥石

(2次遺構内の出土石器は12400.0gの砥石1点を含む)

第2節 遺構

各遺構の規模・主軸方位・平面形・炉・柱穴・遺物出土状況・時期・所見等については一覧表を参照されたい。

1 住居址(第1・2表、第8・9・12図) 弥生時代中期後半～後期の住居址7軒が検出された。

平面形態 平面プランが把握できた住居址は円形2軒と隅丸長方形1軒、1・2・5住の計3軒である。形態・柱配置・炉などのプランから、1住は後期に、2・5住は中期後半～末に位置づけられる⁵⁹。なお、3住は検出されたプランのコーナーから隅丸長方形を早すと推定される。

規模・方位 1・2・5住の規模は直径(長辺)が4.5～4.9mを測り、概ね近似する。面積は1住が21.6㎡と若干大きい。平面形態に拠るものと考えられる。柱痕はいずれの住居址も20～30cmを測り、柱穴規模の差異は特にみられない。主軸方位は遺構形態に関わらず、概ね北を指向する。

炉 本次調査で検出されたかは遺構形態に関わらず、いずれも円形で径40cm前後を測る地床炉である。5住及び6住は2基の炉を有する。

柱配置 1住は形態が長方形で6か所の柱穴、2住は方形で計6か所の柱穴、5住は方形で4か所の柱穴が検出された。3種3様であるため、形態と柱配置の規則性までは言及できない。壁際の支柱穴等は検出されなかった。

覆土 住居址覆土は主に暗褐色粘質土～黒褐色粘質土であった。人為的な埋め戻しと考えられる遺構覆土はみられず、炉址外の炭化材及び焼土は覆土、ピット内から微量に検出されたのみである。

床面 硬化面が検出されたのは2・6・7住の3基である。しかし、6住は壁面観察でのみの検出であり、7住は遺構プランが不明瞭であるため、遺構形態と床面の関係性は追究できない。なお、2住の硬化面は主柱穴の内側から検出されている。

その他屋内施設 2・3・4住は切り合い関係にあり、それぞれ周溝を有している。

出土遺物 出土土器量の面からみると2住が突出して多く52,049gもの土器が出土している。次いで1住が19,618g、5住が8,458gを量る。環状石斧は2住から出土している。

分布状況 縁辺に墓域を造営していたとすれば、1住と5住の間に礫床木棺墓群が築造されていることから住居址支群が少なくとも2つ以上存在していたことが推測される。特に集落と墓域の関係については第IV章総括において述べることにする。

2 平地式建物址

第1号平地式建物址(第4表、第13図) 本址の土坑・ピットは全て2次調査分なので年次数表記は省略する。2次B区東端部にて多角形に配置された柱穴列や伴居址と同規模の地床が検出され、掘り込みが確認できなかったことから平地式建物址とした。

か址は火床面が明瞭に残る3基が検出され、焼土の遺存状態から同時期に使用されていたと考えられる。

本址を構築していたと推測される柱穴はP31・33・34・37・41・42・48・49・50、土15の10基である。規模は30cm前後を測るものが多く、深さは検出面から20～30cmを測るものが多い。柱間隔は2.0～2.4mを測る。

炉址を中央とした場合、東半が調査区外にあることになるので柱配置の全容について明言はできないが、炉址を中央に据えた八角形の平地式建物址を想定し、P31・33・42・48の4基を主柱穴、他6基を支柱穴とした。主柱穴群と支柱穴群のほとんどが円形または円に近い楕円形状であるが、P49だけは長楕円形状を呈している⁶⁰。板状の柱であったか、2本の柱をならべていたと考えられるが、地積状況からは判然としなかった。

本址の主柱穴としたP42の底から逆位の竈底部(141)が半分に割れた状態で出土した。

確実に平地式建物址に帰属する出土遺物はほとんど認められないが、他の遺構と同様の検出面において生活痕跡が確認できたことから5住などと同時期にあたる弥生時代中期後半～末の建物址と推定される。なお、平地式建物址の特徴の一つである周溝は検出されなかった⁶¹。

古墳時代土器出土地点 2次A区北部に位置する。弥生包含層の上層から集中的に土器が出土した。これらの土器は古墳時代前期又は中期に位置づけられるが、遺構形態は不明瞭で捉えることができなかった。

3 掘立柱建物址 (第3表、第9図)

第1号掘立柱建物址 1次A区北部、1件と2件の中間に位置する。柱穴列のほぼ中央の地点に炉址が検出されたことから、地床式住居址と考えられる。しかし、検出の段階で堅穴式住居址を床面まで削平してしまった可能性もある。なお、柱穴内出土遺物と、柱穴列内外の出土遺物は柱穴列に囲まれた範囲内包含層出土及び建物址周囲出土遺物として本址に帰属させている。出土遺物等から弥生時代中期後半～末の建物址と推定される。

4 礎床木棺墓 (第5表、第10・11図)

1次A区南部から4基の礎床木棺墓が検出された。墓1～3は1住東方に∩の字状に配置され、墓4は1住南方に位置する。墓1・2は上軸を南北にとって並列し、墓3・4は2基に対して直交方向である東西に主軸をとる。

径5cm～10cm以上の大小様々な並円礫が、十坑外周、覆土中、床面等から大量に検出された(本報告では碎屑性堆積物の粒径区分を参考に、径5cm前後を中礫、径10～20cm前後を大礫、それ以上を巨礫とした)。いずれの墓址も礎床には中礫を上体的に用いている。出土した弥生土器は4基共に中期後半～末に位置づけられる。

以下、礫の検出状況、小口穴の状況等を記載する。

第1号墓址 本址の土坑部分については非常に浅く、検出時の礫出土状況において既に棺床面が確認されている。しかし、土坑周囲に配置された礫集積の在り方から、十坑上部を削平されたとは考え難い。したがって、深く掘り込んで埋葬されたのではなく、盛土をして埋葬するという形態をとったと考えられる。

小口穴は北・南共に土坑下端から20cmほど内側の位置に検出され、南端部のテラス状の段からは大礫が検出されている。20cmの幅をもつテラス状の段は北端が棺床より10cm程高く、南は棺床とほぼ同じ標高を測る。また、北小口中央からは外に向かって中礫が多く検出され、南小口内中央からは大礫が多く検出されている。小口穴内から出土した礫は木材が腐朽した時の崩落による可能性が否めないが、小口板の裏込め石として捉えられた可能性も十分に考えられるだろう。

遺物は土坑周囲の礫集積に混じる様に出土しているものが多く、特に南側から壺の大形破片(207・214・215)が出土している。

第2号墓址 本址はグリッド調査時に付近の礫を取り上げてしまったため、礫集積の出土状況が不整形なものになっている。図示した礫範囲は、本来の礫集積の形態とは若干異なってしまう。

墓1と同方位を主軸とし並列するが、本址は40cm以上掘削した深さで棺床面が検出された。両者の遺構深度が示すなにかを具体的に言及することはできないが、土坑深度の他、礎床の厚み・礫範囲面積・十坑面積等、本址の方が若干大きい規模をもつ。遺構規模の大小のみで論じることは、憶測と成り得るが、あえて埋葬形態から上下関係を推し測ると墓2≧墓1と考えられるだろう。

小口穴間の範囲と検出時に礫が出土しなかった中央部の範囲がほぼ合致するため、この部分が遺体安置場と推定される。北端は土坑掘り方から小口穴底部までテラス状の段が確認されなかったが、南端は墓1の様にテラスが設けられていた。そのテラスは棺床面より10cm程低いが、礫は棺床面と同レベルから20cm程高い箇所まで礫を敷きつめていた状況が検出されている。以上のことから勘案すると小口穴を端部として、遺体を安置していたことがうかがえる。遺物は墓1同様土坑周囲の礫集積に混じる様に遺物が多数出土した。特に、検出時に礫集積が少なかった北側に壺・甕の形破片(197・203・205)が集中していたほか、中央から大礫1点が検出された。

第3号墓址 本址の特徴は東と西の2か所に礫集積が分断されていること、側部の礫集積が認められなかったことが挙げられ、想定される木棺周囲にも礫集積が存在しないことになり、他3墓とは異なる。

墓1同様土坑深度は浅く、盛土を伴う埋葬が想定される。密度の高い礫集積は小口板の倒壊防止用と考えられるが、小口穴～中央にかけての木棺が安置されていた位置からも礫の出土が認められ、これらは土坑の上端と

ほぼ同標高地点にて検出されている。したがって、盛土状埋葬でかつ蓋板が存在していたことを前提にした場合に、木棺部が腐食して除滅したことを加味すると、木質部に積載されていた礫や外側に積まれていた礫等も含まれると考えることが妥当であろう。なお、本址は土坑周囲の礫集積が墓1と比べて少ないため、土坑上部が削平されたと仮定することは容易であるが、他墓と同時性を想定している以上、同層平面から検出されている墓1・2の礫集積の状況から、積極的にその可能性を追求することは不適当と考えられる。

東端ではテラスが確認されず、西端には幅10cm程のテラス状部分が確認されている。テラスと棺床面はほぼ同レベルを測る。墓2と同じく、東端の小口穴と土坑形態の関係から小口穴を端部とする遺体安置場が想定される。

遺物は西側の礫集積に混じる様に集中して壺・甕・鉢の大形破片(224~228・230~235・238~240)が出土している。ほかに、東部礫集積の南から十製耳飾(241)が1点出土している。

第4号墓址 本址は他3墓と比較すると1.5~2倍の面積を有する大型墓址である。

礫集積の配置は東西に大礫(間隙を中礫以下の礫で充填する)、南北に中礫の割合が多い。検出時中央部では中・大礫の出土が比較的少なく、墓標の役割を担っていたと考えられる巨礫が5点重なりあうように出土している。巨礫は礫床の最も上面である棺床面に接するように出土している。

礫床は棺床面~小口穴検出面まで中礫が約30cmと厚く堆積し、木棺構築材固定の役割も兼ねていたものであろう。本址の礫床は中礫のみではなく、部分的に大礫も混じる。特に小口穴の周囲から上坑の下端までは大礫が集積的に出土した。

棺内にゆとりをもたせた遺体置き場を想定すると土坑に見合う安置場が構築されたことも考えられるが、礫の出土状況から他墓と同様に小口穴を端部とした遺体安置場が設けられていたと推測される。

本址は他墓よりも骨片の遺存状態が良好であったため、土砂の篩い分け作業を行った結果、人骨片約2kgを回収することができた。ほか、磨製石鏃1点がみつかったが、玉類等の発見には至らなかった。

5 土坑・ピット(第6・7表)

総数は72基、1次は上坑9基・ピット17基、2次は土坑10基・ピット36基である。分布をみると5住~平埴1の間によくが密集している。遺物が出土した土坑の数は樹籬かに過ぎず、また、切り合いから時期を推定できるものも少ない。以下特徴的な土坑について、記載していく。

1次 第1号土坑(第9図) A区北西に位置する。頸部の欠損した壺(117)が出土し、その底部に穿孔が観察された。祭りが行われた可能性を踏まえ、墓址の可能性を考慮して調査を行ったが、骨等は検出されなかった。

1次 第2号土坑(第9図) 1次土1の南に並列し、鉄分が多量に入る土坑である。墓址等の可能性を踏まえて調査をおこなったが、骨等は検出されなかった。

2次 第16号土坑 5住~平埴1の中間に位置する。主な覆土は青灰色粘土質で、その下層に集積層が1層認められ、本址底面から鉄分が付着する礫が多量検出された。これらのことから本址は井戸址と推定される。なお、本址覆土から灰釉陶器小杯が1点出土していることから本址埋没時期は平安時代後期以降と考えられる。

6 溝状遺構(第8・9表、第13図)

5基が検出された。1次溝1は調査区中央検出され、非常に浅く幅も狭い。規模・方向からは区画溝とは考え難い。2次溝1は住居内で途切れるが5住に切られている。2次溝2~4は調査区北部に平行に並ぶ一群として捉えることができる。いずれの溝も出土遺物が乏しく、滞水や流水痕跡はなく性格は不明である。

7 集石遺構

第1号集石遺構(第13図) 礫の範囲は3.2×2.0mを測り、深さ10cmを測る土坑に伴って検出された。構成する礫の密度は低く散在しており、φ10~20cmの礫が主体的に用いられている。礫は覆土上層で検出された1面のみで礫下には灰褐色砂質土の堆積が認められた。なお、小口穴は検出されていない。人為的な集石と考えられるが、墓址である可能性は低く、性格は不明である。

第1表 1次住居址一覧表

()は数値、深さは検出面からの最大値を示す

No.	地区	平面形	規模(cm)		床面積(m ²)	長軸方位	炉・カマド形態		主柱穴	遺構所見	時期
			長軸×短軸×深さ	種類・位置							
1位	A	楕丸長方形	492×388×21	21.6	N-9-E	地床炉・中央北径40cm 火床面はドーナツ状	6基 P1・2・3・4・5・6	柱穴が長方形に配置され、北端の柱間から炉趾が検出された。以上の形態は弥生時代後期によくみられる住居址形態である。北土層は比較的少ないが、遺物は住居址北壁から散発的に出土している。	弥生後期		
2位	B	円形	476×(390)×43	12.3	N-3-W	地床炉・中央や北径40cm	6基 P1・2、5~8	4~8位に認められる。本遺址土層は緑褐色粘質土で、全体に硝子・炭化物が散在する。床は黄褐色粘質土で三和土状の層を構成し、表面が粗粒化している。平均厚さ、深さ、25×16cmの遺物を検出。遺物は壁・床界に非常に豊富で、特に炉趾周辺に集中的に出土した。埋没石や埋没石散等が検出されている。	弥生中期後半		
3位	B	楕丸長方形?	(250)×(120)×40	3.0	不明	不明	1基	2位と類似する。本遺址の大平は調査区にかからず、検出されたコーナーから楕丸長方形を想定したが、明確な痕跡はない。ピットが1基検出され深さが950cm以上を測るため、柱穴とした。2位との切り合い関係から1位と同時期の住居址ではないかと考えられる。	弥生後期?		
4位	B	不明	(170)×(70)×38	0.5	不明	不明	不明	2位を切る、切り合い関係と遺構土から3位同様の時代を考えてもよいが、遺物の出土もな。3位よりも調査面積が狭い住居址であるため、これ以上は定かでない。	弥生後期?		

第2表 2次住居址一覧表

No.	地区	平面形	規模(cm)		床面積(m ²)	長軸方位	炉形態		主柱穴	遺構所見	時期
			長軸×短軸×深さ	種類・位置							
5位	A	円形	454×(432)×26	17.0	N-22-E	地床炉 2基 中央径40cm 1基火床面がドーナツ状	4基 P3・8・12	7位を切る。2基ある地床炉は切り合い関係を得られ、遺土の残存状況と遺土の堆積状況から炉趾を作り替えて炉1を構築したと考えられる。炉1と切り合い関係をつつP10は逆らった。2位同様の炭化物も検出される。炉趾の西側でP1(11)が、北部でP4(4)が、両方とも検出された。P1はP10と14基検出されたが、P2・7・9・11の5基は掘り進んで、深みに埋没した遺土と考えられるため、欠番とした。	弥生中期後半		
6位	A	不明	280×(138)×13	3.2	N-6-W	地床炉 2基 中央径40cm	不明	7位を切る。炉趾は2基とも層間で検出された。P10が出土しなかったことと地床炉と類似した。おそらく、地床と同様の規模を持つ炉趾であろう。ピットは2基検出されたが、柱穴と認められるものはなかった。P2は比較的大きい。深さ・形状は不明である。	弥生中期後半		
7位	A	不明	183×80 (硬化面遺留)	1.3	不明	不明	1基 P2	6位に切られる。大平が調査区外で、5位・6位に切られ遺構の上層はわからなかったが、埋没土は平層及び断面において明確に検出することができた。床面を削いだところで柱穴が検出された。P1から多量の炭化物が検出されており、炉趾の残存が考えられるが、炉趾自体は検出されなかった。	弥生中期後半		

第3表 1次掘立柱建物址一覧表

(数字)は種定値、<数字>は算定値

No.	地区	平面形 柱配り	主軸方位 面積(m ²)	規模 (cm)	柱間寸法 (cm)	柱穴			炉 形態・ 位置	備考	時期
						平面形	規模(cm)	柱径			
1	A	方形 側柱式	N-87-W 7.8 検出面積 12.04 全体推定 (25)	3間×1間 344×224	桁行120~160 梁間220~240	平面形 方形 円形	30~40		地床炉 中央	地床式建物址。または掘立柱式住居を掘立柱の間に扁平したか。	弥生中期後半?

第4表 2次平地式建物址一覧表

No.	地区	平面形	主軸方位 面積(m ²)	規模 (cm)	柱間寸法 (cm)	柱穴				炉 形態・ 位置	備考	時期
						平面形	主柱穴	支柱穴	柱径			
1	B	八角形	N-84-W 検出面積 12.04 全体推定 (25)	542×(284)	170~250	円形 一部楕円	P31・33・42・48	土15・P34・37 P41・50・49		有	壁面観察において掘り込みを伴った土層を確認している。柱穴と炉趾のみが検出されたため、平地式建物址とした。	弥生中期後半?

第5表 礎床木棺墓一覧表

墓No.	平面形	礎床面積(m ²)			礎床積		礎床厚み(cm)	土坑規模(m)					推定木棺規模(m)		主軸方位	埋葬方位	時期
		長	幅	礎床面積(m ²)	土坑周囲	木棺周囲		長	幅	上端～礎床比高(平均)	土坑面積(m ²)	床面積(m ²)	長	幅			
1	長方形	2.6	1.4	3.64	四方	あり	7	2.3	0.8	0.05	1.84	1.54	1.6	0.5	N-4-E	北の南	弥生中期後半
2	長方形	2.7	1.5	4.05	四方	あり	15	2.3	1.0	0.18	2.30	1.79	1.6	0.8	N-6-E	北の南	弥生中期後半
3	長方形	2.3	1.2	2.76	両隣	なし	10	2.2	1.0	0.04	2.20	1.80	1.8	0.7	N-69-E	東の西	弥生中期後半
4	長方形	2.8	2.1	5.88	四方	あり	30	2.6	1.6	0.20	4.16	2.99	1.5	0.7	N-95-E	東の西	弥生中期後半

第6表 1次土坑・ピット一覧表 (数字)残存値

No.	平面形	規模(cm)		備考	
		最大長×幅×深			
土坑	1	楕円	128×92×24	墓址か	
	2	長方形	156×94×16	墓址か	
	3	楕円	86×34×22		
	4	円	50×50×13		
	5	楕円	280×200×11		
	6	楕円	106×70×15		
	7	楕円	(110)×(40)×(24)	調査区外にかかる	
	8	楕円	280×110×6		
	12	楕円	100×70×15		
	ピット	1	円	43×36×9	遺1 炉
		2	円	22×22×8	
		3	円	35×30×10	
6		円	22×18×22		
7		円	17×15×15		
8		円	50×40×9		
9		円	40×30×21		
10		円	42×32×12		
11		円	48×34×11		
12		円	44×34×10		
13		楕円	70×50×9		
14	円	24×20×-			
15	円	22×21×-			
20	円	70×52×5			
21	楕円	36×28×14			
22	円	26×24×26	遺1 柱穴		
23	円	30×24×15	遺1 柱穴		

第7表 2次土坑・ピット一覧表

No.	平面形	規模(cm)		備考	
		最大長×幅×深			
土坑	1	楕円	64×30×11		
	2	楕円	44×34×7		
	4	不明	(28)×(28)×(22)	P27に切られる	
	5	楕円	38×24×52	柱穴か	
	6	円	50×42×30	柱穴か、検出面で遺出土	
	8	円	36×33×32		
	12	円	28×28×29		
	14	円	(80)×(38)×32	P28に切られる	
	15	円	54×54×42	平塚1の柱穴	
	16	楕円	184×130×89	平安時代の井戸址	
	ピット	1	円	28×28×25	
		2	円	28×26×25	
		5	円	20×20×21	
		6	円	24×23×27	
		7	円	34×30×33	
		8	円	30×24×22	
9		円	22×22×24		
11		楕円	36×24×30		
15		円	24×24×20		
16		円	12×(12)×12		
19		円	26×24×26		
20		円	22×20×28		
21		円	24×22×20		
23		円	24×24×19		
24	円	16×16×6			
25	円	(14)×(10)×24			
26	円	12×16×18	土14を切る		
27	円	40×32×16	土4を切る		
28	円	36×33×7			
30	円	20×18×8			
31	円	28×(20)×27	平塚1の柱穴		
32	楕円	47×(30)×10			
33	円	20×19×12	平塚1の柱穴		
34	楕円	38×28×24	平塚1の柱穴		
35	楕円	38×34×16			
36	円	21×19×7			
37	円	22×18×33	平塚1の柱穴		
38	円	35×34×6	平塚1の炉址		
39	円	33×33×10	平塚1の炉址		
40	円	(36)×34×8	平塚1の炉址		
41	円	26×22×34	平塚1の柱穴		
42	円	40×(32)×60	平塚1の柱穴、底面で土器出土		
44	楕円	32×24×9			
46	円	18×18×14	平塚1の柱穴		
49	長楕円	42×20×25	平塚1の柱穴		
50	楕円	56×28×25	平塚1の柱穴		

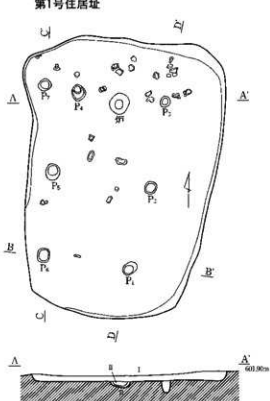
第8表 1次溝状遺構

No.	方向	規模(cm)	長×幅×深	備考
1	N-45-W	240×14×4		

第9表 2次溝状遺構

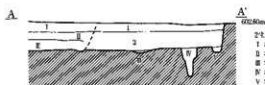
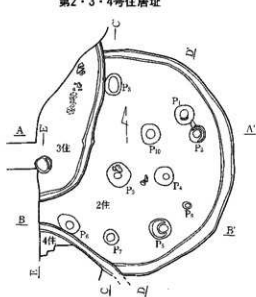
No.	方向	規模(cm)	長×幅×深	備考
1	N-35-W	445×30×10		5住に切られる
2	N-84-E	200×17×7		
3	N-84-E	540×22×10		2・3・4は平行に走る。
4	N-84-E	540×35×11		

第1号住居址



I: 黄褐色土
 II: 灰白色粘质土
 III: 粘土

第2・3・4号住居址



C' 10.00m

D' 10.00m

E' 10.00m

F' 10.00m

G' 10.00m

H' 10.00m

I' 10.00m

J' 10.00m

K' 10.00m

L' 10.00m

M' 10.00m

N' 10.00m

O' 10.00m

P' 10.00m

Q' 10.00m

R' 10.00m

S' 10.00m

T' 10.00m

U' 10.00m

V' 10.00m

W' 10.00m

X' 10.00m

Y' 10.00m

Z' 10.00m

AA' 10.00m

BB' 10.00m

CC' 10.00m

DD' 10.00m

EE' 10.00m

FF' 10.00m

GG' 10.00m

HH' 10.00m

II' 10.00m

JJ' 10.00m

KK' 10.00m

LL' 10.00m

MM' 10.00m

NN' 10.00m

OO' 10.00m

PP' 10.00m

QQ' 10.00m

RR' 10.00m

SS' 10.00m

TT' 10.00m

UU' 10.00m

VV' 10.00m

WW' 10.00m

XX' 10.00m

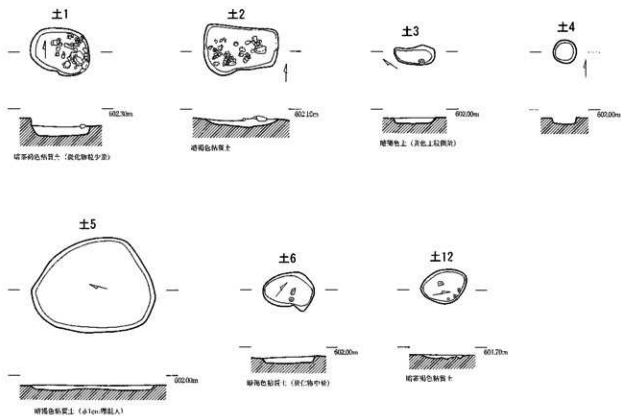
YY' 10.00m

ZZ' 10.00m

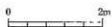
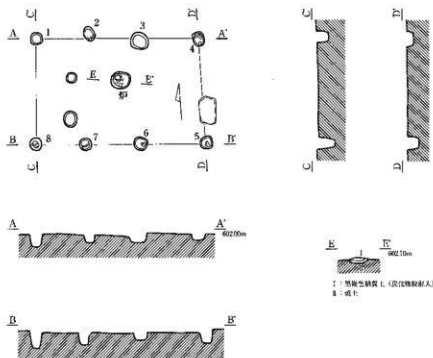
2住遺物出土状況



第8图 1次遺構(1)

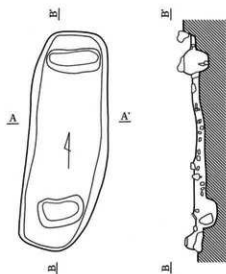


第1号掘立柱建物址

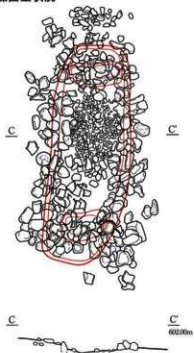


第9图 1次遺構 (2)

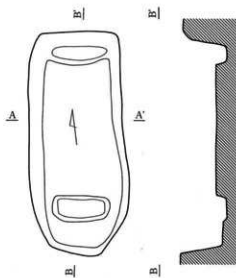
墓 1



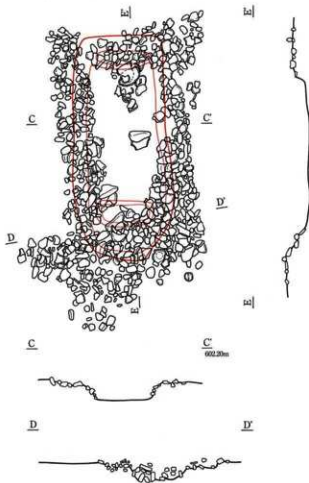
礎出土状況



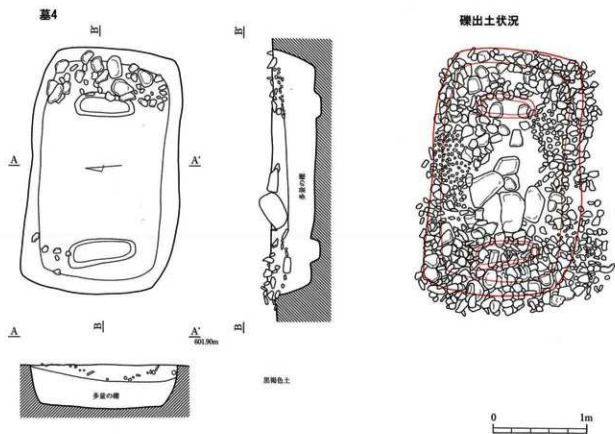
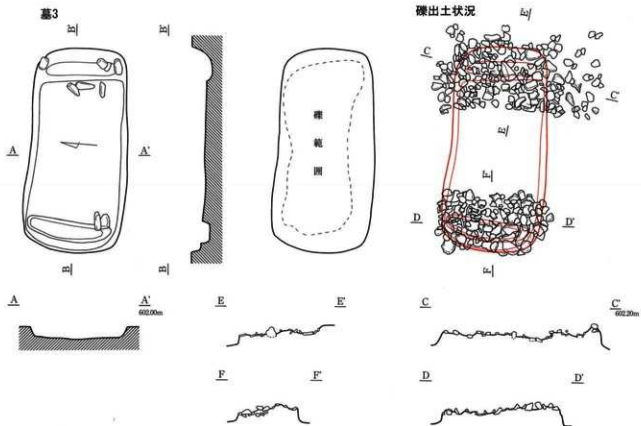
墓 2



礎出土状況

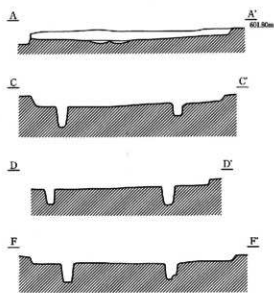
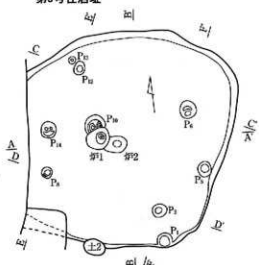


第10圖 1次遺構(3)

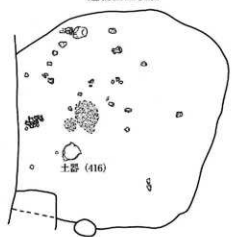


第11図 1次遺構(4)

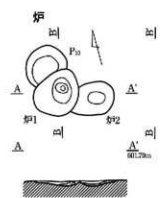
第5号住居址



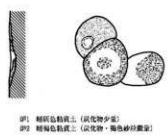
遺物出土状況



黄褐色土 (白色石灰多量 灰色土層少量 炭燻染)

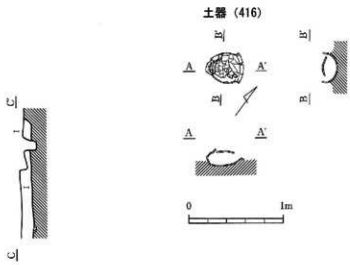
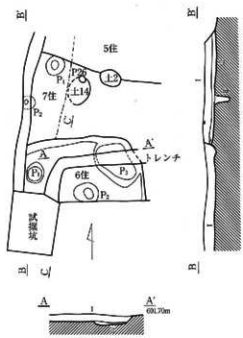


炭・焼土出土状況



P1: 軽褐色粘質土 (炭化物少量)
P2: 軽褐色粘質土 (炭化物・褐色砂り層)

第6・7号住居址

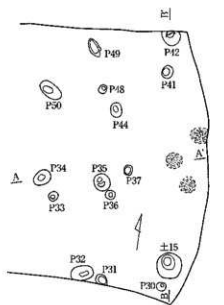


6号
I: 淡褐色土 (褐色土層少量 黄褐色土層少量)
II: 軽褐色土 (白色石灰多量 褐色土層少量)
7号
I: 黄褐色土
II: 白色石灰少量 褐色土層少量 黄褐色土層少量
III: 黄褐色土 (褐色土層少量が混入)
IV: 軽褐色土

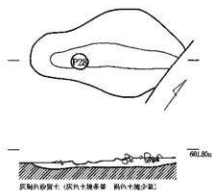


第12図 2次遺構 (1)

第1号平地式建物址



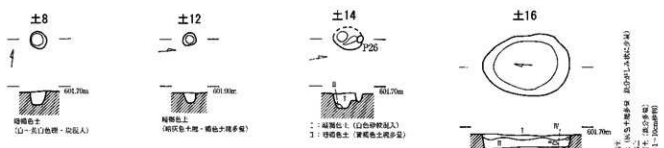
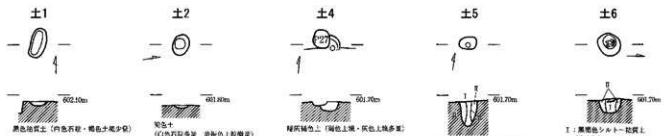
第1号集石遺構



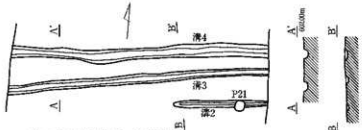
露出土状況



- I: 灰褐色粘質土 (褐色土層多量、灰色土層少量)
- II: 黄土
- III: 黄褐色粘質土 (黄褐色土層、灰褐色)
- IV: 灰褐色土 (黄褐色土層多量、灰色土層少量)
- V: 暗褐色土 (褐色土層多量)
- VI: 深褐色土 (多、20cm層多量、褐色土層、灰色土層少量)
- VII: 暗褐色土 (褐色土層多量)
- VIII: 黄褐色粘質土 (褐色土層少量)
- IX: 褐色土 (黄褐色土層少量、暗褐色土層少量)



第2・3・4号溝状遺構



- 溝2: 灰褐色土 (褐色土層多量、白色石灰少量)
- 溝3: 暗褐色土 (黄褐色土層多量、灰色土層少量)
- 溝4: 褐色土 (暗褐色土層、褐色土層多量、白色石灰少量)

第1号溝状遺構



第13図 2次遺構 (2)

第3節 遺物

1 土器・土製品 (第14~24図、第10表)

山上土器・土製品の総量は1次調査243.8kg、2次調査24.7kg、計268.5kgである。内訳は、多量の弥生土器と微量の縄紋土器片、古墳時代の土師器、数点の上製品に区分される。弥生土器のほとんどは弥生時代中期後半から中期末に属するもので、わずかに弥生時代後期のものが混じっている。接合、図化実測できたものは458点で、これらを中心にして土器様相を観察した。

(1) 縄紋土器

図化できたものはないが、厚手で条痕状の沈線が窺える。縄紋時代中期末葉に属すると考える。弥生時代の包含層形成以前に該期の遺構か生活痕があったのか、氾濫等で流入したものかの判断はつかない。

(2) 弥生土器

ア 器種・器形

壺形土器(以下「形土器」は省略する。)、甕、高杯、鉢、甗がある。壺と甕は図化できた個体数が多く、口縁部形態で分類が可能である。壺Aと甕Aは口縁が外反、壺Bと甕Bは受け口や有段口縁を呈す。甗、甕の紋様には櫛描紋と篋描紋があり、高杯、鉢は赤彩が施される。

イ 時期

中期後半~中期末

ほとんどの弥生土器がこの時期に属する。器種・器形、形態、紋様構成などは土器型式では従来、粟林式土器と呼称されているものに等しい。紋様等からみると全体的に壺に櫛描紋が多用されるなど粟林式の終末期に近い様相に相当すると考えるが、82や272、400など若干古い要素をもつものも散見される。本時期の土器は個々の器形、紋様から見ると当地域の該期の豊富な土器様相を示す良好な資料といえるが、一括性・同時性という点においては2住や5件、墓址当の限られた遺構出土品を除き後述のとおり残念ながら参考資料にすぎない。

後期

5、16、18、36、128、325、372が該当する。128は壺の頸部破片であるが、後期に特徴的な櫛描紋であるT字紋が変化したJ字紋が認められる。16、36は甕で口縁部が長く伸びている点で中期のものと区別できる。

ウ 土器群

遺構出土の土器群を考察することによって遺構の時期を探ることは通常の場合有効な方法であるが、今回の1次調査区は弥生時代中期後半~末の遺物を大量に含む包含層が全体的に発達しており、それ以降の遺構の覆上にも当該期の遺物が一緒に混入している。従って遺構から出土した土器群の総体的な様相をもって遺構の時期とするのは困難なものもある。しかし、遺物の出土地点を明らかにする必要性から各遺構出土土器群として提示し記述する。遺構の時期決定は山上土器の様相と遺構そのものの形態的特徴によって行った。

1 住出土土器群 (第14・15図1~39)

第1号住居址覆土とその上部の包含層から出土(1~22)、本址刈開の包含層から出土(23~39)したものである。ほとんどが弥生時代中期後半のものであるが、16、36に弥生後期の壺がみられる。大半を占める中期後半のものは出土状況から本址の埋没時期を示しているとは考えられない。

2 住出土土器群 (第15~17図40~115)

第2号住居址の覆土、床面から出土した。出土状況から明らかに本址に帰属するものであり、非常に良好な一括資料と認められる。器種組成は高杯、鉢、甗、甕、台付甕で構成され、当地域での弥生中期後半~末の土器様相、紋様構成等をよく示している。

5 住出土土器群 (第23・24図 402~430)

第5号住居址の覆土、床面から出土し、その状況から明らかに本址に帰属する一括資料である。すべて弥生中期後半~末の土器である。

6 住出土土器群 (第24図 431)

総量は少なく、1点を図化できたに過ぎない。弥生中期後半~末の上器と考える。

建1出土土器群 (第18・19図 141~189)

量は多く、柱穴範囲内、柱穴範囲に隣接、柱穴範囲周辺の各包含層から出土した。すべて弥生中期後半~末に属する。包含層出土品であり出土状況も決定的なものはないが、本址の帰属時期を示すものと捉えたい。

土坑出土土器群 (第18図 116~140)

1次調査区の土坑1・2とその周辺及び2次調査区の土坑6から出土した。弥生中期後半~末がほとんどであるが128は後期の壺である。土坑1は底部穿孔の壺(117)を伴っており中期に属すると考えるが、他はすべて覆土、包含層出土品で、弥生中期後半~末がこれらの土坑の埋没時期を示しているかは定かではない。

墓1出土土器群 (第20図 206~223)

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半~末の土器である。南側の内部からは壺の大形破片(207・214・215)が出土している。

墓2出土土器群 (第19図 190~205)

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半~末の土器である。北側の内部に壺・甕の大形破片(197・203・205)が集中していた。

墓3出土土器群 (第20図 224~241)

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半~末の土器である。西側の礫集積に混じる様に集中して壺・甕・鉢の大形破片(224~228・230~235・238~240)が出土している。

墓4出土土器群 (第20図 242~257)

上層と内部から出土した。他の墓址に比べて小破片が多い。すべて弥生中期後半~末の土器である。

墓址周辺包含層出土土器 (第21図 258~324)

集中して存在する礫床木棺墓の周囲の包含層から多量に出土しているため、他の包含層と区別して図示した。すべて弥生中期後半~末の土器である。

包含層出土土器 (第22・23図 325~392)

遺構に伴わない包含層出土品を扱う。多量の出土があり、大半は破片だがまれに385のような一括品もある。弥生中期後半~末に属するものがほとんどだが、325、372のような弥生後期の上器がわずかに混じている。

(3) 土師器 (第24図 448・449・457)

2次調査区の古墳時代土器出土地点からわずかに出土し、3点を図示できた。いずれも古墳時代前期から中期に属する壺の破片である。弥生中期後半~末の包含層を切り込んでこの時期の小規模な遺構が存在したか、何らかの生活痕跡があった可能性を示す資料といえる。

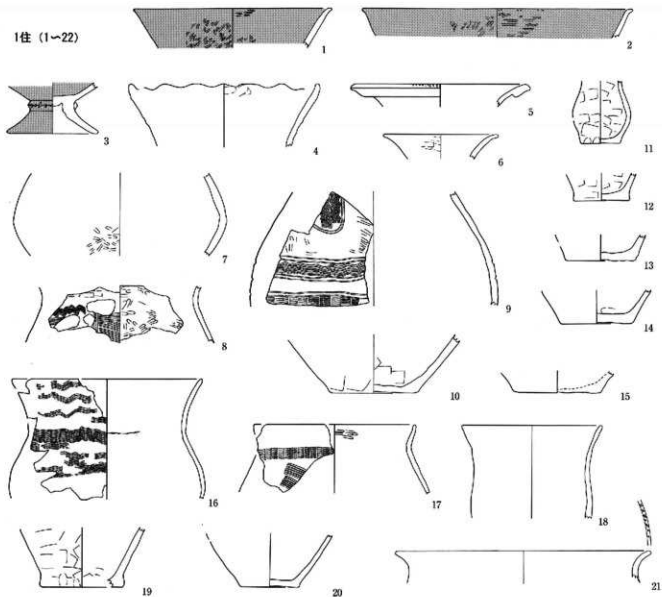
(4) 灰釉陶器

2次調査区の土坑16から破片が出土したが図示していない。10世紀代以降のものと考えられる。

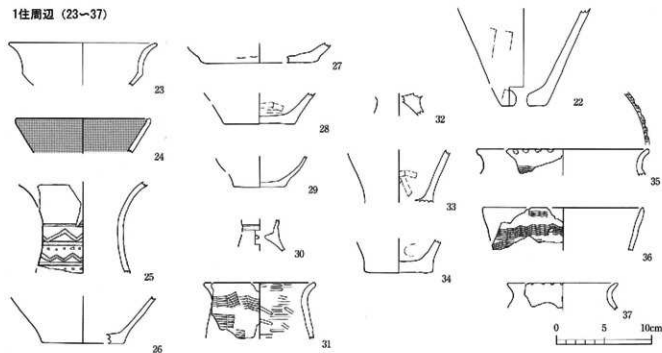
(5) 土製品 (第17図 108、115、第20図 241、第21図 289、第22図 344、第24図 430)

108は2住の覆土中から出土した注口状土製品だが弥生土器に類例は少なく、本住居址出土土器群に伴うものかは疑問である。115も2住出土だが土器片を転用した土製円盤で紡錘車であろう。241は耳飾状土製品で墓3から出土しており本址に伴うものである。289の土製有孔土製品は外周を欠いているが焼成後の土器片に穿孔したとみられるもので有孔円盤の可能性もある。344、430は用途不明の土製品である。

1住 (1~22)



1住周辺 (23~37)



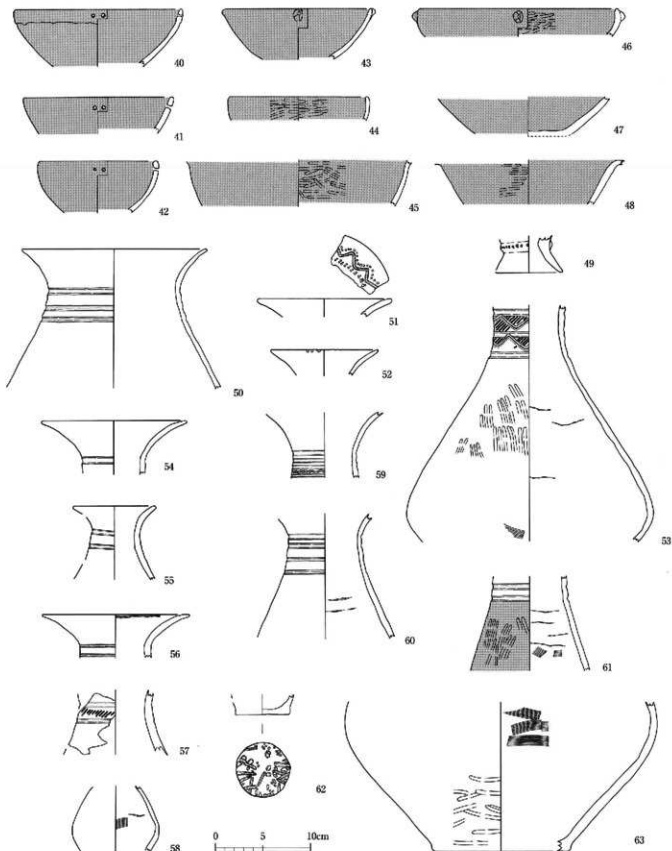
0 5 10cm

第14図 土器・土製品 (1)

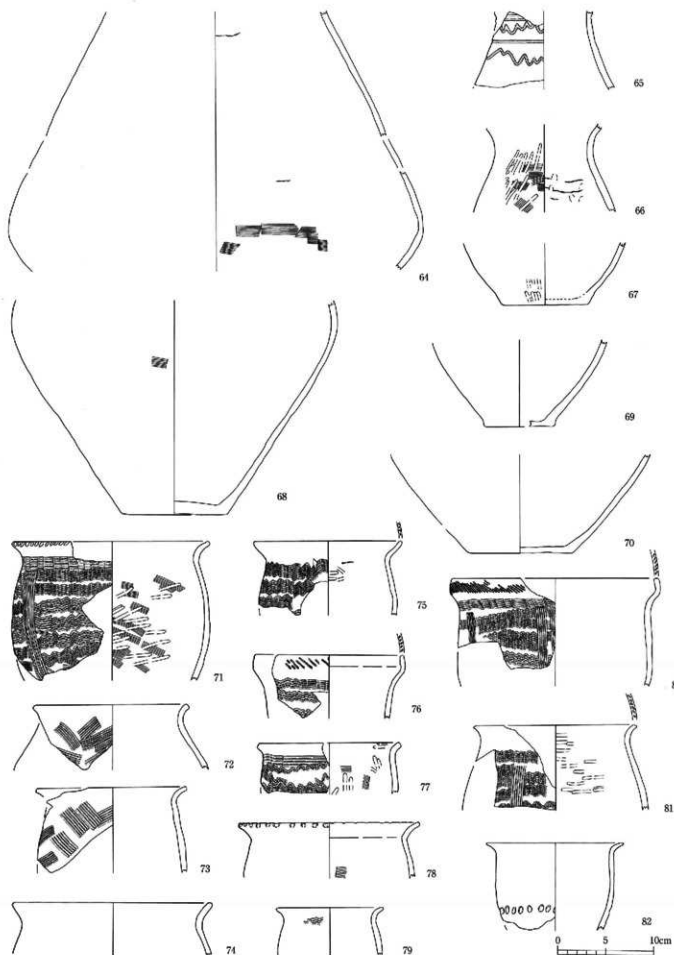
1住 試掘トレンチ (38・39)



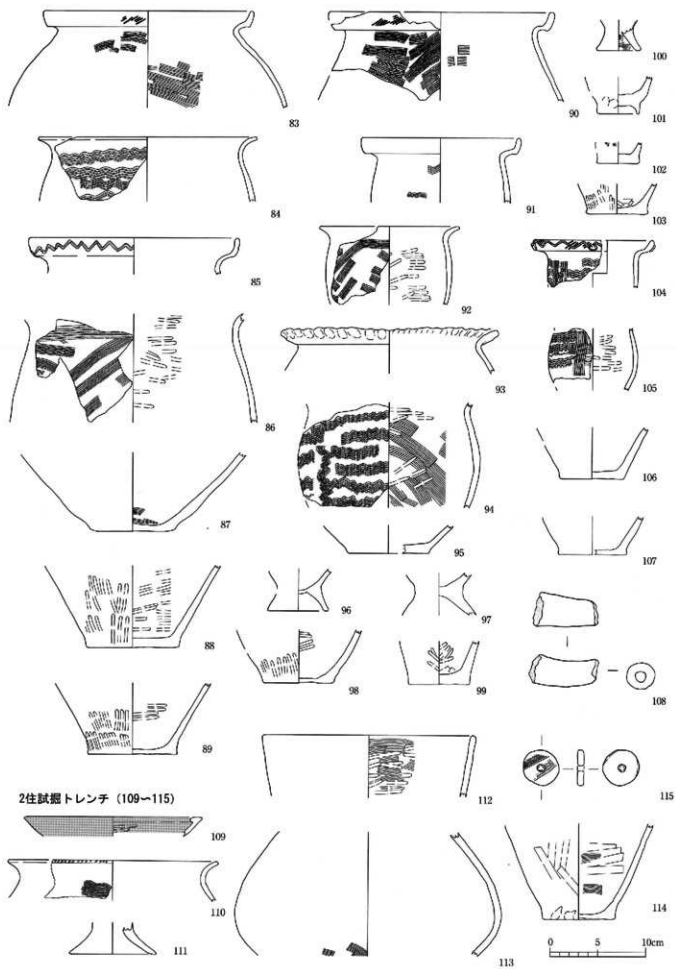
2住 (40~108)



第15図 土器・土製品(2)

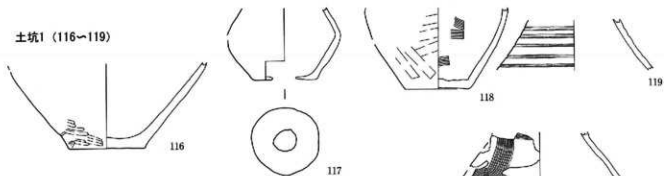


第16図 土器・土製品(3)

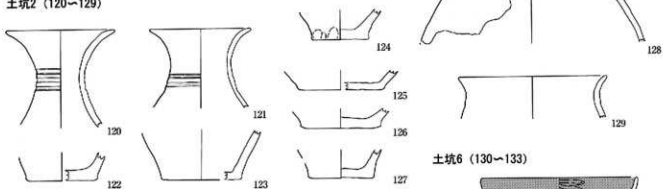


第17図 土器・土製品(4)

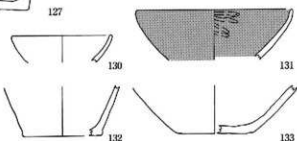
土坑1 (116~119)



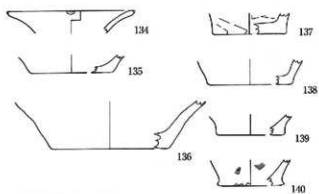
土坑2 (120~129)



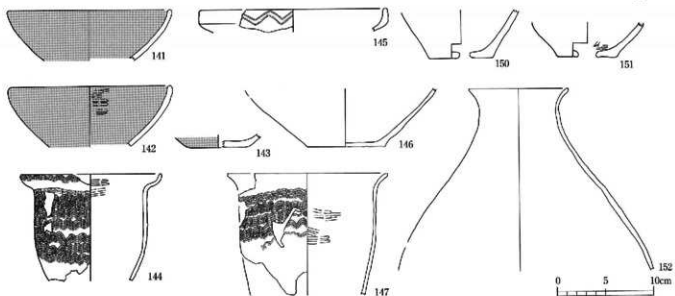
土坑6 (130~133)



土坑1・2周辺 (134~140)



建物内 (141~152)

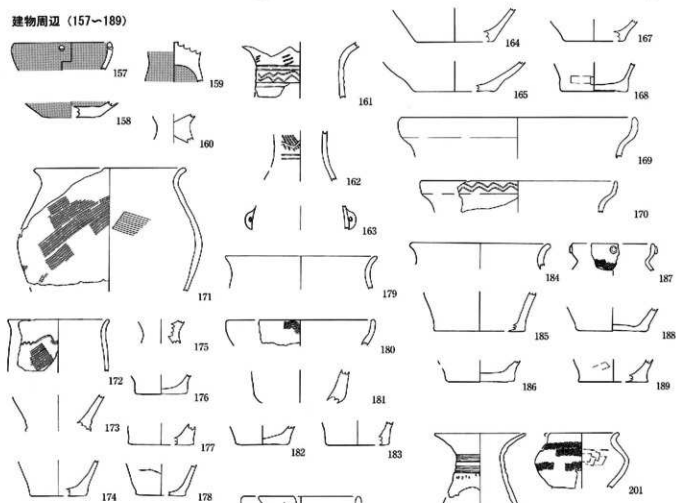


第18図 土器・土製品(5)

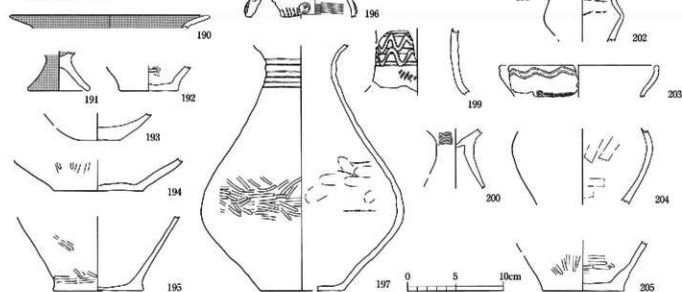
建物外 (153~156)



建物周辺 (157~189)

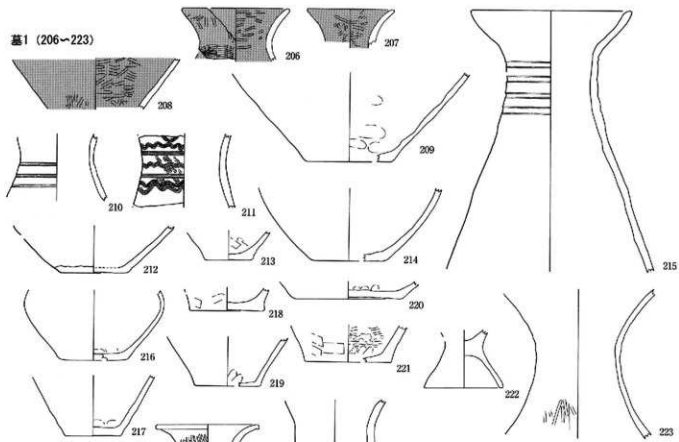


墓2 (190~205)

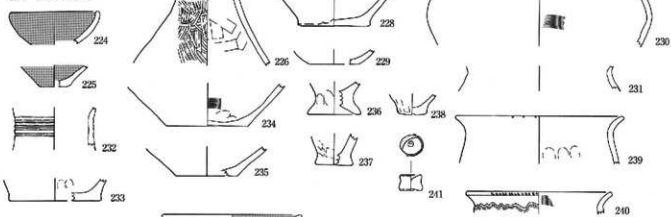


第19図 土器・土製品(6)

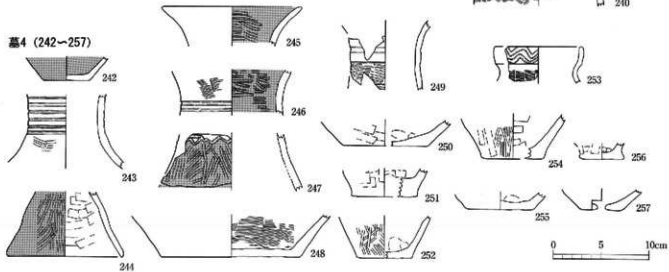
墓1 (206~223)



墓3 (224~241)

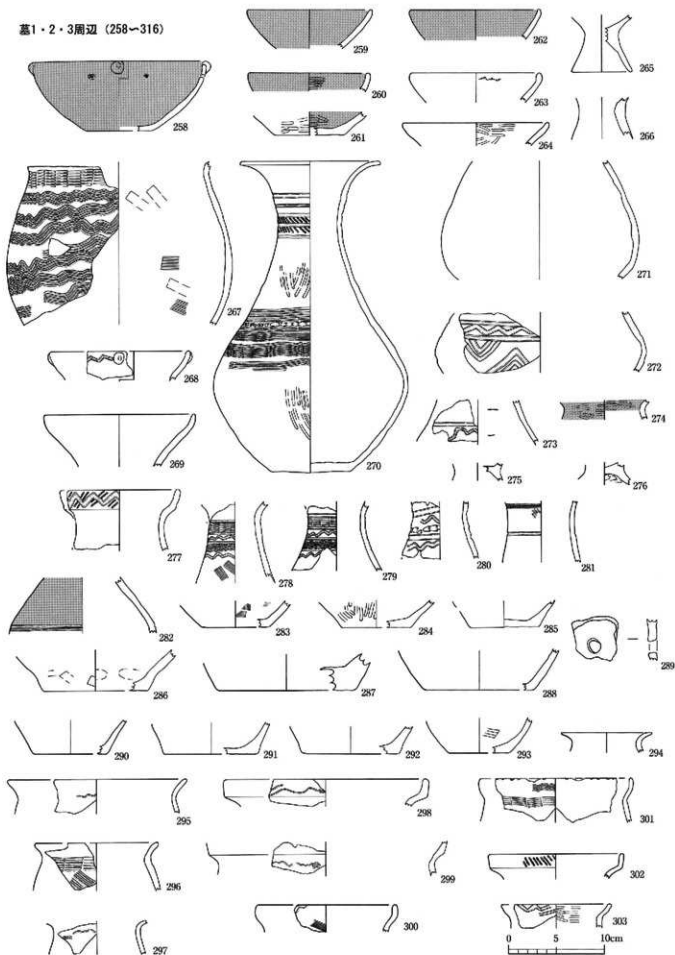


墓4 (242~257)

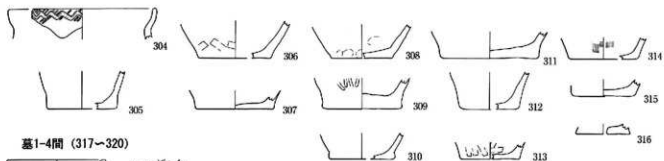


第20図 土器・土製品(7)

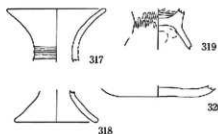
高1・2・3周辺 (258~316)



第21図 土器・土製品(8)



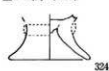
基1-4間 (317~320)



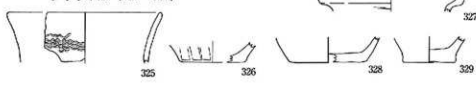
基4周辺 (321~323)



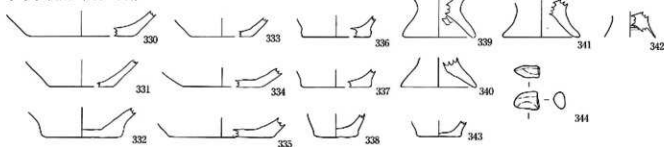
基1-2間 (324)



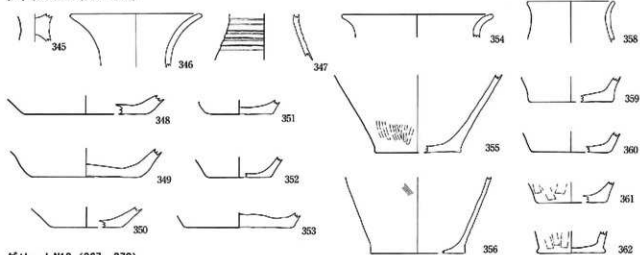
グリットN3 (325~329)



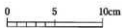
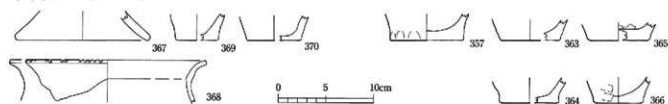
グリットN12 (330~344)



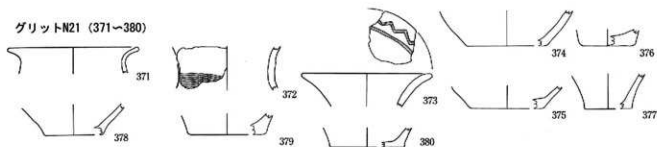
グリットN15 (345~366)



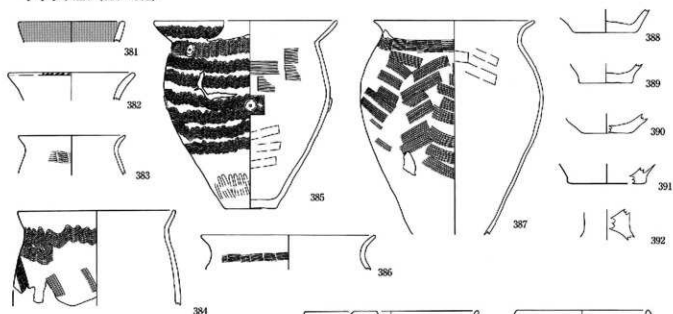
グリットN18 (367~370)



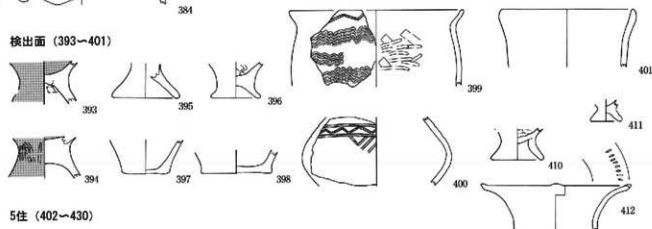
グリットN21 (371~380)



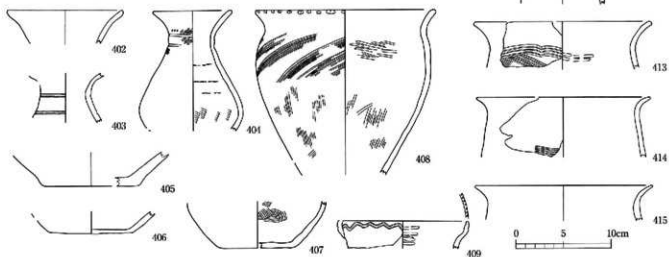
グリットN24 (381~392)



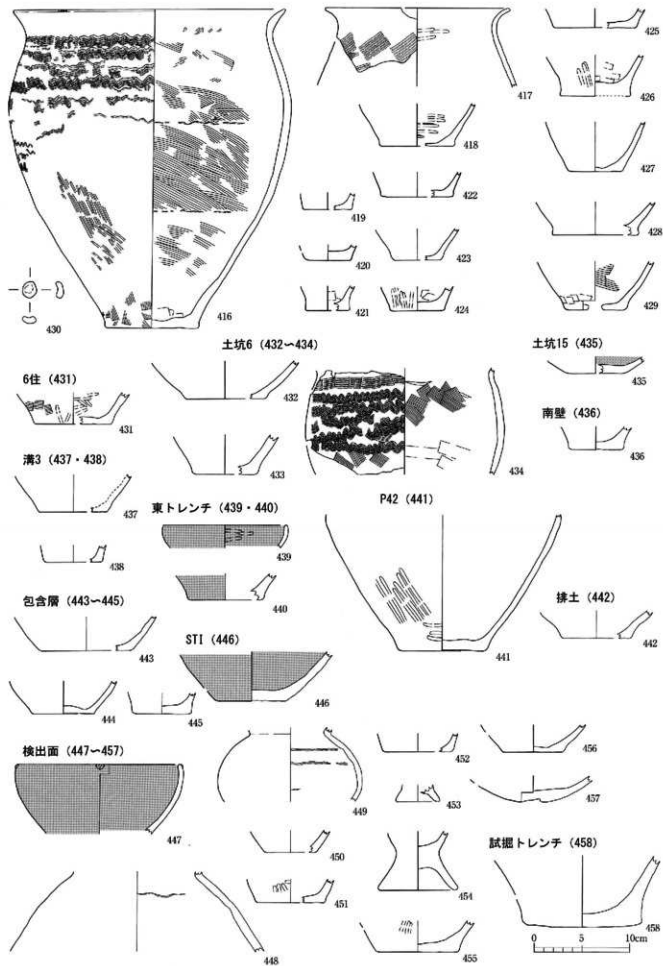
検出面 (393~401)



5住 (402~430)



第23図 土器・土製品 (10)



第24図 土器・土製品 (11)

第10表 土器観察表

番号	種別	形式	寸法	作成年代	産地	土質	伊土	紋様・調整		実測 No.	作記	備考
								外周	内周			
1	1位	高杯	(21.6)	11/8	外赤褐色、内褐色	赤褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、ナダのちミガキのち赤影	ナダのちミガキのち赤影	1位-6	1位-008 36300-044	内外赤影	
5	1位	高杯	(22.0)	11-25	外赤褐色、内赤褐色	赤褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、ナダのちミガキのち赤影	ナダのちミガキのち赤影	1位-7	1位-010	内外赤影	
3	1位	高杯	(19.7)	11-25	外赤褐色、内赤褐色	赤褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、ナダのちミガキのち赤影	ナダのちミガキのち赤影	1位-3	1位-008	内外赤影	
4	1位	高杯	(20.0)	口1/8	褐色	褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、ミガキ(ナダ方面)厚縁	口縁ヨコナダ、ミガキ(ナダ方面)厚縁	1位-17	1位-008	口縁部18度位?	
5	1位	高杯	(19.0)	口一帯	褐色	褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダのちミガキ、工具によるナダ(厚縁)	口縁ヨコナダのちミガキ、工具によるナダ(厚縁)	1位-10	1位-010	赤生体系	
6	1位	高杯	(12.2)	11-25	褐色	褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	1位-9	1位-012		
7	1位	高杯		口一帯	褐色	褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	1位-15	1位-011, 012, 013		
8	1位	高杯		口一帯	褐色	褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	1位-13	1位-008		
9	1位	高杯		口一帯	褐色	褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	1位-16	1位-014		
10	1位	高杯	(8.0)	口1/2	褐色	褐色、灰色、赤	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	口縁ヨコナダ、工具によるナダ	1位-1	1位-008, 009, 040, 041, 042, 043, 044, 045, 046, 047, 048, 049, 050, 051, 052, 053, 054, 055, 056, 057, 058, 059, 060, 061, 062, 063, 064, 065, 066, 067, 068, 069, 070, 071, 072, 073, 074, 075, 076, 077, 078, 079, 080, 081, 082, 083, 084, 085, 086, 087, 088, 089, 090, 091, 092, 093, 094, 095, 096, 097, 098, 099, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 578, 579, 580, 581, 582, 583, 584, 585, 586, 587, 588, 589, 590, 591, 592, 593, 594, 595, 596, 597, 598, 599, 600, 601, 602, 603, 604, 605, 606, 607, 608, 609, 610, 611, 612, 613, 614, 615, 616, 617, 618, 619, 620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627, 628, 629, 630, 631, 632, 633, 634, 635, 636, 637, 638, 639, 640, 641, 642, 643, 644, 645, 646, 647, 648, 649, 650, 651, 652, 653, 654, 655, 656, 657, 658, 659, 660, 661, 662, 663, 664, 665, 666, 667, 668, 669, 670, 671, 672, 673, 674, 675, 676, 677, 678, 679, 680, 681, 682, 683, 684, 685, 686, 687, 688, 689, 690, 691, 692, 693, 694, 695, 696, 697, 698, 699, 700, 701, 702, 703, 704, 705, 706, 707, 708, 709, 710, 711, 712, 713, 714, 715, 716, 717, 718, 719, 720, 721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 730, 731, 732, 733, 734, 735, 736, 737, 738, 739, 740, 741, 742, 743, 744, 745, 746, 747, 748, 749, 750, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 766, 767, 768, 769, 770, 771, 772, 773, 774, 775, 776, 777, 778, 779, 780, 781, 782, 783, 784, 785, 786, 787, 788, 789, 790, 791, 792, 793, 794, 795, 796, 797, 798, 799, 800, 801, 802, 803, 804, 805, 806, 807, 808, 809, 810, 811, 812, 813, 814, 815, 816, 817, 818, 819, 820, 821, 822, 823, 824, 825, 826, 827, 828, 829, 830, 831, 832, 833, 834, 835, 836, 837, 838, 839, 840, 841, 842, 843, 844, 845, 846, 847, 848, 849, 850, 851, 852, 853, 854, 855, 856, 857, 858, 859, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 867, 868, 869, 870, 871, 872, 873, 874, 875, 876, 877, 878, 879, 880, 881, 882, 883, 884, 885, 886, 887, 888, 889, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896, 897, 898, 899, 900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 910, 911, 912, 913, 914, 915, 916, 917, 918, 919, 920, 921, 922, 923, 924, 925, 926, 927, 928, 929, 930, 931, 932, 933, 934, 935, 936, 937, 938, 939, 940, 941, 942, 943, 944, 945, 946, 947, 948, 949, 950, 951, 952, 953, 954, 955, 956, 957, 958, 959, 960, 961, 962, 963, 964, 965, 966, 967, 968, 969, 970, 971, 972, 973, 974, 975, 976, 977, 978, 979, 980, 981, 982, 983, 984, 985, 986, 987, 988, 989, 990, 991, 992, 993, 994, 995, 996, 997, 998, 999, 1000		

番号	地点	形式	用途	高さ	寸法	現在度	色調	彫刻	紋様・彫刻		実測地	登記	備考
									外部	内部			
44	2位	鉢			(14.6)	口1/7	外褐色～赤褐色、内褐色～赤褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁コナナギ、ミガキ(コナ方向)のち彫刻	ミガキ(コナ方向)のち彫刻	2位 24	2位-045	内外赤彫
45	2位	高鉢				胴部片	外褐色～赤褐色、内褐色～赤褐色	石瓦、褐色、灰色、黄色、黄～砂粒	ミガキのち赤彫(厚紙)	ミガキ(コナ方向)のち彫刻	2位-26	2位-041	内外赤彫
46	2位	鉢			(19.0)	口1/10	外褐色～赤褐色、内赤褐色～赤褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁コナナギ、4稜状突起彫刻のちナギ、ミガキのち赤彫(厚紙)	ミガキ(コナ方向)のち彫刻	2位 25	2位-046	内外赤彫
47	2位	鉢				胴下部片	外褐色～暗茶褐色、内灰色～暗茶褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキのち赤彫(厚紙)	ミガキのち赤彫(厚紙)	2位-21	2位 027	内外赤彫
48	2位	蓋鉢				胴部片	外褐色～赤褐色、内褐色～赤褐色	石瓦、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	ミガキのち赤彫(厚紙)	ミガキ(コナ方向)のち彫刻	2位-27	2位-046-050	内外赤彫
49	2位	高鉢			(7.1)	胴1/2	外褐色～褐色、内赤褐色～赤褐色	石瓦、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	凸凹彫刻のちナギ、ミガキ(厚紙)、コナナギ	タテ(厚紙)、ミガキ(厚紙)	2位 60	2位-006	内外赤彫?
50	2位	蓋	A		(9.4)	口1/2	褐色～暗褐色	石瓦、褐色、灰色、黄色、黄～砂粒	口縁コナナギ、胴部模刻、厚紙	厚紙	2位 64	2位-009-030	
51	2位	蓋	A		(14.0)	口1/3	褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁コナナギ、厚紙	斜線状、山形凸線状、二本刃の刻突状	2位-45	2位 018	
52	2位	蓋	A		(11.2)	口1/4	茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁コナナギのちナギ、厚紙	厚紙	2位 44	2位-041	
53	2位	蓋	A			胴部大	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁R、Rコナ方向、横溝状、ミナ形凸線状、胴部ミガキ(タテ方向)ナギ	ナギ(厚紙)	2位-30	2位-023-026-1-026-2、 既T1-008	
54	2位	蓋	A		(15.1)	口1部	褐色	褐色、灰色、黄色、黄～砂粒	口縁コナナギ、胴部模刻、何れかの紋様(厚紙)	厚紙	2位-6	2位-019	
55	2位	蓋	A		(9.0)	口1部	褐色	褐色、灰色、白色、黄色、黄～砂粒	口縁コナナギ、厚紙、胴部模刻	厚紙	2位-05	2位 019	
56	2位	蓋	A		(11.4)	口1/2	茶褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁コナナギ、厚紙、胴部模刻	山形凸線状、厚紙	2位-07	2位 011	
57	2位	蓋				胴部片	灰褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、胴部Rコナ方向、後部模様	ナギ(厚紙)	2位-61	2位-033	
58	2位	蓋				胴部片	灰褐色～暗褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙	上部彫刻、中部ハケメ	2位-52	2位-030	
59	2位	蓋				胴部片	褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、胴部模刻、波状紋	厚紙	2位-38	2位 025	
60	2位	蓋				胴部片	黄褐色～茶褐色	石瓦、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	厚紙、胴部模刻	厚紙	2位 68	2位-009	
61	2位	蓋				胴部片	灰褐色～暗褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、胴部模刻、胴部ミガキ(タテ方向)	上部彫刻、下部ハケメ	2位-39	2位-023	外面赤彫?
62	2位	蓋				高筒	褐色～暗褐色	石瓦、褐色、灰色、黄色、黄～砂粒	上段にミナナギ、胴部模刻、胴部ハケメ(タテ方向)より波状	ナギ(厚紙)	2位-29	2位 017	
63	2位	蓋			(14.6)	底	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、下部にミガキ(コナ方向)、底ナギ	ハケメ、ナギ	2位 43	2位-023-024-047-049、 既T1-007	内面上部に 赤色彫刻付 蓋
64	2位	蓋				胴部大	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙	上部彫刻、下部ハケメ	2位-20	2位-022-023-026-1-026-2-027-037-041-044-046-049、 既T1-007-008	
65	2位	蓋				胴部片	褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	胴部模刻、山形凸線状、厚紙	厚紙	2位 48	2位 025-046	
66	2位	蓋				胴部片	褐色～暗茶褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	ハケメのちミガキ(タテ方向)	ナギ	2位-16	2位-002	
67	2位	蓋				底1/2	黄褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキ(タテ方向)	厚紙	2位-3	2位 007	
68	2位	蓋			11.4	底1/2	黄褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙(ミガキ方向)、ハケメ、厚紙、底部ナギ	ナギ(厚紙)	2位 31	2位-017-018-1-023、 既T1-007-008	
69	2位	蓋			(7.4)	底1/4	灰褐色～暗褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	厚紙、底部厚紙	厚紙	2位-55	2位 027-038-046	
70	2位	蓋			11.2	底1/2	黄褐色～暗褐色	石瓦、褐色、灰色、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	厚紙、底部厚紙	厚紙	2位-53	2位-022-025-1-047	
71	2位	蓋	A		(20.6)	口1/2	灰褐色～暗褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁コナナギのちナギ、胴部模刻、胴部ハケメのち波状のちナギ	ハケメのちミガキ(コナ方向)	2位-67	2位 023-047-049-049、 既T1-008	
72	2位	蓋	A		(16.0)	口1/5	褐色～灰色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁コナナギ、胴部模刻	厚紙	2位-15	2位-013	縦熱による 赤みあり
73	2位	蓋	A		(13.6)	口1部	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁コナナギ、胴部模刻	厚紙	2位-15	2位 014-017	縦熱による 赤みあり
74	2位	蓋	A		(20.8)	口1/5	黄褐色～茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁コナナギ、厚紙	厚紙	2位-5	2位-017-021	既T1-007
75	2位	蓋	B2		(15.4)	口1/3	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁R、Rコナ方向、口縁コナナギ、波状紋	ミガキ	2位-11	2位-018-1-046	
76	2位	蓋	B1		(18.6)	口1/6	黄褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁R、Rコナ方向、口縁コナナギ、R、Rコナ方向、波状紋、波状紋	厚紙	2位-16	2位-047	
77	2位	蓋	A		(14.8)	口1/2	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁コナナギ、胴部模刻、波状紋	ハケメのちミガキ(コナ方向)	2位 8	2位-013	
78	2位	蓋	A		(18.8)	口1/4	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁部による厚紙、厚紙	厚紙、下部ハケメ	2位-13	2位-018-1	
79	2位	蓋	A		(19.8)	口1/4	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁コナナギ、波状紋	厚紙	2位-42	2位-050	
80	2位	蓋	B1		(21.6)	口1/3	黄褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁コナナギ、波状紋	厚紙	2位 17	2位-002-004-009	
81	2位	蓋	A		(16.6)	口1/5	黄褐色～暗茶褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁R、Rコナ方向、波状紋の波状紋	ミガキ(コナ方向)	2位 47	2位-025-045-046	
82	2位	蓋	A		(14.3)	口1/2	褐色～暗茶褐色	石瓦、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁コナナギ、厚紙、胴部模刻	厚紙	2位-66	2位 013-043-047、 既T1-008	
83	2位	蓋	B1		(22.0)	口1部	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁部彫刻(厚紙)、口縁コナナギ、R、Rコナ方向、胴部模刻、波状紋	厚紙、下部ハケメ	2位-19	2位-001-002-012	
84	2位	蓋	A		(22.8)	口1/12	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁コナナギ、波状紋	厚紙	2位 12	2位-026-1	

番号	地点	形式	寸法	残存状況	色調	加工	状態・備注	内部	測長	発掘	備考	
			縦高：白径	底径			外面					
86	2位	壺	B1	(22.0)	口1/5 底2/3	淡褐色～茶褐色 褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒 石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	1) 薄緑(緑斑)、1層ヨコナツテ、薄緑(厚緑)のちヘラシロ形状、厚緑 伊吹山遺跡、調布器式土器	厚緑	2位-7	2位-002-008	
88	2位	壺		(9.0)	底2/3	褐色～暗褐色	小灰、褐色、灰色、白色、黄～粉粒	厚緑、足部厚緑	ミガキ(ヨコ方向)	2位-62	2位-011、011-008	
89	2位	壺		(9.0)	底2/4	淡褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	ミガキ(タテ方向)、底部ナツテ	ミガキ(ヨコ方向)	2位-34	2位-024、047T-008	
90	2位	壺	B1	(23.0)	口1/12	褐色～赤褐色	褐色、灰色、白色、黄～粉粒	1) 薄緑(厚緑)、1層ヨコナツテ、1層ヨコ方向、ヨコナツテ、緑羽状	ミガキ(ヨコ方向)	2位-1	2位-026-1-026-2-037	
91	2位	壺	B1	(18.0)	口1/2	灰褐色～褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	1) 緑ヨコナツテ、厚緑、銅線状	厚緑	2位-9	2位-068-047	
92	2位	壺	A	(14.0)	口蓋	茶褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	1) 緑ヨコナツテ、底部厚緑、銅線状、銅線羽状土器	ミガキ(ヨコ方向)	2位-14	2位-041	
93	2位	壺	A	(22.7)	111/5	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、茶色、黄～粉粒	1) 緑強い層ヨコナツテ、厚緑	厚緑	2位-43	2位-020	
94	2位	壺			残骸片	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～粉粒	灰粒状のち蓋下状	ハクメのちミガキ(ヨコ方向)	2位-09	2位-026-1-041、041T-008	
95	2位	壺		(8.0)	底1/2	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	二層によるナツテ(厚緑)、底部ナツテ	ナツテ(厚緑)	2位-34	2位-024	
96	2位	当付蓋?		6.4	底蓋	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、茶色、黄～粉粒	厚緑、ヨコナツテ	厚緑	2位-58	2位-047	
97	2位	当付蓋?			杯底残片	褐色	褐色、灰色、茶色、黄～粉粒	厚緑	ミガキ(厚緑)	2位-35	2位-030	
98	2位	壺		7.3	底蓋	淡褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	ミガキ(タテ方向)、底部灰白色の土器のちナツテ	ミガキ(ヨコ方向)	2位-57	2位-026-1	
99	2位	壺		(6.5)	底1/4	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	ミガキ(タテ方向)、底部ナツテ	上層によるナツテのちミガキ(ヨコ方向)	2位-33	2位-018 2	
100	2位	当付蓋		(4.0)	底1/3	褐色	石灰、褐色、灰色、茶色、黄～粉粒	厚緑、ヨコナツテ	ハクメ	2位-36	2位-037	
101	2位	当付蓋		4.4	底1/3	褐色	石灰、褐色、灰色、茶色、白色、黄～粉粒	指ナツテ、ヨコナツテ	ナツテ	2位-60	2位-046	
102	2位	壺		4.1	底蓋	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、茶色、黄～粉粒	何らかの紋様、底部何らかの厚緑のちナツテ	ナツテ	2位-58	2位-050	
103	2位	壺		6.5	底2/3	褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	ミガキ(タテ方向)、底部厚緑	T具によるナツテ	2位-4	2位-024	
104	2位	壺	B1	(12.0)	口1/4	褐色～茶褐色	黄土、褐色、灰色、白色、黄～粉粒	1) 緑ヨコナツテ、1層ヨコ方向のち1層厚緑のちミガキ(タテ方向)状、銅線状、銅線羽状のち蓋下状のちナツテ	厚緑	2位-11	2位-003	
105	2位	壺			杯底片	褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	灰粒状のち蓋下状	ミガキ(ヨコ方向)	2位-51	2位-047-018	
106	2位	壺		6.9	底1/3	褐色～灰色	褐色、灰色、白色、黄～粉粒	厚緑、足部厚緑	厚緑	2位-2	2位-011-019	
107	2位	壺		7.2	底2/4	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	工具によるナツテ(厚緑)、厚緑	ナツテのちミガキ(厚緑)	2位-32	2位-027-024	
108	2位	壺			往口取上製品	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～粉粒	厚緑	2位-19	2位-028	時期不明	
109	2位	壺		(18.0)	口1/8	外褐色～暗褐色、内褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	ミガキのち厚緑(厚緑)	ミガキ(ヨコ方向)のち厚緑	047-6	047T-008	内外は厚緑(外厚はほぼ厚緑)
110	2位	壺	A	(22.0)	口1/8	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～粉粒	口縁ヨコナツテ、1層ヨコ方向、銅線羽状	厚緑	047-3	047T-008	
111	2位	当付蓋?		(9.2)	底1/3	褐色	褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、ヨコナツテ	厚緑	047-2	047T-001	
112	2位	壺?		(22.0)	口1/12	茶褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	口縁ヨコナツテ、厚緑	ハクメのちミガキ(ヨコ方向)のち茶褐色	047-1	047T-007	養生土器ではない(内面茶褐色厚緑?)
113	2位	壺			杯底片	褐色～暗褐色	褐色、灰色、茶色、黄～粉粒	厚緑、下部ハクメ	厚緑	047-6	047T-008	
114	2位	壺		7.7	底蓋	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	工具によるナツテ、底部ナツテ(何らかの土器のち)	上層ハクメのち工具によるナツテ、ハクメ	047-1	047T-008	
115	2位	筋蓋			杯底残片	灰褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、下部ミガキ(ヨコ方向)、底部ナツテ	厚緑	047-7	047T-006	
116	2位	壺		8.2	底蓋	灰褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、下部ミガキ(ヨコ方向)、底部ナツテ	厚緑	1-1-1	047T-002-003、047T-132	
117	2位	壺		7.1	底蓋	茶褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、底部ナツテ、底部厚緑	厚緑	1-1-3	1-1-001	
118	2位	壺		7.1	底3/4	暗褐色	褐色、灰色、白色、黄～粉粒	工具によるナツテ、底部ナツテ	ハクメ	1-1-2	1-1-001-003	
119	2位	壺			杯底片	暗褐色	褐色、灰色、白色、黄～粉粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	047-5	047T-133	
120	2位	壺	A	(11.0)	111/5	褐色	褐色、灰色、黄～粉粒	口縁ヨコナツテ、厚緑、底部厚緑	厚緑	047-6-10	047T-125-127	
121	2位	壺	A	(10.0)	111/5	褐色	褐色、灰色、黄～粉粒	口縁ヨコナツテ、厚緑、底部厚緑	厚緑	047-10	047T-130	
122	2位	壺		(7.0)	底1/3	灰褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、底部厚緑	ナツテ(厚緑)	047-6	047T-124	
123	2位	壺		(8.0)	底蓋	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	047-5	047T-131	
124	2位	壺		(0.0)	底2/3	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	指ナツテ、底部厚緑	厚緑	047-3	047T-129	
125	2位	壺		(8.0)	底1/3	灰褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、足部厚緑	厚緑	047-9	047T-127	
126	2位	壺		(9.0)	底1/3	褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、底部ナツテ	厚緑	047-10	047T-124	
127	2位	壺		6.9	底4/5	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～粉粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	047-1	047T-004	
128	2位	壺			杯底片	褐色	小灰、褐色、灰色、茶色、黄～粉粒	薄緑線状、底部ナツテ、厚緑	ナツテ	047-10	047T-123	製作時期
129	2位	壺	A	(15.0)	111/10	暗褐色	褐色、灰色、黄～粉粒	口縁ヨコナツテ、何らかの紋様(厚緑)	厚緑	047-12	047T-131	

番号	地名	形式	形状	寸法	年代	残存状況	色調	胎土	紋様・模意		実高	注記	備考
									外面	内面			
130	上成6	器		(10.4)		口1/12	外褐色、内褐色 ～紅土褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、ミガキのちも形(厚縁)	ミガキのちも形(厚縁)	1.6-1	1.6-006	内外赤器?
131	上成6	鉢(又は 鉢状)		(16.4)		口1/8	外褐色～茶褐色、内褐色 ～暗茶褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、ミガキ(厚縁)のちも形	ミガキ(コゴ方筒)のちも形	1.6-3	1.6-006	内外赤器
132	上成6	甕?		(8.3)	貞1/5	底1/5	灰褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	1.6-2	1.6-006	内外赤褐色 器分あり
133	上成6	土1-2 周辺		(8.4)	底1/4	底1/4	灰褐色～褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	1.6-1	1.6-006	
134	上成6	甕	A	(13.2)		口1/5	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、4車足の突縁付、厚縁	厚縁	K2493-13	K2493-138	
135	上成6	甕		(8.8)	底1/10	底1/10	灰褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	K3193-11	K2493-139	
136	上成6	甕		(12.6)	底1/6	底1/6	灰褐色～褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	K2493-4	K2493-136	
137	上成6	甕		(7.8)	底1/3	底1/3	緑茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナゲ、底筋ナゲ	工具によるナゲ	K2493-1	K2493-138	
138	上成6	甕		(9.6)	底1/6	底1/6	褐色～暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	ナゲ	K2493-5	K2493-138	
139	上成6	甕		(7.2)	底1/4	底1/4	褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	K2493-7	K2493-138	
140	上成6	甕		(7.0)	底1/4	底1/4	褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	ハケメ(厚縁)、底部厚縁	厚縁(厚縁)	K2493-6	K2493-136	
141	建物内	鉢		(17.2)		口1/8	外褐色～褐色 内褐色～紅土	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、ミガキのちも形(厚縁)	ミガキ(厚縁)のちも形	K2423-12	K2423-106	内外赤器 (外面は12 注参照)
142	建物内	鉢		(17.0)		口1/8	外赤褐色～褐色 内褐色～暗茶	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、ミガキのちも形(厚縁)	ミガキ(コゴ方筒)のちも形	K2423-16	K2423-103	内外赤器 (外面は12 注参照)
143	建物内	甕		(6.8)	底1/1	底1/1	灰褐色～赤褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(厚縁)のちも形、底部ミガキ(厚縁)のちも形	厚縁	K2423-14	K2423-103	外面、底部 赤器
144	建物内	甕	B1	(14.0)		口1/3	褐色～暗茶褐色 褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、底状、頸部底状、頸部底状	ミガキ(コゴ方筒)	K2423-0	K2423-096-101	
145	建物内	甕	B1	(19.8)		口1/2	褐色～暗茶褐色 褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、底状、頸部底状、頸部底状(地味に網状?)、厚縁	厚縁	K2423-14	K2423-085	
146	建物内	甕		(8.4)	底1/4	底1/4	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	K2423-9	K2423-085-101	
147	建物内	甕	A	(16.8)		口1/8	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、底状、厚縁	ミガキ(コゴ方筒)	K2423-0	K2423-085-101-102	
148	建物内	甕	A	(14.4)		口1/8	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、底状、厚縁	厚縁	K2423-7	K2423-102	
149	建物内	甕	A	(16.2)		口1/2	褐色～茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、縦筋状赤縁	上具によるナゲ	K2423-0	K2423-083-084	
150	建物内	甕		(8.8)	底1/3	底1/3	褐色～暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁、穿孔のちナゲ	厚縁	K2423-10	K2423-085-090	
151	建物内	甕		(6.4)	底1/2	底1/2	灰褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁、穿孔のちナゲ	ミガキ(厚縁)	K2423-0	K2423-087	
152	建物内	甕	A	10.4		口1/2	褐色～暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、厚縁	厚縁	K2423-0	K2423-089	
153	建物外	甕	A	(10.8)		口1/6	暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、厚縁	厚縁	K2423-10	K2423-110	
154	建物外	甕	A	11.2 5	(10.7)	底1/5	褐色～暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、底状、縦筋状赤縁、ミガキ(厚縁)、底部厚縁	ナゲ(厚縁)	K2423-1	K2423-091-092	
155	建物外	甕				底1/5	褐色～暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	新物模倣状、縦筋状赤縁	厚縁	K2423-18	K2423-111-112-113-115-116	
156	建物内	甕		(8.2)	底1/6	底1/6	灰褐色～暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	ナゲ(厚縁)	K2423-3	K2423-105-109	
157	建物内	甕		(10.2)		口1/8	外褐色～赤褐色、内赤褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、厚縁	ミガキのちも形(厚縁)	K2423-11	K2423-118	内外赤器 (厚縁)
158	建物内	甕		(6.6)	底1/1	底1/1	外褐色～茶褐色、内暗茶褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、縦筋状赤縁、底部厚縁	ミガキ(厚縁)のちも形	K2423-13	K2423-116	内外赤器 (外面は注 参照)
159	建物内	高杯				頸部片	外褐色～赤褐色 内褐色～赤褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(厚縁)のちも形	ミガキ(厚縁)のちも形、ナゲのちも形	K2423-15	K2423-113	外面、赤器 注内外赤器
160	建物内	高杯				頸部片	褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁	厚縁	K2423-17	K2423-116	
161	建物内	甕				頸部片	灰褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ内縁、横筋状、山形底状、厚縁	厚縁	K2423-0	K2423-103, K2423-115	
162	建物内	甕				頸部片	灰褐色～灰褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ内縁のちも形に横筋状、横筋状、厚縁	厚縁	K2710-4	K2710-143	
163	建物内	甕				頸部片	灰褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁	厚縁	K2423-0	K2423-100	
164	建物内	甕		(8.1)	底1/6	底1/6	灰褐色～褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	K2423-4	K2423-115	
165	建物内	甕		(8.8)	底1/6	底1/6	灰褐色～暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	K2423-5	K2423-116	
166	建物内	甕		(7.2)	底1/2	底1/2	褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	工具によるナゲ、底筋上具によるナゲ	工具によるナゲ	K2423-8	K2423-115	
167	建物内	甕		(6.4)	底1/10	底1/10	褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	K2423-6	K2423-115	
168	建物内	甕		(7.0)	底1/3	底1/3	褐色～暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	上具によるナゲ、底部厚縁	ナゲ	K2723-1	K2723-143	
169	建物内	甕	B1	(24.8)		口1/12	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、厚縁	厚縁	K2423-8	K2423-118	
170	建物内	甕	B1	(20.0)		口1/10	褐色～茶褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、底状、縦筋状、山形底	厚縁	K2423-9	K2423-118	
171	建物内	甕	A	(15.8)		口1/3	灰褐色～暗茶褐色	石黄、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、頸部底状、頸部底状	ハケメ	K2423-0	K2423-101, K2423-108-112, K2723-0	K2423-141
172	建物内	甕	A	(10.6)		口1/16	灰褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナガ、縦筋状赤縁、頸部底状	厚縁	K2423-0	K2423-102	
173	建物内	甕				頸部片	暗茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁	厚縁	K2423-0	K2423-115	
174	建物内	甕		(6.0)	底1/6	底1/6	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、底部厚縁	厚縁	K2423-3	K2423-115	

番号	地名	形式	寸法		保存状態	色調	胎土	紋様・装束		変則No.	注記	備考
			幅	高さ				外周	内周			
175	埴物 高辺	有付 片				緑色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	雲紋	厚紙	N2490-100		
176	埴物 高辺	片	(5.4)		裏1/4	褐色～黄褐色	赤黄、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	ナダ(厚紙)	N2490-6		
177	埴物 高辺	片	(5.8)		裏1/3	褐色～茶褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	ナダ	N2713-2		N273-143
178	埴物 高辺	片	(5.2)		裏1/2	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	N0183-2		N2183-113-116
179	埴物 高辺	片	(16.9)		裏1/8	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、厚紙	厚紙	N2780-5		
180	埴物 高辺	片	(15.6)		裏1/10	褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ(厚紙)、口縁ヨコナダ、底面厚紙	厚紙	N2780-5		
181	埴物 高辺	片			裏1/2	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙	厚紙	N0183-3		N273-143
182	埴物 高辺	片	(3.0)		裏1/4	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	N2490-5		N2490-100
183	埴物 高辺	片	(6.6)		裏1/6	褐色～灰褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	N2490-7		N2490-100
184	埴物 高辺	片	(14.6)		裏1/10	褐色	石黄、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、厚紙	厚紙	N2780-2		
185	埴物 高辺	片	(9.6)		裏1/6	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	ナダ(厚紙)	N2490-1		N2490-100
186	埴物 高辺	片	7.3		口縁部	褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面ナダ(キリ玉あり)	ナダ	N2490-2		N2490-100
187	埴物 高辺	片	(8.4)		裏1/10	黄褐色	石黄、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ(厚紙)、口縁ヨコナダ、底面厚紙	厚紙	N2780-4		
188	埴物 高辺	片	(7.4)		裏1/4	褐色～黄褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	N0283-1		N283-115
189	埴物 高辺	片	(7.2)		裏1/2	褐色～灰褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	工具によるナダ、底面厚紙	ナダ(厚紙)	N2780-1		N2780-141
190	高杯		(20.9)		11/8	赤褐色～黄褐色、内褐色～赤褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、ミガキのち巻部(厚紙)	ミガキのち巻部(厚紙)	N283-8		*92-015 内外巻部
191	高杯		6.5		裏3/4	赤褐色～黄褐色～赤褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキ(厚紙)のち巻部、口縁ナダ	ミガキ(厚紙)のち巻部	N283-9		N283-027 内外巻部
192	高杯		(6.7)		裏1/4	褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	ナダ(口コ方向)、底面ナダ	ミガキ(口コ方向)	N283-5		*92-012
193	高杯		5.3		底面	黄褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	N283-1		N283-026
194	高杯		(9.8)		裏1/2	褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキ(口コ方向)、底面ナダ	ミガキ(口コ方向)	N283-2		*92-009-013-017-019
195	高杯		9.4		底面	黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	ナダ	厚紙	N283-1		*92-008
196	高杯		(12.4)		11/2	黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底面厚紙、口縁ヨコナダ、口縁ヨコナダ、底面厚紙、口縁ヨコナダ、底面厚紙	厚紙、底面ナダ	N283-10		*92-005 N283-054
197	高杯		(9.1)		底面	黄褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底面厚紙、口縁ヨコナダ、底面厚紙、口縁ヨコナダ、底面厚紙	ナダ、底面厚紙あり	N283-14		*92-001-013, N283-054
198	高杯		(9.6)		口1/4	褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、厚紙、底面厚紙、底面厚紙	ナダ?	N283-12		*92-009
199	高杯				底面	黄褐色～黄褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底面厚紙、口縁ヨコナダ、底面厚紙	ナダ(厚紙)	N283-13		*92-010
200	高杯				底面	黄褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底面厚紙、口縁ヨコナダ、底面厚紙	ナダ	N283-11		*92-015-017-018, N283-054
201	高杯		(7.8)		口縁部	褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底面厚紙	工具によるナダ	N283-7		*92-007
202	高杯		7.6		口縁部	黄褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、ミガキ(厚紙)	口縁ナダ(厚紙)	N283-6		*92-008
203	高杯		(16.6)		11/6	黄褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、山形底面厚紙、底面厚紙	厚紙	N283-9		*92-013, N283-051
204	高杯				底面	黄褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙	工具によるナダ?	N283-4		*92-010
205	高杯		8.5		底面	黄褐色～黄褐色	石黄、褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキ(口コ方向)、底面ナダ	ミガキ(口コ方向)	N283-3		*92-002
206	高杯		(11.3)		口1/6	黄褐色～赤褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、ミガキ(口コ方向)のち巻部、厚紙	ミガキ(口コ方向)のち巻部、ナダ?	N283-11		*91-006 内外巻部
207	高杯		(9.2)		口縁部	赤褐色、内褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、ミガキ(口コ方向)のち巻部	ミガキ(口コ方向)のち巻部	N283-8		*91-002 内外巻部
208	高杯				底面	赤褐色～赤褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキ(口コ方向)のち巻部	ミガキ(口コ方向)のち巻部	N283-10		*91-009 内外巻部
209	高杯		(9.6)		裏1/2	黄褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面ナダ(厚紙)	厚紙、底面厚紙	N283-14		*91-014, N283-061
210	高杯				底面	黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	N283-9		*91-006
211	高杯				底面	黄褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底面厚紙、口縁ヨコナダ、底面厚紙	厚紙	N283-16		*91-011
212	高杯		7.6		底面	黄褐色～黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底面厚紙、口縁ヨコナダ、底面厚紙	厚紙、底面厚紙	N283-1		N283-049-051
213	高杯		(5.9)		裏1/2	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキ?(厚紙)、底面ナダ?	工具によるナダ、底面ナダ	N283-3		*91-012
214	高杯		(6.4)		裏1/4	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	N283-13		*91-002-010, N283-057
215	高杯		16.9		口縁部	褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、厚紙、底面厚紙	厚紙	N283-17		*91-002-003-020, N283-051-052
216	高杯		7.4		裏1/2	黄褐色～黄褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキ?(厚紙)、底面ナダ?	口縁ナダ(厚紙)	N283-4		*91-001
217	高杯		6.1		底面	黄褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙、底面厚紙	N283-5		*91-007, N283-045
218	高杯		7.9		底面	黄褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	工具によるナダ、底面ナダ、底面ナダ	ナダ	N283-2		*91-003
219	高杯		(7.0)		裏1/4	黄褐色～黄褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙、底面厚紙	N283-6		*91-013
220	高杯		11.9		底面	黄褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	ミガキ(口コ方向)?(厚紙)、底面ナダ?	ナダ(厚紙)、底面厚紙	N283-1		*91-005 内外巻部
221	高杯		(9.2)		裏1/2	黄褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	工具によるナダ、底面ナダ	ミガキ(口コ方向)、底面厚紙	N283-7		*91-009 内外巻部
222	高杯		8.2		裏1/2	黄褐色～黄褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ(厚紙)、口縁ヨコナダ	厚紙	N283-12		*91-011-013, N283-051
223	高杯				底面	黄褐色～黄褐色	褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	厚紙(厚紙)?、ミガキ(口コ方向)?、底面厚紙	ミガキ(口コ方向)?、底面厚紙	N283-15		*91-003, N283-051
224	高杯		(9.4)		口1/12	黄褐色～黄褐色	石黄、褐色、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、ミガキ(厚紙)	ミガキ(厚紙)	N283-9		*91-003 内外巻部

番号	地名	形式	形状	高さ	寸法	年代	保存度	色類	新土	取壊・埋蔵		発掘年	発掘	備考
										外面	内面			
225	高3	鉢	圆形			(3.6)	1/4	外褐色～赤褐色	赤灰、褐色、灰色、白色、黄褐色	ミガキ(厚土)、底面厚土	ミガキ(厚土)	高3-9	95-002	内外赤影
226	高3	鉢	A		(10.8)		1/4	褐色～茶褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、ミガキ(タテ方向)、ハケメ、横溝状、ヘラ柄山形紋、輪切取縁	ミガキによるナダ	高3-4	95-003, N1268-071	
227	高3	蓋						緑褐色	赤灰、褐色、灰色、黄色、黄褐色	厚土	厚土	高3-5	95-005	
228	高3	蓋				(7.6)	1/2	淡褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土	厚土	高3-1	95-003	
229	高3	蓋				(5.6)	1/4	淡褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土	厚土	高3-3	93-007	
230	高3	鉢	圆形					淡褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	下真によるナダ(厚土)	ハケメ	高3-7	95-003	
231	高3	鉢	圆形					褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土	厚土	高3-2	93-002	
232	高3	蓋						褐色	褐色、灰色、黄褐色	厚土、横溝状	厚土	高3-3	95-003	
233	高3	蓋						褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土	厚土	高3-1	93-001	
234	高3	蓋				(9.8)	1/1.5	褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土	厚土	高3-2	95-002	
235	高3	蓋				(8.8)	1/2	褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土	厚土	高3-1	93-001	
236	高3	蓋				(6.8)	1/1.5	褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土	厚土	高3-2	95-002	
237	高3	鉢	圆形			(5.4)		褐色～茶褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土	ナダ(厚土)	高3-3	95-003	
237	高3	鉢				(4.0)	1/4	淡褐色～褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	下真によるナダ、底面ナダ(厚土)	ナダ(厚土)	高3-1	95-004	
238	高3	鉢					1/2	褐色～茶褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	工具によるナダ、底面ナダ(厚土)	ナダ(厚土)	高3-6	93-002	
239	高3	蓋	A		(17.8)		1/2	淡褐色～褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	11層コナダ、口縁コナダ、厚土	厚土、横溝状	高3-6	96-003	
240	高3	蓋	A		(13.4)		1/1.4	淡褐色～褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、R.L.Dコナダ、ミガキ(厚土)、底面厚土	ハケメ	高3-10	95-003, N1268-071	
241	高3	蓋				1.65	(2.2)	(2.3)	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色		高3-11	95-001	
242	高4	鉢	圆形			(5.2)	1/5	外褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土	厚土	高4-9	91-001	内外赤影(厚土)
243	高4	蓋						淡褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	横溝状、ミガキ(コナダ)	厚土	高4-15	94-007	
244	高4	高鉢				(12.4)	1/1.0	褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	ミガキ(タテ方向)のちみ部、コナダ	上真によるナダ	高4-10	94-001	外面赤影
245	高4	鉢	A		(11.6)		1/1.8	外褐色、赤褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、厚土	ミガキ(コナダ)のちみ部	高4-12	94-007	内外赤影
246	高4	蓋						赤褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	ハケメ、横溝状	ミガキ(コナダ)のちみ部	高4-13	94-007	内外赤影
247	高4	蓋						淡褐色～赤褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	横溝状、11層コナダ、ミガキ(タテ方向)のちみ部	ハケメ	高4-11	94-009	外面赤影
248	高4	蓋				(14.8)	1/2	緑褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	ナダ(厚土)、底面ナダ(厚土)	ハケメ	高4-1	94-013	
249	高4	蓋						暗褐色	褐色、灰色、黄褐色	厚土、横溝状、輪切(厚土)、底面厚土	厚土	高4-16	94-012	
250	高4	蓋				(9.2)	1/1.3	淡褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	上真によるナダ、底面ナダ	ナダ(厚土)	高4-8	94-001	
251	高4	蓋				(6.8)	1/4	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	下真によるナダ、底面ナダ	下真によるナダ、底面ナダ	高4-6	94-013	
252	高4	蓋				(3.8)		褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	ミガキ(タテ方向)、底面ナダ	ナダ(厚土)、横溝状	高4-3	94-001	
253	高4	蓋	B1		(9.4)		1/1.9	外褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、11層コナダ、山形取縁、底面厚土	ナダ	高4-14	94-013	
254	高4	蓋				(6.4)	1/4	褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	ミガキのちみ具によるナダ、ナダ(厚土)	上真によるナダ	高4-3	94-001	
255	高4	蓋				(7.2)	1/1.3	褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土	厚土、横溝状	高4-5	94-001	
256	高4	蓋				1.7	1/2	褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土	横ナダ	高4-4	94-018	
257	高4	蓋				(4.6)	1/1.3	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	厚土、底面厚土、底面ナダ	厚土	高4-7	94-001	
258	高4	蓋				(7.6)	1/1.3	外褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、4部位の突起部付のちみ部、厚土、ミガキ(厚土)のちみ部	ミガキ(厚土)のちみ部	高4-22	N1263-069, N1268-071	内外、外面赤影
259	高4	蓋				(13.2)	1/1.8	外褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	11層コナダ、厚土	厚土	高4-19	94E-033	内外赤影
260	高4	蓋	圆形(高)		(12.8)		1/1.8	外褐色、内暗褐色	褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、ミガキ(厚土)のちみ部	ミガキ(コナダ)のちみ部	高4-18	95E-034	内外赤影(外面厚土)
261	高4	蓋	圆形		(7.8)		1/1.5	外褐色～暗褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	ミガキ(コナダ)、底面ナダ	ミガキ(コナダ)のちみ部	高4-1	96E-034	内外赤影
262	高4	蓋				(13.8)		外褐色～赤褐色	褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、ハケメのちみ部	ハケメのちみ部(厚土)のちみ部	高4-14	96E-051	内外赤影
263	高4	蓋	圆形		(13.8)		1/1.6	褐色	褐色、灰色、黄褐色	11層コナダ、厚土	厚土	高4-16	91E-071	
264	高4	蓋				(15.4)	1/1.6	褐色	褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、厚土	ミガキ(コナダ)	高4-9	96E-032	
265	高4	高鉢?				(6.3)	1/1.4	褐色	褐色、灰色、黄褐色	厚土、コナダ	厚土	高4-5	96E-054	
266	高4	高鉢?						褐色	褐色、灰色、黄褐色	ミガキ(タテ方向)厚土	ナダ(厚土)	高4-25	N1267-7	
267	高4	高鉢?						茶褐色	赤灰、褐色、灰色、黄褐色	横溝状、底面厚土	ハケメの上真によるナダ	高4-18	96E-051	
268	高4	高鉢?				(11.6)	1/1.12	暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	11層コナダ、底面(部分不明)厚土、山形取縁、底面厚土	厚土	高4-23	91E-033	
269	高4	蓋	圆形		(15.8)		1/1.5	淡褐色	褐色、灰色、黄褐色	口縁コナダ、底面厚土(厚土)	厚土	高4-8	96E-051	
270	高4	蓋	A		32.9 5	(14.9)	9.1	褐色	褐色、灰色、白色、黄褐色	口縁コナダ、底面R.L.Dコナダ、横溝状、ミガキ(タテ方向)、底面厚土、横溝状、底面厚土	ナダ(厚土)	高4-9	91E-071	
271	高4	蓋						褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄褐色	厚土	ナダ(厚土)	高4-19	91E-071	
272	高4	蓋	圆形					褐色	石灰、褐色、灰色、黄褐色	横溝状、山形取縁	厚土	高4-16	96E-033	

番号	地名	形式	形状	用途	寸法	開口	底径	奥行き	色類	附し	紋様・装飾		実用	所収	備考
											扉瓦	内面			
273	高1-3 四辺	壺	丸						黄褐色～褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	彫刻、横溝彫刻、山形状彫刻	ナダ(厚縁)	N123-11	N123-069	
274	高1-3 四辺	壺	丸						黄褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(ヨコ方)のちり漆	ナダ	N023-16	N023-051	内面、内面 ちり漆
275	高1-3 四辺	壺	丸						黄褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁	厚縁	N123-9	N123-068	
276	高1-3 四辺	壺	丸						褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	彫刻	ナダ、工具によるナダ	N023-6	N023-030	
277	高1-3 四辺	壺	丸		(12.0)		111/4		褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、T.Rヨコ方内縁、山形状彫刻、厚縁	厚縁	N023-12	N023-030	
278	高1-3 四辺	壺	丸						褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ナダ	厚縁	N023-16	N023-051	
279	高1-3 四辺	壺	丸						褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	山形状彫刻、横溝彫刻、厚縁	ナダ	N023-17	N023-051	
280	高1-3 四辺	壺	丸						黄褐色～褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻、厚縁、押し引き状、溝状(厚縁)、皮状紋	厚縁	N1233-10	N1233-069、N1233-071	
281	高1-3 四辺	壺	丸						褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻、厚縁、押し引き状、溝状(厚縁)、皮状紋	厚縁	N023-12	N023-051	
282	高1-3 四辺	壺	丸						黄褐色～赤褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(厚縁)のちり漆、横溝状彫刻	ナダ	N023-13	N023-051	外面彫刻
283	高1-3 四辺	壺	丸		(7.4)		底1/4		褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	ナダ	N023-3	N1233-071	
284	高1-3 四辺	壺	丸		(7.5)		底1/2		黄褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(タテ方)、深溝状彫刻	ナダ	N1233-3	N1233-071	
285	高1-3 四辺	壺	丸		7.6		底底		黄褐色～褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	彫刻、深溝状彫刻	ナダ	N1233-10	N1233-071	
286	高1-3 四辺	壺	丸		(11.1)		底一底		褐色～赤褐色	石灰、長石、褐色、黒～砂粒	工具によるナダ、深溝ナダ	ナダ、深溝状彫刻	N023-5	N023-032	
287	高1-3 四辺	壺	丸		(15.0)		底1/8		黄褐色～褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黒色、黒～砂粒	彫刻、深溝状彫刻	厚縁	N1233-4	N1233-068	
288	高1-3 四辺	壺	丸		(11.8)		底一底		黄褐色～赤褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	彫刻、深溝状彫刻	厚縁	N023-2	N023-051	
289	高1-3 四辺	壺	丸						褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	ナダ、穿孔のちり漆	ナダ	N023-10	N023-055	
290	高1-3 四辺	壺	丸		(7.9)		底一底		褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	彫刻、深溝状彫刻	厚縁	N023-6	N023-051	
291	高1-3 四辺	壺	丸		(10.0)		底1/4		褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-2	N023-051	
292	高1-3 四辺	壺	丸		(10.4)		底1/8		褐色～赤褐色	褐色、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-3	N023-055	
293	高1-3 四辺	壺	丸		(6.6)		底1/2		褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	彫刻、深溝状彫刻	ナダ	N1233-2	N1233-071	
294	高1-3 四辺	壺	丸		(9.4)		底1/4		褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、厚縁	厚縁	N023-7	N023-054	
295	高1-3 四辺	壺	丸		(18.0)		底1/8		褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-13	N023-030	
296	高1-3 四辺	壺	丸		(13.0)		底一底		褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、深溝状彫刻、厚縁	厚縁	N023-11	N023-051	
297	高1-3 四辺	壺	丸						褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	深溝状彫刻	厚縁	N023-8	N023-055	
298	高1-3 四辺	壺	丸		(21.4)		底1/12		黄褐色	褐色、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、化驗状(深溝状)、厚縁	厚縁	N023-15	N023-052	
299	高1-3 四辺	壺	丸						黄褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-9	N023-055	
300	高1-3 四辺	壺	丸		(14.7)		底1/12		黄褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、深溝状彫刻、深溝状彫刻	ナダ	N1233-7	N1233-068	
301	高1-3 四辺	壺	丸		(16.0)		底1/8		黄褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、深溝状彫刻、厚縁	厚縁	N023-6	N023-054	
302	高1-3 四辺	壺	丸		(14.2)		底1/8		褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、T.Rヨコ方内縁、ナダ	ナダ	N1233-6	N1233-068	
303	高1-3 四辺	壺	丸		(11.6)		底1/8		黄褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、山形状彫刻、厚縁	ナダ	N023-10	N023-051	
304	高1-3 四辺	壺	丸		(15.6)		底1/8		褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁ヨコナダ、T.Rヨコ方内縁、山形状彫刻、厚縁	厚縁	N023-14	N023-030	
305	高1-3 四辺	壺	丸		(7.4)		底1/4		黄褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-4	N023-054	
306	高1-3 四辺	壺	丸		(7.6)		底1/4		褐色～赤褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナダ、深溝ナダ	厚縁	N023-3	N023-030	
307	高1-3 四辺	壺	丸		(8.2)		底1/4		褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	ナダ	N1233-3	N1233-068	
308	高1-3 四辺	壺	丸		(6.6)		底1/3		褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝ナダ(厚縁)、深溝状彫刻	厚縁、深溝状彫刻	N023-1	N023-054	
309	高1-3 四辺	壺	丸		(8.4)		底2/5		褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(タテ方)、工具によるナダ	ナダ(厚縁)	N1233-4	N1233-071	
310	高1-3 四辺	壺	丸		(7.9)		底1/4		褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-4	N023-051	
311	高1-3 四辺	壺	丸		(10.2)		底1/2		黄褐色～赤褐色	褐色、褐色、灰色、白色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	指ナダ(厚縁)	N1233-2	N1233-069	
312	高1-3 四辺	壺	丸		(6.2)		底1/4		褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-4	N023-030	
313	高1-3 四辺	壺	丸		(6.2)		底1/2		褐色～赤褐色	褐色、灰色、黒色、黒～砂粒	工具によるナダ、深溝ナダ	T.Aによるナダ	N1233-5	N1233-071	
314	高1-3 四辺	壺	丸		(7.4)		底1/8		褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	ナダ、深溝状彫刻	ナダ	N023-5	N023-051	
315	高1-3 四辺	壺	丸		6.7		底1/8		褐色～赤褐色	褐色、灰色、白色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	指ナダ(厚縁)	N1233-1	N1233-068	
316	高1-3 四辺	壺	丸		(5.6)		底1/4		黄褐色～赤褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	ナダ	N1233-5	N1233-068	
317	高1-3 四辺	壺	丸		(10.0)		底1/8		褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-11	N023-017	
318	高1-3 四辺	壺	丸		(8.8)		底1/2		黄褐色	石灰、褐色、灰色、黒～砂粒	厚縁、深溝状彫刻	厚縁	N023-8	N023-025	
319	高1-3 四辺	壺	丸						褐色	石灰、長石、褐色、灰色、黒～砂粒	ナダ、深溝ナダ	ミガキ(ヨコ方)、ナダ、指ナダ	N023-7	N023-020	

番号	品名	形状	寸法	寸法	色澤	加工	紋様・調整		備考		
							糸通	内径			
320	藤14 藤	蓋		(9.9)	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、黒鉛ナゲ	指ナゲ、指頭厚紙	M93-2	M93-023	
321	藤14 両辺	蓋	02	(17.4)	11/1/12	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁コロナゲ、波状紋、横状紋	厚紙	M930-2	M930-002
322	藤14 両側	蓋	藤枠?		脚部片	褐色	厚紙	ミガキ(コロナゲ)厚紙、工具によるナゲ	M930-5	M930-003	
323	藤14 両側	蓋	A	(9.4)	口1/3	褐色	口縁ナゲ、口縁コロナゲ、厚紙	厚紙	M930-1	M930-002	
324	藤14 両側	蓋		8.6	底2/3	褐色	口縁ナゲ(脚部)、ミガキ(厚紙)、コロナゲ	ミガキ(厚紙)、厚紙	M93-7	M93-047	
325	F 9/11 K3	蓋		(16.2)	口1/10	褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁コロナゲ、厚紙、波状紋?	厚紙	M93-5	M93-007
326	F 9/11 K3	蓋		(7.0)	底1/5	茶褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナゲ、底面ナゲ	ナゲ	M93-2	M93-007
327	F 9/11 K3	蓋	山	(13.2)	11/1/10	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁コロナゲ、厚紙、工具によるナゲ(厚紙)	厚紙	M93-4	M93-007
328	F 9/11 K3	蓋		(9.2)	底1/4	褐色～灰色	褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナゲ(厚紙)、底面ナゲ(厚紙)	ナゲ(厚紙)	M93-1	M93-007
329	F 9/11 K3	蓋		(5.6)	底3/5	褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	ナゲ(厚紙)	M93-5	M93-008	
330	F 9/11 K12	蓋		(11.6)	底一節	褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	ナゲ	M1290-4	M1290-006
331	F 9/11 K12	蓋		(7.0)	底一節	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1290-5	M1290-076
332	F 9/11 K12	蓋		(8.6)	底1/4	茶褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1290-1	M1290-085
333	F 9/11 K12	蓋		(8.6)	底1/4	茶褐色～暗褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1291-1	M1291-073
334	F 9/11 K12	蓋		(8.6)	底1/8	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1290-5	M1290-096
335	F 9/11 K12	蓋		(11.0)	底1/5	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1290-2	M1290-094
336	F 9/11 K12	蓋		(7.2)	底1/2	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1290-7	M1290-063
337	F 9/11 K12	蓋		(7.4)	底1/2	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1290-3	M1290-066
338	F 9/11 K12	蓋		(4.8)	底1/3	褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1290-6	M1290-065
339	F 9/11 K12	両付 蓋		(7.6)	底一節	褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、コロナゲ	厚紙、上具によるナゲ	M1293-3	M1293-075
340	F 9/11 K12	両付 蓋		(7.9)	底一節	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、コロナゲ	ナゲ、厚紙	M1290-10	M1290-064
341	F 9/11 K12	両付 蓋		(8.1)	底一節	褐色～茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、コロナゲ	厚紙	M1290-9	M1290-063
342	F 9/11 K12	両付 蓋		(4.6)	底1/3	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、コロナゲ	厚紙、上具によるナゲ	M1290-11	M1290-064
343	F 9/11 K12	十割 蓋			脚部片	褐色	厚紙	厚紙	M1290-6	M1290-066	
344	F 9/11 K12	十割 蓋			脚部片	褐色	厚紙	厚紙	M1290-12	M1290-063	
345	F 9/11 K12	十割 蓋			脚部片	茶褐色～暗褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙	M1290-5	M1290-147	
346	F 9/11 K12	蓋	A	(13.8)	口1/10	茶褐色～褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁コロナゲ、厚紙	厚紙	M1293-15	M1293-150
347	F 9/11 K12	蓋			脚部片	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、横切波	厚紙	M1293-17	M1293-159
348	F 9/11 K12	蓋		(13.8)	底1/6	茶褐色～暗褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1293-10	M1293-157
349	F 9/11 K12	蓋		(12.0)	底3/5	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1293-12	M1293-157
350	F 9/11 K12	蓋		(7.9)	底1/4	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1293-11	M1293-157
351	F 9/11 K12	蓋		7.2	底1/3	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1293-7	M1293-154
352	F 9/11 K12	蓋		(6.8)	底1/5	褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	ナゲ(厚紙)	M1292-8	M1292-157
353	F 9/11 K12	蓋		(11.0)	底3/6	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙(向からの汗蒸あり)	厚紙	M1290-1	M1290-145
354	F 9/11 K12	蓋	A	(13.8)	口1/12	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	口縁コロナゲ、厚紙	厚紙	M1293-14	M1293-152
355	F 9/11 K12	蓋		(8.9)	底1/2	茶褐色～黒褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	ミガキ(コロナゲ)、底面ナゲ(厚紙)	厚紙	M1292-1	M1292-152
356	F 9/11 K12	蓋		(9.8)	底一節	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面ナゲ(厚紙)	厚紙	M1293-13	M1293-159
357	F 9/11 K12	蓋		7.6	底3/4	褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、指頭厚紙、底面厚紙	厚紙	M1292-2	M1292-163-157
358	F 9/11 K12	蓋	A	(9.2)	11/1/8	茶褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	口縁コロナゲ、厚紙	厚紙	M1292-16	M1292-157
359	F 9/11 K12	蓋		(9.0)	底1/5	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1292-4	M1292-158
360	F 9/11 K12	蓋		(8.6)	底1/3	褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1292-9	M1292-158
361	F 9/11 K12	蓋		(7.6)	底1/2	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナゲ、底面ナゲ、ミガキ	ナゲ	M1292-3	M1292-158
362	F 9/11 K12	蓋		(6.4)	底1/3	茶褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	厚紙	M1290-4	M1290-146
363	F 9/11 K12	蓋		(6.2)	底1/4	茶褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	ナゲ	M1292-5	M1292-157
364	F 9/11 K12	蓋		(6.0)	底1/4	茶褐色	石炭、褐色、灰色、黒～砂粒	厚紙、底面厚紙	上具によるナゲ	M1290-3	M1290-146
365	F 9/11 K12	蓋		(5.2)	底1/4	茶褐色	褐色、灰色、黒～砂粒	工具によるナゲ、底面厚紙	厚紙	M1292-6	M1292-159

特号	期点	形式	寸法		残存率	色調	胎土	紋様・模様		実用No.	注記	備考
			高さ	口径				外周	内径			
307	F 13 NR	常形 器の群?		(14.2)	式1/8	褐色白～暗褐色	褐色、灰色、黄～黒緑	厚緑、ヨコナダ	厚緑	3193-1	X193-165	
308	F 13 N18	常 A		(20.4)	口1/6	黄褐色～暗褐色	小灰、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁キザシ、口縁ヨコナダ、厚緑	厚緑	31930-1	V1930-160	
309	F 13 N18 F 13 K18	常		(4.4)	底1/4	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	31930-3	X1930-160	
310	F 13 K18	常		(5.8)	底1/1	褐色～茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	ナダ(厚緑)	31930-2	X1930-162	
371	F 13 N21	常 A		(13.6)	口1/8	褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、厚緑	厚緑	32193-3	X2193-081	
372	F 13 N21	常			底部1/8	褐色	石灰、褐色、灰色、黒色、黄～砂粒	ナダ、多量止め痕状	厚緑	32193-4	X2193-081	野生拾得
373	F 13 N21	常 A		(13.6)	口1/10	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、厚緑	山形沈殿状、儀装厚緑、厚緑	32193-6	X2193-077	
374	F 13 N21	常		(8.1)	底 底	赤褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	32193-4	X2193-077	
375	F 13 N21	常		(8.0)	底1/5	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	32193-5	X2193-079	
376	F 13 N21	常		(5.8)	底1/6	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	32193-1	X2193-079	
377	F 13 N21	常		(5.0)	底1/4	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	32193-2	X2193-077	
378	F 13 N21	常?		(6.2)	底1/8	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	32193-3	X2193-077	
379	F 13 N21	常		(8.2)	底1/5	褐色	石灰、褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	32193-1	X2193-082	
380	F 13 N21	常		(7.8)	底1/8	暗黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	ナダ、底部厚緑	厚緑	32193-2	X2193-082	
381	F 13 N24	常		(11.3)	口1/8	小褐色、内褐色～赤褐色	石灰、褐色、灰色、黄～砂粒	1.縁ヨコナダ、厚緑	ミガキ(厚緑)のち赤影	32193-6	X2193-119	内赤赤影(外赤赤影)
382	F 13 N24	常 A		(13.2)	11/8	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	1.縁ヨコナダ、1.Rヨコナダ内周、厚緑	厚緑	32438-8	X2438-119	
383	F 13 N24	常 A		(11.2)	口1/5	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底部儀装状、厚緑	厚緑	32438-7	X2438-119-131-132	
384	F 13 N24	常		(16.8)	口1/3	褐色～茶褐色	小灰、褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底状、儀装儀装條	厚緑	32438-9	X2438-131	
385	F 13 N24	常		(19.2)	5.5	11/6	褐色～暗褐色	1.縁ヨコナダ、底状、ボタシ状筋付、ミガキ(タテ方向)、底部ナダ	ハケメ、工具によるナダ	32438-10	X2438-121-122	
386	F 13 N24	常 A		(16.9)	口1/5	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、底状	厚緑	32438-10	X2438-120	
387	F 13 N24	常 A		(16.9)	口1/3	褐色～茶褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、厚緑、儀装儀装條	工具によるナダ	32438-11	X2438-121-122	
388	F 13 N24	常		6.8	底12/16	黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑、底部厚緑	32438-11	X2438-122	
389	F 13 N24	常		(3.6)	底1/2	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	ナダ	32438-2	X2438-120	
390	F 13 N24	常		(3.8)	底1/4	褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	32438-4	X2438-119	
391	F 13 N24	常		(8.2)	底1/5	褐色	石灰、褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	32438-3	X2438-119	
392	F 13 N24	有付 常				褐色	石灰、褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑	厚緑、ナダ	32438-5	X2438-120	
393	抽出 高林	常				内褐色～赤褐色、内赤褐色～赤褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	ミガキ(厚緑)のち赤影	ミガキ(厚緑)のち赤影、工具によるナダ	機-5	A機-006	外周、底部内面赤影
394	抽出 高林	常				褐色～赤褐色、内褐色～赤褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	ミガキ(タテ方向)のち赤影	ミガキ(厚緑)のち赤影、ナダ	機-6	A機-004	外周、底部内面赤影
395	抽出 高林	常		(7.1)	底1/4	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	厚緑、ヨコナダ	厚緑	機-8	A機-004	
396	抽出 高林	常		(5.2)	底1/2	褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	ナダ(厚緑)、ヨコナダ	工具によるナダ、儀装ナダ、ナダ(厚緑)	機-7	A機-006	
397	抽出 高林	常		(0.0)	底1/4	褐色～暗褐色	褐色、灰色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	機-2	A機-003	
398	抽出 高林	常		(7.4)	底1/2	淡褐色～褐色	石灰、褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	ナダ(厚緑)	機-1	A機-006	
399	抽出 高林	常		(18.2)	底1/6	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、山形沈殿状、底状	工具によるナダのち、ミガキ(ヨコ方向)	機-4	A機-004	
400	抽出 高林	常				黄褐色～褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	儀装沈殿、山形沈殿状、儀装沈殿	厚緑	機-9	A機-004	
401	抽出 高林	常		(14.0)	11/8	褐色～灰褐色	石灰、褐色、灰色、黄～砂粒	1.縁ヨコナダ、厚緑	厚緑	機-3	A機-004	
402	5位	常		(12.2)	口1/8	褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、厚緑	厚緑	5機-22	5機-067	
403	5位	常				褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	5機-24	5機-030	
404	5位	常 A		8.2	口2/1	黄褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、1.Rヨコナダ内周、儀装沈殿、ナダ(厚緑)	ナダ(厚緑)、ハケメ	5機-29	5機-041	
405	5位	常		(10.4)	底1/5	褐色～茶褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	5機-3	5機-026	内周儀装沈殿
406	5位	常		9.3	底1/6	淡褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	厚緑	5機-1	5機-033	
407	5位	常		(8.0)	底1/4	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、黄～砂粒	厚緑、底部厚緑	ハケメ、ナダ	5機-2	5機-049	
408	5位	常 A		19.9	14/5	褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	1.縁キザシ、口縁ヨコナダ、底状、儀装沈殿、ミガキ(厚緑)	ミガキ(厚緑)	5機-28	5機-040	外周十付筋
409	5位	常		(13.6)	口1/8	褐色	褐色、灰色、白色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、山形沈殿状、ナダ	ミガキ(ヨコ方向)	5機-23	5機-008	
410	5位	有付 常		3.6	底1/6	淡黄褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	ナダ、ヨコナダ	工具によるナダ、ナダ	5機-16	5機-043	
411	5位	有付 常		3.3	底1/6	褐色	石灰、褐色、灰色、白色、黄～砂粒	厚緑、ヨコナダ	厚緑	5機-26	5機-049	
412	5位	常 A		(15.4)	口1/2	褐色～暗褐色	褐色、灰色、黄～砂粒	口縁ヨコナダ、4.底状、儀装沈殿のちナダ、厚緑	タテ方向のキザシ、厚緑	5機-19	5機-012	

番号	地点	形式	寸法	形状	底層	積層数	色調	粘土	紋様・調色		築期	計測	備考
									外装	内装			
413	5位	変	A	(18.6)			褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤色、黄砂	口縁コナナフ、縁面厚縁、縁面状	厚縁、ミガキ(口コナナフ)	5位-30	5位-056	
414	5位	変	A	(18.2)			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	口縁コナナフ(厚縁)、口縁コナナフ、厚縁、縁面状(厚縁)	厚縁	5位-18	5位-002-055	
415	5位	変	A	(18.6)			褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	口縁コナナフ、厚縁	厚縁	5位-21	5位-049	
416	5位	変	A	34.0	28.4	10.0	淡褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	口縁コナナフ、厚縁	厚縁	5位-27	5位-031	
417	5位	変	A	(19.4)			茶褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	口縁コナナフ、厚縁	厚縁	5位-17	計測-039-049	
418	5位	変		(8.0)			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-6	5位-014	
419	5位	変		(5.2)			褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-16	5位-054	
420	5位	変		4.9			褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-13	5位-061	
421	5位	変		(4.6)			茶褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-14	5位-047	
422	5位	変		(7.6)			褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-10	5位-018	
423	5位	変		(5.2)			褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-4	5位-056	
424	5位	変		(6.8)			暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-11	5位-056	
425	5位	変		(8.5)			褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-12	5位-018	
426	5位	変		(7.5)			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-4	計測-021-034	
427	5位	変		(7.8)			褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-7	5位-066	
428	5位	変		(9.1)			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-9	5位-062	
429	5位	変		(6.6)			褐色、灰色、赤～砂粒	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁、工具によるナフ、底面ナフ、厚縁	5位-5	5位-023	
430	5位	不明					褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-26	5位-056	
431	6位	変		(8.2)			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	6位-1	6位-002	
432	土坑6	変		(8.4)			褐色～暗褐色	褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-2	5位-004	
433	土坑6	変		(6.8)			褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁	厚縁	5位-2	5位-006	
434	土坑6	変					原状	原状	厚縁	厚縁	5位-3	5位-004	
435	土坑15	鉢		(6.6)			赤褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁(赤砂)、底面厚縁	厚縁	5位-4	5位-000	内外赤砂(外赤も赤砂?)
436	南壁	変		(5.8)			褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	5位-1	5位-001	
437	溝3	変		(7.2)			褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	溝3-1	溝3-006、5位-008	
438	溝3	変		(6.1)			褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	溝3-2	溝3-006	
439	溝7	鉢		(13.0)			褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	口縁コナナフ、厚縁	厚縁	溝7-1	溝7-004	内外赤砂
440	溝7	蓋		(7.8)			褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁	厚縁	溝7-2	溝7-001	内外赤砂
441	F2	蓋		9.4			褐色～暗褐色	褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	F2-1	F2-011	
442	井上	蓋		(7.6)			褐色	褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	井上-1	井上-003	
443	惣倉	蓋		(9.8)			赤褐色～褐色	褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	惣倉-2	A棟-005	
444	惣倉	蓋?		6.6			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	惣倉-3	A棟-010	
445	惣倉	蓋		(6.2)			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	惣倉-1	A棟-005	
446	371	鉢		7.5			赤褐色～茶褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	371-1	A棟-001	内外赤砂(外赤厚?)
447	雑出	鉢又は高鉢		(17.4)			赤褐色、内褐色～茶褐色	褐色、灰色、赤～砂粒	口縁コナナフのち赤砂(厚縁?)	厚縁	雑出-8	A棟-008	内外赤砂(厚縁?)
448	雑出	蓋					赤褐色～褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	雑出-11	025、雑出N18.9E1.3	古墳期又は中層?
449	雑出	蓋					赤褐色～褐色	褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	雑出-9	025、雑出N18.9E1.3	古墳期又は中層?
450	雑出	蓋		(5.6)			褐色～茶褐色	褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	雑出-5	A棟-013	
451	雑出	蓋		(7.2)			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁	厚縁	雑出-3	A棟-012	
452	雑出	蓋		(7.4)			暗褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	雑出-1	A棟-013	
453	雑出	石付蓋		(4.6)			褐色	石灰、褐色、灰色、赤～砂粒	厚縁	厚縁	雑出-6	A棟-006	
454	雑出	石付蓋		(8.4)			赤褐色～褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁	厚縁	雑出-7	A棟-002	
455	雑出	蓋		8.8			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁	厚縁	雑出-2	A棟-003	
456	雑出	蓋		6.4			赤褐色～褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	雑出-1	A棟-003	
457	雑出	蓋		3.9			赤褐色	褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁、底面厚縁	厚縁	雑出-10	025、雑出N18.9E1.3	古墳期又は中層?
458	雑出	蓋		12.4			褐色～暗褐色	石灰、褐色、灰色、白色、赤～砂粒	厚縁	厚縁	雑出-1	計測-002-003	

2 石器 (第11～13表・第25～34図)

第1・2次調査で回収した石器は総数773点(1次611点・2次162点)である。その内、自然石と判断したもの等(1次67点・2次4点)を除く702点(1次544点・2次158点)を報告対象とした。共存する土器型式から弥生時代に帰属するものが主体を占めると推測される。定形的な石器を中心に99点を図示(第25～34図)し、剥片・砕片・礫片を除く石器の観察表(第11表)、全石器を対象に石材単位の器種組成(第12表)、出土地点単位の器種組成(第13表)を付した。各石器の調査回数・出土地点等は石器観察表を参照されたい。以下、図示したものを中心に概要を述べる。なお、実測図中における研磨・磨耗面については線条痕が観察できたものについては可能な限り図示したが、白抜き表現のものもある。また、小範囲で表現に限界があると判断したものについては、スクリーントーンと断面図に矢印を付し表現した。

(1) 打製石鏃 (第25図1～16)

合計16点出土した。基部形状で分類すると有茎11点(1・3・5・7・10・12・14・16)、平基1点(4)、円基1点(13)、凹基2点(8・9)、不明1点(15)で、木製品の可能性が高いものも含まれるが、有茎鏃が主体を占める。石材は黒曜石が主体を占め、下呂石・珪質泥岩がそれぞれ1点ある。

(2) 磨製石鏃 (第25図17～23)

合計7点出土した。折損品が多く、全体形状をとどめるものは少ないが、凹基無茎が3点(17・22・23)、凸基1点(21)、不明3点(18～20)である。21は未製品の可能性もあるが、基部周縁の研磨状況から凸基とした。両面穿孔の孔が確認できるものは5点(17～19・22・23)ある。

(3) 磨製石鏃未製品 (第25・26図24～31)

合計8点出土した。折損品が多い。鏃の形態(研磨により作出された先端部・基部・側縁部または穿孔痕)が整っていないもので、磨製石鏃以外の磨製石器の折損品・未製品の可能性もあるが本報告では一括した。平面・側面に明確な研磨痕が確認できるもの4点(24～27)、磨製石鏃の製品と同様の石材で明確な研磨痕は確認できないが素材の周面に剥離加工を施した剥離調整段階と推測できるもの4点(28～31)がある。

(4) 石錐 (第26図32～36)

合計5点出土した。32は礫、33・36は剥片の一端に錐部と推測される先端部が作り出されている。34・35は全体的に加工が施されているもので、34は側縁中央付近に側縁に平行する線条痕を伴う磨耗面が、35は表裏面中央から下端寄りまで長軸に対してやや斜行する線条痕が観察される。

(5) 打製石斧 (第27図37～43)

合計8点出土し、7点を図示した。全体形状が確認できるものは楡形を呈する39のみでそれ以外は全て折損品である。折損品の中には、二次加工ある剥片・石核との区別が困難なものも含まれる。

(6) 磨製石斧 (第27・28図44～53)

合計10点出土した。片刃石斧2点(44・45)、太形輪刃石斧5点(49～53)、不明3点(46～48)である。44・45は小形の片刃(ノミ状)石斧、46～48は破損品のため刃部形状は不明であるが46・47は断面形状から扁平片刃石斧の可能性が高い。47は素材の剥離面は残るが研磨面が観察され、下端一部に刃部と推測される面が残る。上端・左側縁に研磨面を切る小剥離面があり扁平片刃石斧の未製品または再加工中に折損したものと推測される。48は基部と推測されるが、形状が楡形に開くことと出土層位から縄文時代の定角式石斧の可能性が高い。49～53は太形輪刃石斧の折損または破損品である。49～51は刃部が残る破片で49の折面一端には敷打痕が観察される。敷石として転用されたものか。52・53は基部または基部寄りの破片であるが折面一部に弱い研磨・磨耗面が観察される。50・52の器面の小凹部に部分的ではあるが赤色顔料が付着している。

(7) 環状石斧 (第29図54)

1点出土した。平面形は円形、両刃の刃部を有し、中央に直径2.2cmの両面穿孔による孔をもつ。片面の孔周

辺に幅約 1cm の隆帯がめぐっている。半損したのち 2 点に分離している。器面には被熱破砕面が観察される。

(8) 磨製石包丁 (第 29 図 55)

1 点出土した。ほぼ全面に研磨痕が観察され、背部とにぶい刃部が形成されているが孔はない。器面に被熱破砕面が観察される。

(9) 二次加工ある剥片 (第 29 図 56~61)

剥片を素材として二次加工痕が観察でき、他の器種に分類できなかったものを一括した。スクレイパーまたは刃器と称されるもの等が含まれている。合計 37 点、6 点を図示した。20 点が折損品であるが、黒曜石・チャート・珪質泥岩等の緻密な石材を素材とする比較的小形のもの、硬砂岩・泥質頁岩・安山岩等のやや石質が粗いものを素材とする大形なものがある。小形なものは、図示できなかったが、石鏃・石錐の木製品が多く含まれると推測される。大形なものは 10cm 弱の剥片に比較的弱い二次加工を施し、直線状の側縁を形成するもの(57~61)と、比較的強い加工を両面からを施し、小形の打製石斧または石核の折損品とも推測できるもの(未図化 5 点)がある。56 は剥片の片側縁に研磨で刃部と推測される縁辺が形成されているもので、60 は板状礫を素材とするものである。60 は二次加工ある剥片の定義から外れるものではあるが本報告ではここに含めた。

(10) 凹・敲・磨石 (第 30・31 図 62~79)

主に自然礫を素材とし、凹部(凹)・敲打痕(敲)・研磨・磨耗痕(磨)が観察されるものを本報告では一括して扱った。合計 25 点出土し、18 点を図示した。凹部は、敲打痕の集合により形成されたものが多いと推測され、直径約 6cm から 2cm 程度の円形を呈する。直径 2cm 以下の凹部については敲石等に観察される敲打に伴う剥落痕(敲打痕)との識別が困難であるが、器面における凹部の位置・深さ等を考慮して、本報告では便宜的に直径 2cm 以上の平面形がほぼ円形を呈する敲打痕が集合する凹部を大凹、直径 1cm 以上 2cm 未満のものを小凹、1cm 未満のものを敲打痕として扱った。石材毎の風化の程度にもよるが凹部の内部には敲打痕以外の痕跡は肉眼では観察されない。小凹の中には硬質かつ鋭利な対象物で凹んだと推測されるものもあり、砥石の砥面上にも同様の凹部が観察される。凹・敲・磨痕跡の複合状況は、大凹のみ 2 点(62・63)、大凹・小凹(64)、大凹・敲(65~69)、小凹・磨(70・71)、小凹・敲(72)、敲のみ 12 点(73~77 他 7 点)、敲・磨 1 点(78)、磨のみ 1 点(79)である。素材となる礫の形状、凹・敲・磨痕跡の位置・複合状況をまとめると、扁平円礫の中央付近に大凹を 1 箇所もち、その裏面中央付近に大凹・小凹・敲打痕跡をもつもの(62~69)、扁平円礫の表裏に小凹を 2 箇所もち磨面をもつもの(70)、角礫または板状礫に小凹をもつもの(71・72)の以上の三者は凹石と称してよいものと考えられる。扁平円礫の平面中央付近に敲打痕のみをもつもの(73 他 3 点)は台石または敲石と称し、扁平棒状礫の端部または側面部に敲打痕のみをもつもの(74 他 2 点)、扁平・円礫の端部に敲打痕のみをもつもの(75~77 他 2 点)は敲石と称し、礫の一端に磨面のみをもつもの(79)は磨石と称してよいものと考えられる。凹石には端部に敲打痕をもつもの(67~69)があり、敲石と同様の機能を合わせもっていたものもあると推測される。70 の磨面は断面形状が凸形を呈し、71 の磨面は凹形を呈する。71 は磨面の状況・欠損状況・石材等を考慮すると砥石に小凹が形成されたものの可能性が高い。78 は端部に敲打に伴う割れ面と表裏側面一部に線条痕を伴う磨面が観察される。79 は磨面周辺に赤色顔料が付着する。

(11) 砥石 (第 32~34 図 80~98)

合計 41 点出土し、19 点を図示した。接合資料が 3 例ある。板状砂岩を素材とするものが多い。側面に折面をもつものも多く、砥面と折面の切り合い関係が判然としないものもあるが、折損品が多い。折損後に使用した痕跡が残るもの(86・97・98)もある。砥面は板状礫の 1 面に確認できるものが多いが、表裏面または側面 1 面を加え 3 面確認できるものもある。粗い砂岩をもちいるものも多く線条痕等が観察できるものは少ないが、砥面に溝が観察されるものが 2 点(88・95)ある。また、砥面に小凹・敲打痕が観察されるものがあり、砥面と小凹・敲打痕の切り合い関係が判然としないものもあるが、砥石として使用した後に台石として使用されたと推測できるもの

の(80・87・88・91・94・96他2点)がある。97・98は同一個体であった可能性が高く、砥石を分割したのち分割面(折面)を含む2側面に断面形が凸形を呈する研磨面があり、磨石状に使用したと推測される痕跡が残る。

(12) 有孔石製品 (第34図99)

安山岩円礫に穿孔した1点がある。孔周辺に敲打痕が観察され、やや平坦な面を形成する。それ以外に人為的加工作痕は観察されない。

(13) 微細剥離ある剥片 (第11表)

剥片の鋭利な縁辺を刃部として使用したものと推測されるもので、剥片の縁辺部に微細な剥離痕が観察されるもの。擦痕・磨耗痕が観察されるものも含め肉眼観察により認定した。擦痕・磨耗痕が単独で確認される剥片はなかった。微細剥離痕の中には剥片剥離時に偶発的に生じたものや廃棄後に生じたものも含まれると推測される。合計100点確認した。黒曜石が主体(68%)を占め、チャート(10%)、泥質頁岩(9%)、珪質泥岩(8%)等が続く。泥質頁岩素材のものは他の石材のものよりやや大形品が多い。

(14) 石核 (第11表)

合計96点確認でき、通常の剥離によるものが51点、両極剥離によるものと推測されるものが45点ある。黒曜石が主体(85%)を占め、チャート(9%)等が続く。黒曜石の石核は、剥離の進行が進んだものが多く、石鏃・石錐の素材剥片よりも小形の剥片を剥離した痕跡を残すものもある。特異な石材としては鉄石英が1点確認できた。

(15) 剥片・砕片

剥片234点・砕片54点が確認できた。いずれも黒曜石が主体を占めている。石器の接合作業が十分にできなかったため、剥片剥離技術等の詳細は不明であるが、石核のあり方を考慮すると本遺跡では、主に黒曜石の原石または石核から剥片を剥離して石器製作が行われていたと推測される。

(16) 礫片

折面または被熱による剥落痕のみが確認できるもので57点確認できた。調査時に、出土した礫片の全てを回収してはいないので詳細は不明であるが、砂岩・チャートが主体を占める。大形のチャート礫片の一部は、原石として遺跡内に持ち込まれた可能性がある。

(17) 原石 (第11表)

剥離痕が観察されないもので黒曜石の角礫(14.1g)が1点出土している。報告対象から除外した自然石にはチャート・砂岩礫が含まれているが、チャート礫に関しては、剥片・石核等とやや異なる石質のものが多く、大きさが2cm以下の小礫が多い。また、本遺跡の土層の堆積状況や立地を考慮すると、人為以外にも本遺跡で出土する可能性が考えられるため、本報告では除外した。

国産	産別	上取点	高干点	産別	材	表(m)	縦(m)	横(m)	重量(t)	積付状況	物性	備考
1次	仰	白	長干	522	真綿心	2.30	1.86	0.32	1.8	同梱	同梱	船倉全体の1割程度。
1次	仰	白	長干	528	真綿心	2.23	2.99	0.38	4.0	同梱	同梱	倉庫一部に積込あり。
1次	仰	白	短干	512	真綿心	3.78	1.20	1.26	29.2	別積	別積	船倉庫
1次	仰	白	短干	518	真綿心	3.82	1.19	1.12	29.6	別積	別積	船倉庫
1次	仰	白	短干	521	真綿心	4.91	0.99	0.91	7.8	同梱	同梱	倉庫
1次	仰	白	短干	523	真綿心	4.42	1.06	0.42	7.9	同梱	同梱	上取積付一部に積込あり。
1次	仰	白	短干	548	真綿心	3.04	1.23	0.56	1.7	同梱	同梱	
1次	仰	白	短干	549	真綿心	1.52	1.50	0.45	1.2	同梱	同梱	
2次	A	仰	中干(横)一互	528	真綿心	12.47	1.49	0.42	1.7	別積	別積	
2次	A	仰	中干(横)上	528	真綿心	1.88	1.32	0.56	0.6	別積	別積	船倉庫
2次	A	仰	中干(横)中	528	真綿心	1.73	2.19	0.29	0.4	同梱	同梱	片手積
2次	A	仰	中干(横)下	528	真綿心	12.03	1.21	0.33	0.3	別積	別積	穴留積
2次	A	仰	中干(横)下層	528	真綿心	1.69	1.50	0.36	1.7	別積	別積	穴留積・別積
2次	A	仰	中干(横)下層	528	真綿心	3.27	1.80	0.62	5.1	別積	別積	穴留積
2次	A	仰	中干(横)下層	660	真綿心	1.88	1.12	0.26	0.4	別積	別積	穴留・穴留積
2次	A	仰	中干(横)下層	725	真綿心	1.99	1.90	0.75	1.7	別積	別積	穴留・穴留積
2次	A	仰	中干(横)下層	741	真綿心	3.81	3.00	1.00	6.8	同梱	同梱	
2次	A	仰	中干(横)下層	80	真綿心	12.20	1.23	0.23	0.7	別積	別積	穴留・別積
2次	A	仰	中干(横)下層	80	真綿心	3.83	1.08	0.42	1.7	同梱	同梱	
2次	A	仰	中干(横)下層	96	真綿心	2.14	1.90	0.48	1.8	同梱	同梱	
2次	A	仰	中干(横)下層	97	真綿心	1.73	1.87	0.86	1.2	同梱	同梱	
2次	A	仰	中干(横)下層	100	真綿心	12.20	1.03	0.13	0.1	別積	別積	穴留積
2次	A	仰	中干(横)下層	102	真綿心	3.09	2.58	0.43	2.4	同梱	同梱	穴留積
2次	A	仰	中干(横)下層	311	真綿心	2.98	2.77	1.00	6.0	同梱	同梱	船倉庫に積込あり。
2次	A	仰	中干(横)下層	328	真綿心	3.90	1.74	0.96	2.8	同梱	同梱	穴留・穴留積
2次	A	仰	中干(横)下層	311	真綿心	1.78	2.20	0.23	0.7	同梱	同梱	
2次	A	仰	中干(横)下層	312	真綿心	1.80	4.16	1.28	4.1	別積	別積	一部穴留あり。
2次	A	仰	中干(横)下層	313	真綿心	1.71	1.92	0.27	0.6	同梱	同梱	穴留積
2次	A	仰	中干(横)下層	317	真綿心	2.48	11.23	3.48	6.4	別積	別積	1割程度が一倉に積込あり。

石積	産別	上取点	高干点	産別	材	表(m)	縦(m)	横(m)	重量(t)	積付状況	物性	備考
1次	仰	白	59	52	真綿心	1.85	1.49	0.62	1.1	同梱	同梱	
1次	仰	白	59	60	真綿心	2.20	2.50	1.24	6.0	同梱	同梱	
1次	仰	白	59	61	真綿心	1.28	2.12	0.98	2.4	同梱	同梱	船倉 7割に積込あり。
1次	仰	白	59	62	真綿心	1.86	2.75	1.78	5.4	同梱	同梱	倉庫に積込あり。
1次	仰	白	59	63	真綿心	2.70	1.78	1.78	3.5	同梱	同梱	倉庫に積込穴留積あり。
1次	仰	白	59	64	真綿心	1.43	1.93	0.88	1.1	同梱	同梱	
1次	仰	白	59	65	真綿心	12.91	1.95	0.80	3.4	別積	別積	穴留積
1次	仰	白	59	66	真綿心	1.92	2.02	0.23	0.9	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	67	真綿心	3.31	1.90	0.25	1.2	同梱	同梱	船倉に積込した片手の積込。一部加工時積。
1次	仰	白	59	68	真綿心	1.60	2.09	0.53	1.8	同梱	同梱	船倉に積込あり。
1次	仰	白	59	69	真綿心	2.04	1.65	0.80	2.6	同梱	同梱	穴留積
1次	仰	白	59	70	真綿心	1.54	1.28	0.43	0.6	同梱	同梱	穴留積
1次	仰	白	59	71	真綿心	1.42	2.28	0.66	2.2	別積	別積	穴留積
1次	仰	白	59	72	真綿心	12.13	1.13	0.19	0.2	同梱	同梱	穴留積
1次	仰	白	59	73	真綿心	4.96	1.92	1.20	19.4	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	74	真綿心	5.51	2.72	1.19	4.6	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	75	真綿心	1.60	0.97	0.38	3.6	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	76	真綿心	1.71	1.63	0.90	1.0	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	77	真綿心	4.81	0.98	0.41	1.5	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	78	真綿心	2.10	1.23	0.73	8.8	別積	別積	船倉に積込あり。
1次	仰	白	59	79	真綿心	3.00	11.23	0.66	1.2	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	80	真綿心	1.45	1.50	0.98	1.0	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	81	真綿心	2.28	2.63	1.92	3.1	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	82	真綿心	3.38	2.08	0.90	3.6	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	83	真綿心	12.83	12.20	11.60	3.7	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	84	真綿心	1.12	3.41	1.20	0.9	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	85	真綿心	1.23	1.75	1.15	4.0	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	86	真綿心	1.90	3.40	1.05	5.3	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	87	真綿心	11.44	12.30	6.68	3.1	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	88	真綿心	1.70	0.94	0.37	0.6	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	89	真綿心	3.15	3.07	1.44	2.8	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	90	真綿心	3.94	1.60	0.28	0.7	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	91	真綿心	11.22	0.98	0.17	0.5	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	92	真綿心	11.10	12.88	10.78	1.4	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	93	真綿心	18.88	6.27	0.87	2.1	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	94	真綿心	2.00	10.89	0.64	1.6	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	95	真綿心	12.20	11.70	10.60	3.0	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	96	真綿心	6.36	4.78	3.78	86.4	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	97	真綿心	12.20	12.50	11.72	2.2	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	98	真綿心	1.50	2.35	1.39	2.8	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	99	真綿心	3.08	11.62	0.70	3.8	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	100	真綿心	2.48	3.87	0.53	2.5	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	101	真綿心	1.70	1.62	0.99	0.6	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	102	真綿心	1.54	2.42	1.44	4.0	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	103	真綿心	2.50	1.31	1.00	2.2	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	104	真綿心	12.04	2.89	0.70	5.4	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	105	真綿心	0.80	10.82	0.29	0.4	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	106	真綿心	2.25	3.75	1.10	3.2	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	107	真綿心	1.21	3.00	0.52	3.2	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	108	真綿心	2.12	1.90	0.60	2.6	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	109	真綿心	1.72	1.85	0.66	1.1	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	110	真綿心	1.73	2.05	0.79	2.1	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	111	真綿心	1.11	1.21	0.85	3.8	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	112	真綿心	2.45	0.81	0.79	1.4	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	113	真綿心	1.89	1.38	0.48	0.9	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	114	真綿心	11.10	1.98	0.78	1.6	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	115	真綿心	2.96	5.02	1.29	18.1	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	116	真綿心	1.88	11.71	0.63	2.8	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	117	真綿心	3.26	3.29	2.32	24.3	同梱	同梱	同梱
1次	仰	白	59	118	真綿心	12.85	11.90	10.93	3.6	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	119	真綿心	1.73	12.20	0.60	3.3	別積	別積	同梱
1次	仰	白	59	120	真綿心	3.57	6.42	3.4	38.2	同梱	同梱	同梱

種別	観音堂名	所在地	種別	材	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重量(t)	備註	備考
1次	312 15	丸	312 15	丸	3.02	0.90	1.43	141.4	1次	笠懸造り
1次	324 16	丸	4.9 16	丸	6.10	0.90	1.17	79.3	1次	笠懸造り
1次	324 190	丸	473 19	丸	16.93	0.63	1.24	201.7	1次	笠懸造り
1次	324 190	丸	474 19	丸	125.59	1.45	1.42	1692	1次	笠懸造り
1次	324 19	丸	468 19	丸	15.18	0.76	0.22	1270	1次	笠懸造り
1次	324 19	丸	468 19	丸	126.74	0.74	0.27	328.6	1次	笠懸造り
1次	360 190	丸	494 19	丸	132.21	1.48	0.89	1596.1	1次	笠懸造り
1次	360 19	丸	498 19	丸	8.78	0.70	0.74	328	1次	笠懸造り
1次	360 19	丸	499 19	丸	19.80	0.87	0.66	363.7	1次	笠懸造り
1次	360 19	丸	499 19	丸	16.12	0.40	0.40	333.7	1次	笠懸造り
1次	360 19	丸	499 19	丸	161.20	1.50	0.50	202.5	1次	笠懸造り
1次	360 19	丸	541 19	丸	8.96	0.83	0.83	1.1	1次	笠懸造り
1次	360 19	丸	542 19	丸	17.50	0.75	0.82	128.5	1次	笠懸造り
1次	360 19	丸	542 19	丸	121.82	0.95	0.96	1490	1次	笠懸造り
1次	360 19	丸	542 19	丸	6.76	0.70	0.90	365	1次	笠懸造り

有孔石製品

品名	規格	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重量(t)	備註
300 190	丸	3.64	3.23	3.08	32.1	丸
300 190	丸	3.64	3.23	3.08	32.1	丸

彫刻製成あ剝片

種別	品名	規格	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重量(t)	備註	備考		
1次	1次	丸	312 15	丸	3.02	0.90	1.43	141.4	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	324 16	丸	6.10	0.90	1.17	79.3	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	324 190	丸	16.93	0.63	1.24	201.7	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	324 190	丸	125.59	1.45	1.42	1692	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	324 19	丸	15.18	0.76	0.22	1270	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	324 19	丸	126.74	0.74	0.27	328.6	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 190	丸	132.21	1.48	0.89	1596.1	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 19	丸	8.78	0.70	0.74	328	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 19	丸	19.80	0.87	0.66	363.7	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 19	丸	16.12	0.40	0.40	333.7	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 19	丸	161.20	1.50	0.50	202.5	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 19	丸	8.96	0.83	0.83	1.1	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 19	丸	17.50	0.75	0.82	128.5	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 19	丸	121.82	0.95	0.96	1490	1次	笠懸造り
1次	1次	丸	360 19	丸	6.76	0.70	0.90	365	1次	笠懸造り

国名	調査地	採出地点	産地	産年	長さ(m)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	製法	用途	備考
1次	黒石	160	471	3.80	3.30	1.30	4.3	18	1次	建築	
1次	黒石	160	479	3.61	2.95	1.40	18	18	1次	建築	
1次	黒石	160	500	2.02	1.60	0.98	3.0	18	1次	建築	
1次	黒石	160	505	3.85	3.30	1.30	4.2	18	1次	建築	
1次	黒石	160	511	3.22	4.28	1.78	12.11	18	1次	建築	
1次	黒石	160	538	2.60	3.50	1.00	3.0	18	1次	建築	
1次	黒石	160	540	1.95	1.50	0.82	2.1	18	1次	建築	
1次	黒石	160	543	1.98	1.53	1.00	2.7	18	1次	建築	
1次	黒石	160	549	2.09	1.60	0.91	2.1	18	1次	建築	
2次	黒石	160	551	2.29	1.85	0.98	3.0	18	2次	建築	
2次	黒石	160	552	2.17	1.52	1.12	3.2	18	2次	建築	
2次	黒石	160	553	1.46	1.07	0.60	1.1	18	2次	建築	
2次	黒石	160	554	1.33	1.04	0.54	1.4	18	2次	建築	
2次	黒石	160	555	1.30	1.13	0.63	1.5	18	2次	建築	
2次	黒石	160	556	1.15	1.07	1.00	1.3	18	2次	建築	
2次	黒石	160	557	1.18	1.09	0.56	1.7	18	2次	建築	
2次	黒石	160	558	2.08	2.06	0.82	2.7	18	2次	建築	
2次	黒石	160	559	1.88	1.20	1.22	3.0	18	2次	建築	
2次	黒石	160	560	2.10	1.52	0.84	3.3	18	2次	建築	
2次	黒石	160	561	1.88	1.59	0.97	3.1	18	2次	建築	
2次	黒石	160	562	2.00	1.60	0.78	1.7	18	2次	建築	
2次	黒石	160	563	2.39	1.82	0.92	4.0	18	2次	建築	
2次	黒石	160	564	1.32	1.10	0.55	1.2	18	2次	建築	
2次	黒石	160	565	2.25	1.95	0.83	3.0	18	2次	建築	
2次	黒石	160	566	2.82	3.32	1.36	10.2	18	2次	建築	
2次	黒石	160	567	2.15	2.45	0.80	6.6	18	2次	建築	
2次	黒石	160	568	3.60	3.55	1.44	8.3	18	2次	建築	
2次	黒石	160	569	1.53	1.17	0.82	1.5	18	2次	建築	
2次	黒石	160	570	1.62	1.86	0.87	1.8	18	2次	建築	
2次	黒石	160	571	2.80	3.10	0.96	6.1	18	2次	建築	
2次	黒石	160	572	0.80	0.80	0.77	0.7	18	2次	建築	
2次	黒石	160	573	1.88	1.81	0.82	7.9	18	2次	建築	
2次	黒石	160	574	1.27	0.70	0.84	0.8	18	2次	建築	
2次	黒石	160	575	1.38	0.80	1.0	0.8	18	2次	建築	

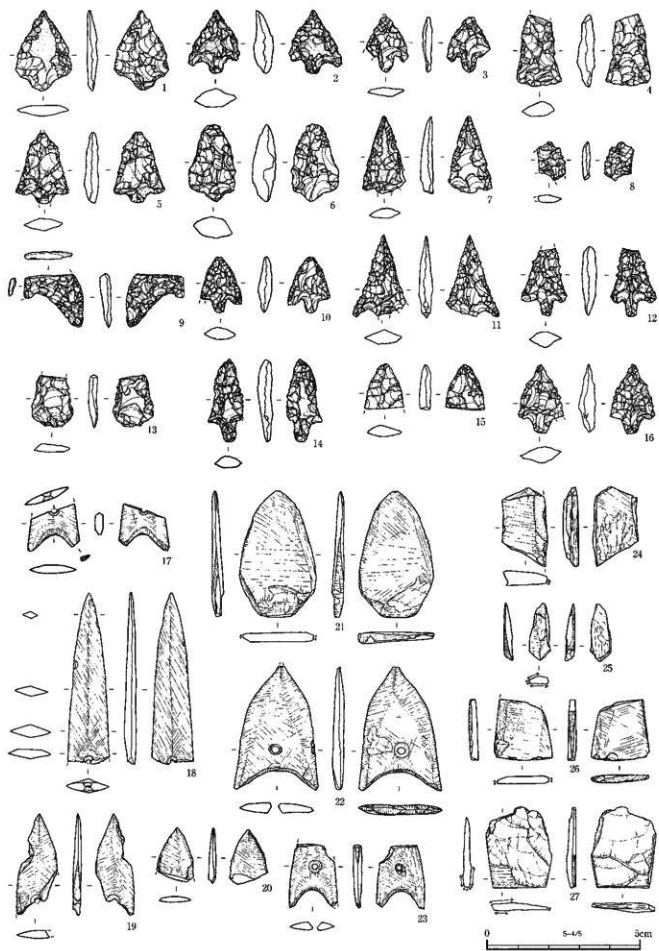
国名	調査地	採出地点	産地	産年	長さ(m)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	製法	用途	備考
1次	黒石	160	581	3.42	2.28	1.83	14.1	18	1次	建築	

第12表 石材単位器種組成

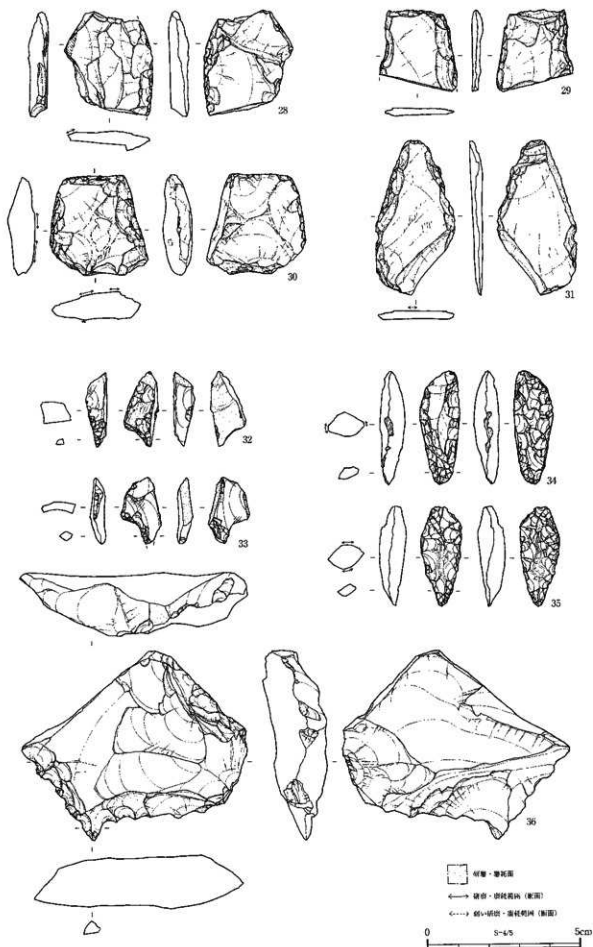
石材	打製石	磨製石	石核	打製石片	磨製石片	塊状石片	磨製石片	一次加工石片	凹・稜・磨石	砥石	石製器	微細器	石核	剥片	砕片	薄片	厚石	計
1次 黒曜石	9		2					6				52	61	85	25		1	249
砂岩								2	11	28				3		14		58
チャート				1				5	1			9	6	16	7	11		56
泥質頁岩				3	1			3	1			7	1	17	8	1		43
硬砂岩				3				2	2	3		2	2	2		7		21
溶岩凝灰岩								1	1			1		5	2	8		19
珪質泥岩												5	1	7	1			17
粘片岩	4	6						21				1		9	2			15
凝灰岩			1	1	1			2				3						12
鞍山岩				1	1			1	3	1	1			2		2		11
閃緑岩					5	1				5								11
花崗岩										5								5
石英														2	2	1		5
鉄石炭														1	3	1		5
頁岩									1	1								4
石英閃緑岩																	3	3
石英泥岩														1		2		3
緑色凝灰岩					2									1				3
凝灰岩									1									1
下石炭	1																	1
粘板岩		1																1
ホルンフェルス																		1
燧石																		1
合計	10	6	8	4	8	9	1	1	28	33	38	1	79	71	169	48	50	544
2次 黒曜石	5		1					5				16	21	63	4			117
チャート								1					1	3	3			9
泥質頁岩												1	1	1				5
珪質泥岩												3						4
凝灰岩													1	2				4
硬砂岩										1								3
砂岩											3							3
粘片岩	1	1																2
凝灰岩					1													2
石英																1	1	2
花崗岩																		1
粘板岩			1															1
溶岩凝灰岩																		1
緑色凝灰岩															1			1
礫石																		1
頁岩											1							1
珪質泥岩	6	1	3	1	0	1	0	0	9	0	3	0	21	25	75	6	7	0
合計	16	7	8	5	8	10	1	1	37	25	41	1	100	96	231	54	57	1

第13表 遺構単位器種組成

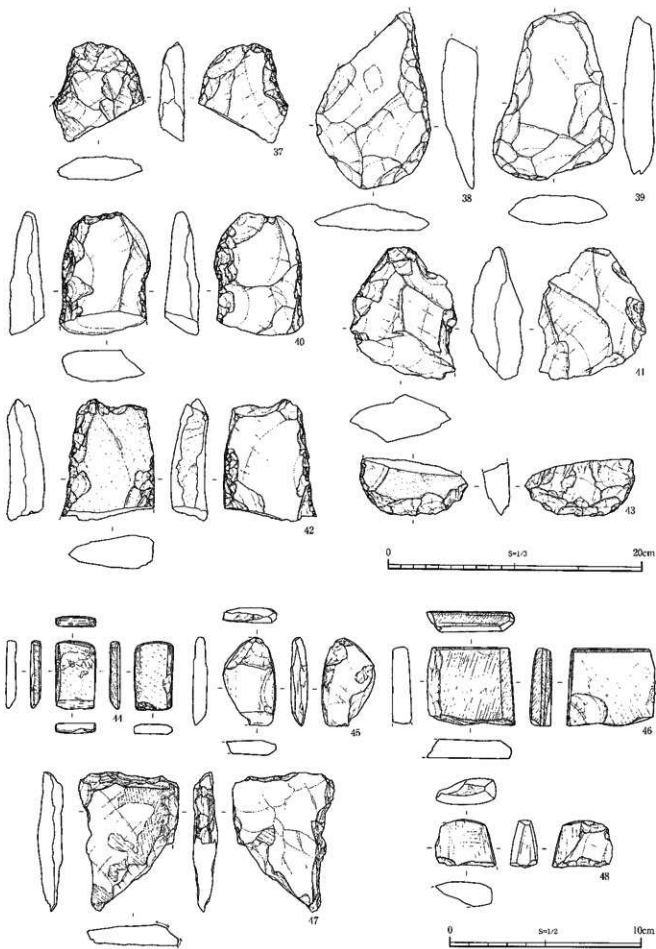
出土遺構	打製石器	磨製石器	磨製石器 未製品	石器	打製石斧	磨製石斧	磨製石斧	磨製石包丁	二次加工 した石片	陶・灰・ 磨石	磁石	有孔 石製品	磨削 難ある 石片	石核	製片	砕片	破片	原石	計
1次 1住	1		1	1					3	1	2		6	7	3		3		28
2住	5	2	2	1	2		1		9	2	7		16	24	41	6	1		120
2住P6						1									2				3
2住西溝				1															1
3住					1								5	2	3				11
3住P1													1						1
3住P6													1						1
土1										1	2					1			3
土2										1									2
土6													1	3					4
1-12															1				1
P3													1						1
P8						1													1
P10					1						1								2
墓1			1		1	2			1	4	3		5	1	14	6	11		47
墓2											3				12	11	3		29
墓3									1	2	4		3	2	7	3	6		30
墓4		2			1				1	1	2		6	1	25	11	6		66
N3 W3											1								1
N3 EWO						1							1	1	5		1		9
N3 E3(墓4?)															1				1
N6 EWO(1住?)										1	1		4	1	5	1			13
N6 E3										2	1		3	4	2		1		13
N9 W3												1	1	1	1				3
N9 EWO(1住?)						1			1	2	1		1				3		9
N9 E3(墓1?)	2	1							2	2	3		3	1	6	3			24
N9 E5(墓2?)				1					3	1			2		1	1	4		13
N12 W3													1	2	1				5
N12 EWO										1			3	2	3		2		11
N12 E3									2		3		1		2				8
N12 E5(墓3?)													1						1
N15 W3												3	3	1				1	8
N15 EWO(1-6?)						1			1		1	1	1						5
N15 E3															3				3
N18 W3(1-5?)													1	2					3
N18 EWO					1				1				1	2	2				7
N21 EWO													1		1		1		3
N24 W3					1								1	1	1				4
N24 EWO(墓1?)			1					1	1		2		1	4	4	2	1		17
N24 E3(墓1?)	1								1	1			3	4	3	2			15
N24 P6											1						2		3
N27 W3(土1?)											1								1
N27 EWO													1		3		1		5
検出その他	1	1							1	1	2		4	4	2				16
合計	10	6	3	4	8	9	1	1	28	25	30	1	79	71	159	48	50	1	544
2次 5住	6	1	2						5		1		13	11	49	5	6		99
5住P1									1				1						2
5住P6															1				1
6住													1	1	1	1			4
7住P1													1	1	1				3
土14															3				3
土15			1												1				2
P1															1				1
P2															2				2
P7					1														1
P16															2				2
F44									1		2								3
溝2													1						1
溝3															1				1
検出その他						1			2				5	11	13		1		33
合計	6	1	3	1	9	1	0	0	9	0	3	0	21	25	75	6	7	0	158
1次-2次合計	16	7	8	5	8	10	1	1	37	25	41	1	100	96	234	54	57	1	702



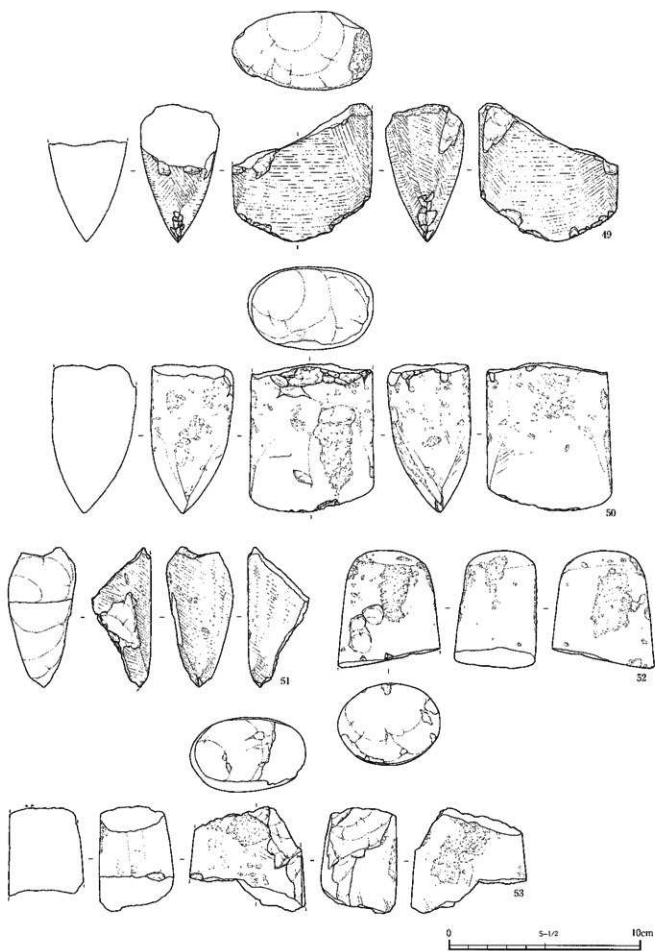
第25圖 石器(1)



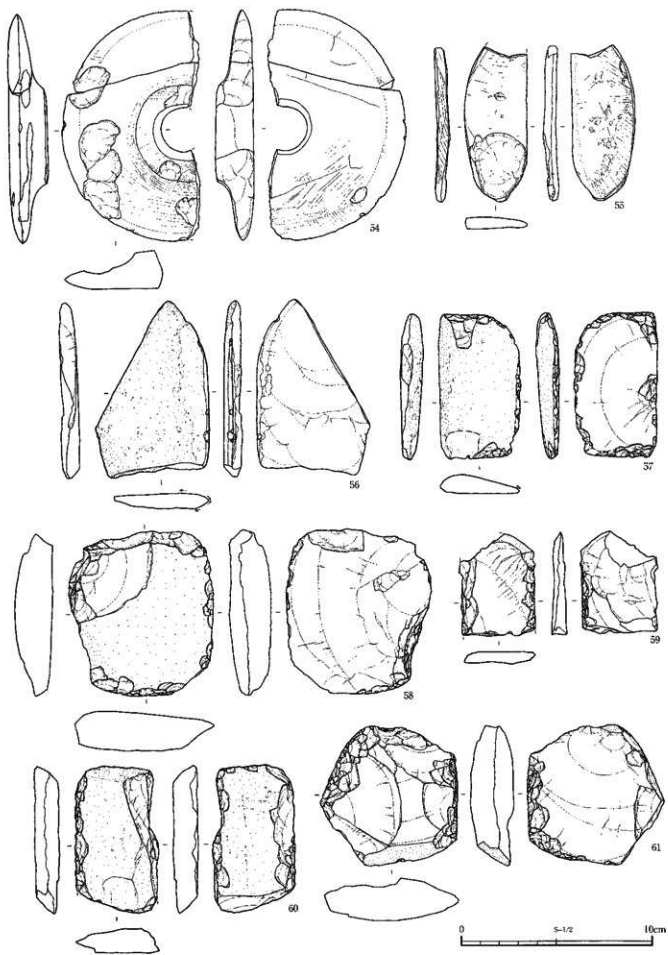
第26图 石器 (2)



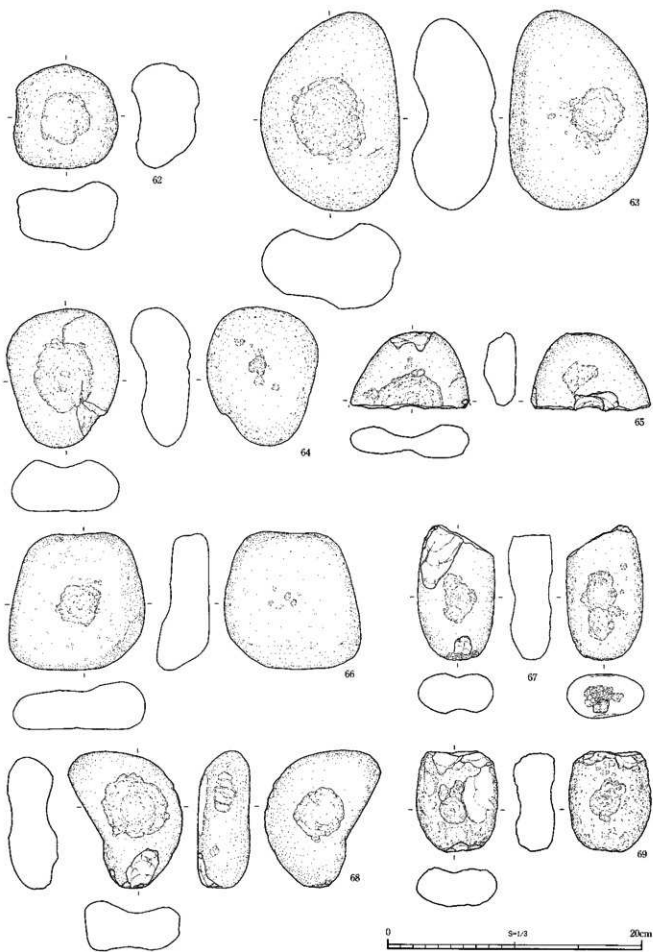
第27図 石器 (3)



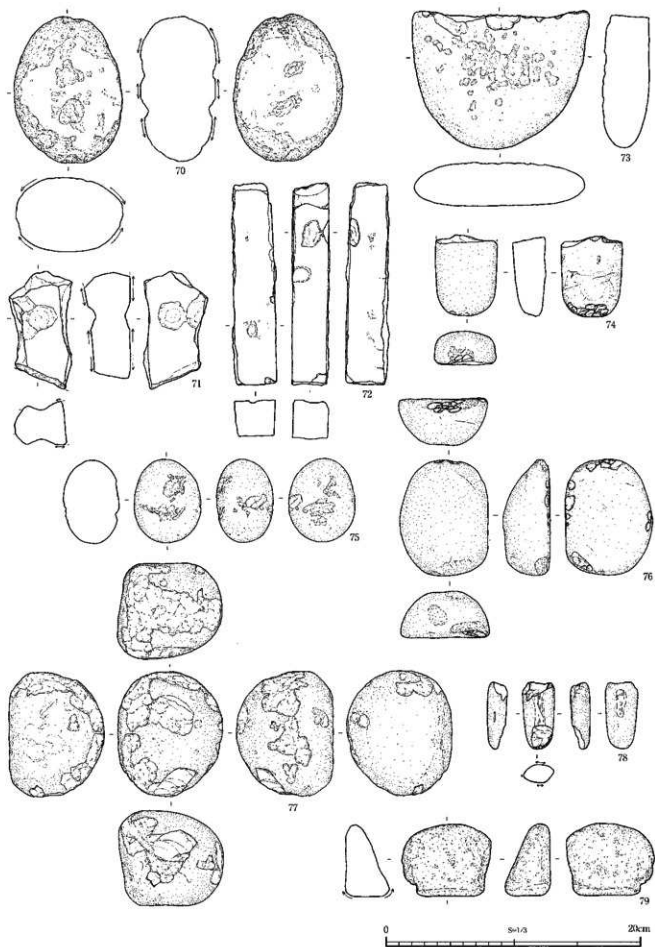
第28图 石器(4)



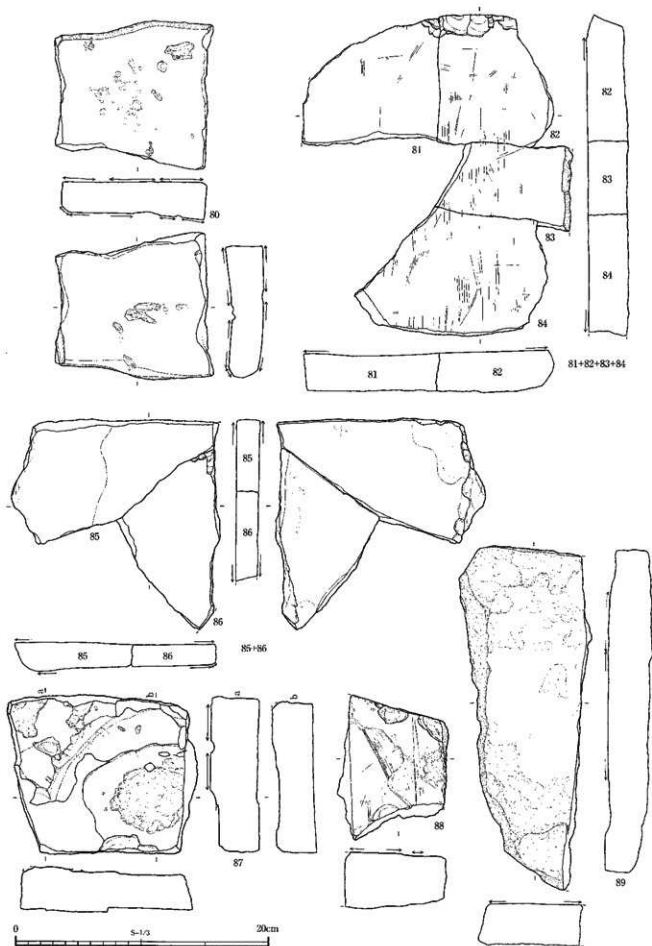
第29図 石器(5)



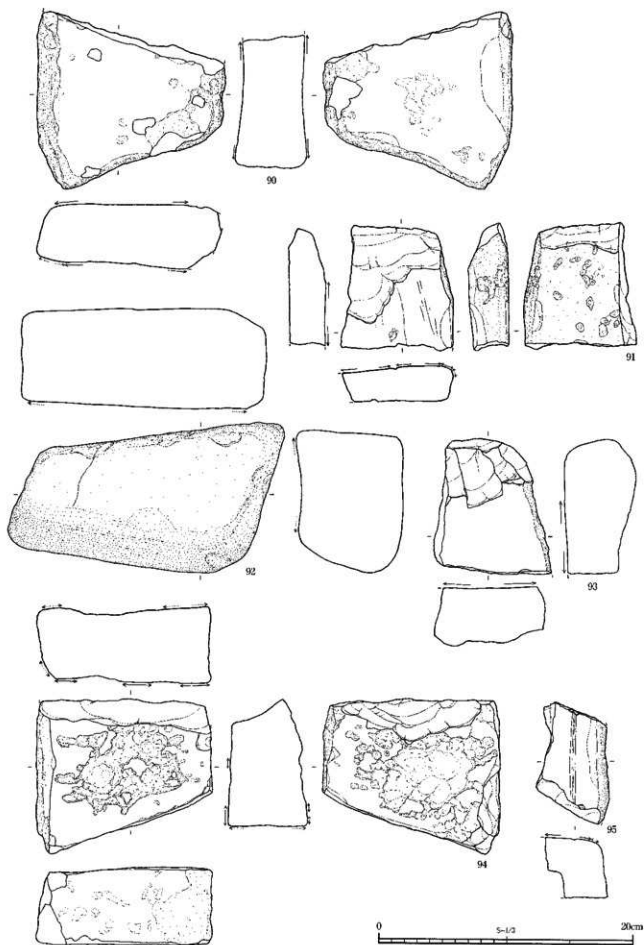
第30图 石器(6)



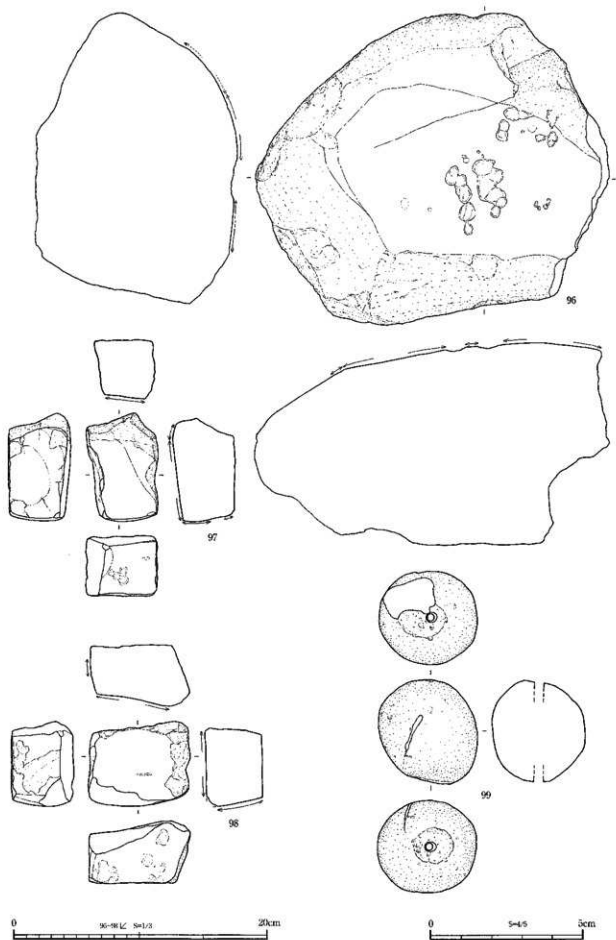
第31圖 石器 (7)



第32図 石器 (8)



第33圖 石器(9)



第34图 石器 (10)

3 人骨

本稿では墓域を構成する弥生時代中期後半～末と考えられる礫床木棺墓から出土した人骨とみられる骨片の種類や部位の同定、および炭素・窒素安定同位体比分析による食性の検討を行った。

(1) 骨同定

ア 試料

試料は、墓4から出土した人骨とみられる骨片である。墓4は、長軸を東西とする最大長2.8m、最大幅2.1mを測る礫床木棺墓であり、共存する土器群から弥生時代中期後半～末の遺構と推定されている。

分析に供された試料は、木遣構を北東(NE)、北西(NW)、南東(SE)、南西(SW)、中央、東小口、西小口の7箇所に大きく分けて土壌ごと一括に採取された後、5mm、2.5mm、1mmの篩分けによって選別された人骨片である。さらに、これら回収された骨片は、16袋に分けて整理され、一括袋番号(001～016)が付されている。

イ 分析方法

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、骨格各部の名称は、図1に示す。

ウ 結果

結果を表1に示す。出土した人骨は、いずれも白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す。以下、試料ごとに結果を記す。

(ア) 001: 墓4 NE

前頭骨、頭頂骨、左右側頭骨、脳頭蓋骨、歯牙、頭蓋骨、頸椎?、椎骨?、肋骨、橈骨/尺骨、四肢骨、基節骨/中節骨などが確認される。このうち、前頭骨は、左頬骨突起が2点みられる。

(イ) 002: 墓4 NE

四肢骨片である。

(ウ) 003: 墓4 NW

部位不明破片である。

(エ) 004: 墓4 SE

前頭骨、頭頂骨、左側頭骨、脳頭蓋骨、上顎骨/下顎骨、歯牙、橈骨/尺骨、四肢骨などが確認される。

(オ) 005: 墓4 SW

前頭骨、頭頂骨、右側頭骨、脳頭蓋骨、歯牙、頭蓋骨、肋骨、橈骨、四肢骨、指趾骨?などが確認される。頭蓋骨にみられる縫合は、内側・外側とも閉じてない状態が確認される。

(カ) 006: 墓4 中央部分

脳頭蓋骨、上顎骨/下顎骨、大口歯、歯牙、頭蓋骨、肋骨、上腕骨、橈骨、脛骨?、四肢骨などが確認される。

(キ) 007: 墓4 中央

頭頂骨、脳頭蓋骨、左上顎第2大臼歯、左下顎切歯、歯牙、頭蓋骨、肋骨、右肩甲骨、人髌骨、脛骨、四肢骨、中手骨/中足骨?などが確認される。なお、左上顎第2大臼歯は歯根が未形成で、左下顎切歯は未咬耗であることから萌出直後か未出歯牙とみられる。

(ク) 008: 墓4 中央

脳頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

(ケ) 009: 墓4 西小口

頭頂骨などが確認される。なお、頭頂骨では、矢状縫合がみられ、内側が閉じており、外側が開いている状態が確認される。

(コ) 010: 墓4 東小口

脳頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

(サ) 011: 墓4 東

脳頭蓋骨、頰骨?、頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

(シ) 012: 墓4 骨1 NE

脳頂蓋骨、上腕骨?、四肢骨などが確認される。

(ス) 013: 墓4 骨3 NW

前頭骨、頭頂骨、左側頭骨、側頭骨?、右耳小骨(キヌタ骨)、後頭骨?、脳頂蓋骨、右肋骨?、下顎骨、上顎骨/下顎骨、歯牙、頭蓋骨、第1頸椎、肋骨、脛骨?、四肢骨などが確認される。

(セ) 014: 墓4 骨4 NW/SW

頭頂骨、頭蓋骨、四肢骨などが確認される。頭頂骨では、矢状縫合がみられ、内側が閉じており、外側が開いている状態が確認される。

(ソ) 015: 墓4 骨5 NE

頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

(タ) 016: 墓4 西

歯牙、頭蓋骨などが確認される。

表1. 骨同定結果(2)

No.	種別	体幹										上肢				下肢				
		肩胛			肋骨				胸骨			上腕骨		前腕		腕骨		手根/尺骨		
		鎖骨	胸骨1	肋骨	肋骨	肋骨	肋骨	肋骨	肋骨	胸骨	胸骨	胸骨	上腕骨	前腕	腕骨	腕骨	手根	尺骨	手根	尺骨
		骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	
001	NE	-	-	1	0.4	1	0.6	5	4.3	1	1.0	-	-	-	-	-	-	-	1	2.8
002	NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
003	NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
004	NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5.1
005	SW	-	-	-	-	-	1	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.6	-
006	中央部分	-	-	-	-	-	1	0.6	-	-	-	-	1	1.4	-	-	-	1	1.6	-
007	中央	-	-	-	-	-	6	6.4	-	-	1	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-
008	中央	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
009	胸小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
010	胸小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
011	腕骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
012	骨1(NW)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-	-
013	骨2(NW)	1	0.3	-	-	-	2	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
014	骨4(NW/SW)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
015	骨5(NE)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
016	歯の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* 骨片は数個、金額は不明(骨)と示す。

No.	種別	体幹										上肢				下肢				重量(g)	
		肩胛			肋骨				胸骨			上腕骨		前腕		腕骨		Jaw (g)	重量 (g)		
		鎖骨	胸骨1	肋骨	肋骨	肋骨	肋骨	肋骨	肋骨	胸骨	胸骨	胸骨	上腕骨	前腕	腕骨	腕骨	手根				尺骨
		骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片	骨片				骨片
001	NE	-	-	-	-	-	59	65.1	70	38.0	-	-	1	0.5	-	-	-	233.8	101.1	605.1	
002	NE	-	-	-	-	-	1	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8	
003	NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.2	32.0	37.1	
004	NE	-	-	-	-	-	34	40.8	33	8.5	-	-	-	-	-	-	-	31.7	61.2	184.4	
005	SW	-	-	-	-	-	61	66.2	21	21.1	1	0.5	-	-	1	0.3	-	101.4	156.7	312.0	
006	中央部分	-	-	-	-	-	2	3.6	39	106.1	64	56.1	-	-	-	-	-	169.0	37.0	471.8	
007	中央	1	5.4	1	11.4	-	-	91	141.1	22	22.7	1	0.9	-	-	-	-	54.0	56.1	362.3	
008	中央	-	-	-	-	-	-	30	27.1	16	6.5	-	-	-	-	-	-	19.9	-	63.4	
009	胸小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1	1.0	6.1	
010	胸小口	-	-	-	-	-	-	3	1.2	5	2.3	-	-	-	-	-	-	2.9	14.7	24.8	
011	腕骨	-	-	-	-	-	-	8	8.6	33	8.0	-	-	-	-	-	-	11.7	60.7	72.6	
012	骨1(NW)	-	-	-	-	-	-	6	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	-	16.1	
013	骨2(NW)	-	-	-	-	-	-	3	3.6	119	47.3	-	-	-	-	-	-	119.1	266.7	374.1	
014	骨4(NW/SW)	-	-	-	-	-	-	3	3.8	7	3.5	-	-	-	-	-	-	3.3	26.8	31.4	
015	骨5(NE)	-	-	-	-	-	-	3	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	-	3.0	
016	歯の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	0.6	6.0	

* 重量は不明、金額は不明(骨)と示す。

エ 考察

墓4から出土した人骨は白色～灰色を呈した破片で、表面に微細なひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す。馬場ほか(1986)を参考にすると、人骨を焼いた際、600℃以下ではほとんど変化がなく、800℃付近では灰白色になり、収縮・硬化が見られ、歯のエナメル質が崩壊し歯冠が失われるなど、最も激しく変化するとされている。これより、本人骨は、800℃以上の高温で火葬された人骨であるとみられる。また、檜崎(2007)によると、通常の遺体をそのまま火葬した場合、横に曲がった亀裂や縦に不規則な亀裂が生じ、歪みや捻れが生じるが、白骨化させた骨を火葬すると歪みや捻れがないと述べている。本人骨は、細片化した骨が多いため断定は難しいが、横に曲がった亀裂や縦に不規則な亀裂が少ないと思われ、白骨化させた骨を焼いている可能性がある。

地点別の出土骨の傾向についてみると、中央部や北側に集中し、西小口や東小口で少ないという特徴が窺える。ただし、本試料については、地点別に括で採取されているため、詳細な分布および遺体の埋葬方法など詳細な検討は困難である。

また、埋葬人骨に関しては、左側頭骨椎体部が3点検出されたことから、少なくとも3体が含まれていたと判断される。さらに、頭蓋の縫合状態をみると内側・外側とも閉じてない頭蓋骨(墓4 SW:005)が認められたほか、矢状縫合において内側が閉じ、外側が開いている状態(墓4 西小口:009、墓4 骨4 NW/SW:014)も確認された。これより、壮年(20～39歳程度)よりも若い個体と熟年(40～59歳程度)の個体が含まれていると判断される。このうち、壮年(20～39歳程度)よりも若い個体については、歯根が未形成な左上顎第2大臼歯や未咬耗の左下顎切歯が墓4中央(007)より検出された。したがって、小児前半(6～10歳前後)程度の個体が含まれていると推定される。

なお、性別に関しては、性判定を行うのに有用な部位(例えば、寛骨大坐骨切痕の形状、頭蓋の乳嵯突起、前頭骨隆起、眉上隆起、外後頭骨隆起など)が確認できなかったことや、細片となり大きさによる判定が難しいなどの理由から、判断には至らなかった。

(2) 炭素・窒素安定同位体分析

ア 試料

試料は、墓4から出土した骨片のうち、1.においてヒトの四肢骨および頭蓋骨に同定された破片である。分析には、墓4 NE(001)の四肢骨片3点(①～③)と墓4中央(006)の頭蓋骨片2点(①、②)を候補として抽出(図版2)し、四肢骨片1点(①)を分析対象とした。なお、分析に供した四肢骨片(①)は、後述するように、窒素同位体の値が検出限界以下となったため、上記した5試料より頭蓋骨片1点(頭蓋骨①)についても分析を行っている。

イ 分析方法

コラーゲン抽出、抽出したコラーゲンの炭素・窒素安定同位体比($\delta^{13}\text{C}$, $\delta^{15}\text{N}$)の測定および、SIサイエンス株式会社の協力を得た。以下に、炭素・窒素安定同位体測定などに用いた機器を示す。

ガス化前処理装置 : Flash EA1112 (Thermo Fisher Scientific 社製)

安定同位体比質量分析計 : DELTA V Advantage (Thermo Fisher Scientific 社製)

ウ 結果

結果を表2に示す。炭素と窒素の安定同位体比($\delta^{13}\text{C}$, $\delta^{15}\text{N}$)は、標準試料からの偏差として示され、単位は千分率(‰)である。墓4から出土した人骨の $\delta^{13}\text{C}$ は、四肢骨①が-26.0‰、頭蓋骨①が-26.7‰、 $\delta^{15}\text{N}$ は2試料とも検出限界以下である。

オ 考察

炭素・窒素同位体比による食性の検討は、日本各地の遺跡で出土した人骨や土器に付着した炭化物などを対象に実施され、資料が蓄積されつつある。本遺跡周辺では、安曇野市(山形町町)内の犀川右岸の北村面と称される段丘面上に位置する北村遺跡の出土人骨を対象とした事例がある。赤沢ほか(1993)の報告によれば、縄文時代中期～後期とされる出土人骨20個体より炭素同位体比の測定値が得られ、このうちの5個体からは窒素同位体比とともに信頼度の高い測定値が得られたとされている。さらに、この測定値と既知の食糧資源の同位体環境(図2)との対照から、C3植物の分布域に接し、重なることから、食糧資源の大部分をC3植物から摂取していたことが示唆されている。

表2. 炭素・窒素安定同位体分析結果

試料						コラーゲン抽出に用いた試料重量	コラーゲン量 (ng)	$\delta^{13}\text{C}$ -VPDB (‰)	$\delta^{15}\text{N}$ -Air (‰)	T-C (‰)	T-N (‰)	
No.	遺構	地点	種類	部位	状態	番号*						
001	竪4	NE	ヒト	四肢骨	破片	①	1.491	0.036	-26.0	ND	19.8	ND
006	竪4	中央	ヒト	頭蓋骨	破片	①	1.501	0.137	-26.7	ND	12.5	ND
							平均		-26.35	-	16.16	-

ND: 検出限界以下

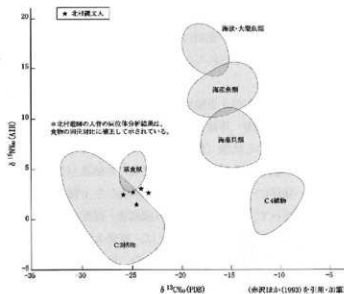


図2. 食糧資源の炭素・窒素安定同位体環境

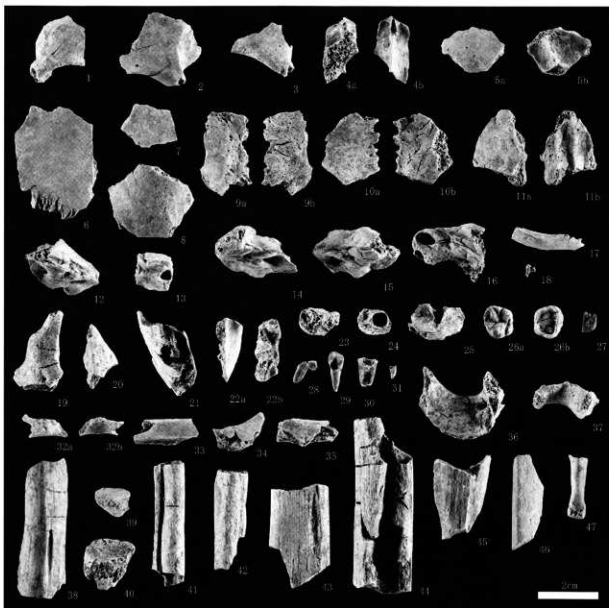
横田古屋敷遺跡の樺床木棺(竪4)から出土した人骨については、炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)が -26.35‰ (平均)、窒素同位体比($\delta^{15}\text{N}$)は四肢骨、頭蓋骨ともに検出限界以下であった。また、抽出されたコラーゲンの品質を確認する方法としてC/N比(炭素量、窒素量の量比)が指標とされるが、竪4の2試料は窒素量がいずれも検出限界以下であったため、その評価には至らなかった。この結果および出土骨の同時代の所見などから、竪4の人骨におけるコラーゲンは、熱変成や土壌中の埋積過程における経年劣化などの影響を受けていると推定され、得られた測定値の信頼度についても課題が残る。

なお、今回の得られた炭素安定同位体比の測定値について、仮に北村遺跡の結果(図2)と比較する場合、人骨コラーゲンと利用食物との間での同位体分別を考慮する必要がある。米田ほか(Yoneda *et al.*, 2002)に示された値では $\delta^{13}\text{C}$ が 4.5‰ 、 $\delta^{15}\text{N}$ が 3.5‰ 、人骨コラーゲンが利用食物と比べ高い値を示すとされる。これを参考とすると、今回の結果はおおよそC3植物の範囲内にあるが、前述したようにコラーゲンの品質に課題が残るため、再検証を含めた資料の蓄積による評価が必要と考える。

引用・参考文献

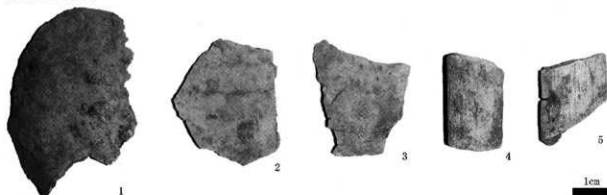
- 赤沢 威・米田 穰・吉田邦夫, 1993, 北村縄文人骨の同位体食性分析, 中央自動車道長野緑地縄文文化財発掘調査報告書11 一 明科町内一 北村遺跡本文編, 財団法人長野県縄文文化財センター発掘調査報告書14 日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・財団法人長野県縄文文化財センター, 445-468.
- 馬場 悠男・茂原 信生・阿部 修二・江藤 盛治, 1986, 根古屋遺跡出土の人骨・動物骨, 雪山根古屋遺跡の研究 一 福島県雪山町根古屋遺跡における再探査報告, 福島県雪山町教育委員会, 93-113.
- 橋崎修一郎, 2007, 火葬人骨と考古学, 契川真一編著「墓と葬送の文化」, 高志書院, 107-126.
- Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa, 2002, Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon 44(2), 549-557.
- 米田穰, 2004, 炭素・窒素安定同位体による古食性復元 縄文考古学ハンドブック, 朝倉書店, 411-418.
- 吉田邦夫・宮崎ゆみ子, 2007, 煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究 日本における稲作以前の主食植物の研究, 平成16-18年度科学研究費補助金 基礎研究B (課題番号 16300290) 研究成果報告書 研究代表者 西田恭弘, 85-96.

図版1 出土骨



- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. ヒト前頭骨右頬骨突起(005;墓4 SW) | 2. ヒト前頭骨左頬骨突起(001;墓4 NE) |
| 3. ヒト前頭骨左頬骨突起(001;墓4 NE) | 4. ヒト前頭骨(004;墓4 SE) |
| 5. ヒト前頭骨(013;骨3(NW)) | 6. ヒト頭頂骨(001;墓4 NE) |
| 7. ヒト頭頂骨(004;墓4 SE) | 8. ヒト頭頂骨(005;墓4 SW) |
| 9. ヒト頭頂骨(009;墓4 西小口) | 10. ヒト頭頂骨(014;墓4骨4(NW/SW)) |
| 11. ヒト後頭骨?(013;墓4 骨3(NW)) | 12. ヒト左側頭骨體体部(001;墓4 NE) |
| 13. ヒト左側頭骨體体部(004;墓4 SE) | 14. ヒト左側頭骨體体部(013;墓4 骨3(NW)) |
| 15. ヒト右側頭骨體体部(001;墓4 NE) | 16. ヒト右側頭骨體体部(005;墓4 SW) |
| 17. ヒト側頭骨?頬骨弓?(013;墓4 骨3(NW)) | 18. ヒト右砧骨(013;墓4 骨3(NW)) |
| 19. ヒト右頰骨(013;墓4 骨3(NW)) | 20. ヒト頰骨?(011;墓4 東骨) |
| 21. ヒト左上頰骨(001;墓4 NE) | 22. ヒト下顎骨(013;墓4 骨3(NW)) |
| 23. ヒト上顎骨/下顎骨(004;墓4 SE) | 24. ヒト上顎骨/下顎骨(006;墓4 中央部分) |
| 25. ヒト上顎骨/下顎骨(013;墓4 骨3(NW)) | 26. ヒト左上顎部2大臼歯歯根(007;墓4 中央) |
| 27. ヒト下顎切歯歯冠(007;墓4 中央) | 28. ヒト大臼歯歯根(006;墓4 中央部分) |
| 29. ヒト歯牙歯根(墓4 001;墓4 NE) | 30. ヒト歯牙歯根(006;墓4 中央部分) |
| 31. ヒト歯牙歯根(007;墓4 中央) | 32. ヒト第1頸椎前結節(013;墓4 骨3(NW)) |
| 33. ヒト肋骨(001;墓4 NE) | 34. ヒト肋骨(001;墓4 NE) |
| 35. ヒト肋骨(006;墓4中央部分) | 36. ヒト右肩甲骨(007墓4 ;中央) |
| 37. ヒト上腕骨遠位端(006;墓4 中央部分) | 38. ヒト上腕骨?(012;墓4 骨1(NE)) |
| 39. ヒト橈骨骨頭(005;墓4 SW) | 40. ヒト橈骨骨頭(006;墓4 中央部分) |
| 41. ヒト腕骨/尺骨(001;墓4 NE) | 42. ヒト腕骨/尺骨(004;墓4 SE) |
| 43. ヒト大腿骨(007;墓4 中央) | 44. ヒト脛骨(007;墓4 中央) |
| 45. ヒト脛骨?(006;墓4 中央部分) | 46. ヒト脛骨?(013;墓4 骨3(NW)) |
| 47. ヒト基節骨/中節骨(001;墓4 NE) | |

図版2 分析試料



1. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨①;墓4 NE)
2. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨②;墓4 NE)
3. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨③;墓4 NE)
4. 四肢骨 破片(四肢骨①;墓4 中央部分)
5. 四肢骨 破片(四肢骨②;墓4 中央部分)

第IV章 総括

横田古屋敷遺跡を2度にわたり調査を行った。本報告分では遺跡の一部を調査したにすぎないが、弥生時代中期後半から後期にかけて営まれていた集落の一部と墓地が確認された。発見された礫床木棺墓のうち1基は限下で大型に分類される規模をもつものである。本章では、礫床木棺墓の構築過程・出土人骨、弥生時代中期を中心とした集落立地を概観し、居住域と墓域との認識について触れ、1・2次にわたる調査成果を概括的にまとめて総括とする。

第1節 礫床木棺墓

今回の調査で検出された礫床木棺墓の構築過程を以下の9つに分けて工程毎の考察を行った。

- (1) 木棺規模に合わせた埋葬施設の設計をする⇒(2) 木棺埋設土坑を掘削⇒(3) 小口穴の掘削⇒(4) 礫床を設ける⇒(5) 木棺安置⇒(6) 木棺の小口板を固定するため裏込め石及び土砂を詰める⇒(7) 土坑内の木棺周囲に礫を込める⇒(8) 土坑周囲に帯状に礫を配置する⇒(9) 埋葬部全体を覆うように土嚢で盛土を施す

(1)：墓1～3の小口穴は土坑の短軸とほぼ同幅を測り、長軸の端部に位置することから、木棺規模に拠る設計がなされているとみて良いだろう。対する墓4は礫集積の状況から他墓と同規模の木棺が想定されるが、土坑設計が木棺規模に拠らない。また、礫集積や骨片の出土状況から、墓4のみ長大な木棺が安置されていた可能性は低いと考えられる。

(2)：墓1・3は土坑自体が掘り込みをほとんど持たない。墓2は30cm、墓4は45cmほどの深さを持つ土坑を掘削している。前述したように、上部が削平された可能性が低い以上墓2・4の方が手間をかけていることになる。

(3)：深さは10cm未満の穴がほとんどで、4基にはそれほど大きな違いがみられない。礫床敷設や礫集積、盛土を施すことで固定を図っていたのだろう。墓3は比較的幅広小口穴が検出されている。

(4)：墓4の礫床は30cm以上の厚みを持ち、他墓よりも厚く構築されている。木棺の上部に配置されていた礫が落ち込んだと仮定することもできるが、推定木棺位置の周囲も同様の厚みを持つことから、中央部分のみ陥没した礫が堆積した状況とはいえない。従って、初期構築時に厚みのある礫床を設けたと推測される。

(5)：いずれの墓も側面・小口面の木材を最低2つずつ以上に、蓋板を構築した礫床組合式木棺を想定している。

(6)：裏込め石の存在は確かではない。各墓から小口穴内に落ち込む礫が確認されているが、木棺が朽ちた後の流れ込みの可能性が十分に考えられるためである。そこまでの追求は本調査では成し得なかった。

(7)：墓1は掘り込みを持たない代わりに、木棺周囲に礫集積を行って固定したと考えられる。墓2は隙間を埋める様な感覚で木棺周囲に礫を充填させていた。墓3は木棺周囲に礫集積が認められず、墓1と同様に掘り込みを持たないため、組合式木棺のような構築方法で長軸の板を固定したか、側部は固定に礫を用いずに構築したと推測される。墓3は小口穴の形態を踏まえると、土坑内にゆとりを持たせることなく、木棺が構築されたと考えべきであろうか。その点、墓4は推定木棺位置から土坑掘方まで十分なゆとりを持って構築されている。

(8)：礫配置の形態は大きく2つに分類することができる。遺体安置場とした棺床面に礫集積をもつことは共通するが、墓1・2・4は土坑の長軸両端に礫集積を配するとともに、側部にも礫集積をもつ形態をとる。墓3は土坑を挟むように長軸両端のみ礫集積をもつ形態をとり、比較的簡素な仕上がりになり、木棺に礫を積載させていたことも考えられる。前者においては、墓4の土坑周囲及び棺床面の礫集積の密度等が墓1・2を凌駕している。墓1～3に比べ、墓4は特に礫の粒径も考慮して丁寧に構築されたことが窺われる。土坑周囲から検出された礫集積の存在から、後世に遺構上部が削平された状態で検出されたとは考え難い。

(9)：埋葬部の最終的な形態は土まんじゅうのような塚状を呈していたと推測される。遺跡周囲には礫も豊富に在ることから土嚢混合で盛り上げたと考えられ、墓4のみは墓標と推定される巨礫が遺存していた点が挙げられる。

この巨礫は棺床面に接するように出土しており、これは木棺に蓋板が設けられ、中に空間が存在してことを示唆するものではないか。ひいては墓標の原位置は厚く堆積した盛土ではなく、木棺直上に立てられていたと推測される。周囲の礫集積は、墓域であることを明確にするために盛土の縁に配置したものと考えることもできる。

以上、9つの工程の内(1)(2)(4)(7)(8)(9)には差異が認められる。構築方法の観点に拠ると、墓4は集団墓の中で一線を画している墓として位置付けることが妥当であり、墓1~3はその形態造から墓4に対する陪塚の可能性を考慮せねばならない。

集団墓内において「埋葬時の手間=被葬者の階級」とは必ずしも成立するとは限らないが、厚葬の度合いが被葬者の何らかの差異を表現するものである場合、『墓4>墓2≥墓1≥葬3』という図式が成り立つと考えられる。なお、出土遺物の面では空塚の可能性も考慮せねばならないが種類・量ともに墓4が突出しているわけではない。

今後、礫床木棺墓を調査する際の追求の方向性は以下のとおりであろう。

(ア) 礫床木棺墓の構築～埋葬過程の復元

⇒1次調査は諸般の制約があったため、記録に時間をかけることができなかった(墓内出土骨片の詳細な位置や、構成する礫の石材検討等は一切行えなかった)。そのため、今回の考察には不確かな部分が多い。今後、市内で発見される礫床木棺墓の調査に期待したい。

(イ) 墓制の差異と規格の差異

→墓制の形態・規格による差異を出土人骨・出土遺物等を踏まえた上で解析・検討を行っていく。

→集団墓内で墓制の差異が認められた場合、形態・規格による優劣を普遍的に捉えても問題がないのか。

→礫床木棺墓という特異な埋葬形態の位置付け。

(ウ) 礫床木棺墓に葬られた小児骨の評価

⇒5歳以上で既に成人と同様、つまり礫床木棺墓を埋葬形態にとる事例が既に報告されている⁸⁾。

本道跡の第4号礫床木棺墓出土の人骨は科学分析の結果から最小個体数で3個体が数えられた。埋葬方法や埋葬頭位、性別に關しては判別が困難であったものの、分析結果から3個体は小児前半(6~10歳)・壮年(20~39歳)・熟年(40~59歳)の3世代にわたる年齢差があることが判明した。本道跡の礫床木棺墓の構築復元の考察からは、追葬ではなく、同時埋葬が行われたものと推測されるのだが、試料を一括で回収しているが故に埋葬状態の復元にまでは至れなかった。

同時埋葬を前提とした場合、年齢差を踏まえると、何らかの事情によってほぼ同時期に亡くなった血縁関係を有する同族ともみることができる。なお、追葬を前提とした場合、盛土は比較的簡易的なものであったと考えざるを得ないが、埋葬状況・出土地点等の情報が不足しているためこれ以上の検測は差し控えることにする。

(エ) 安定同位体比からみる食性分析

炭素・窒素安定同位体比分析とは骨からコラーゲンを抽出して、そのコラーゲン中の炭素・窒素の同位体比を測定、食性復元を試みる科学分析である。食性はC3植物・C4植物・草食獣・海獣・大型魚類・海産魚類・海産貝類の6つのグループに大きく識別される。

C3植物とは一般的な光合成をおこなう植物で、イネ、ムギ等の穀物やクリ、クルミ等の木本、ソバなど、植物のほとんどがC3植物に含まれる。C4植物にはアワ、ヒエ、キビ等の雑穀、トウモロコシ、サトウキビ等が含まれる。両者は炭素安定同位体比で容易に識別できることが知られている。

今回の科学分析の結果、残念ながら窒素安定同位体比において信頼できる値を測定することが叫ばなかった。炭素安定同位体比の数値を見る限りは、C3植物を主たるエネルギー源としていたことが窺え、陸上の動植物資源の摂取が高かったと推定される。しかし、既述している通り、窒素も含めた測定値の指標が試料の評価とされており、得られた炭素同位体比測定値の信頼度についても課題が残る結果となってしまった。今後、本人骨の再検証を含めて松本地域内の試料の蓄積を期待したい。

第2節 集落と墓

1 松本市内の縄文中期から古墳中期までの集落変遷 (第7図) 「遺跡名」はゴシック体で「遺跡」は省略している。

松本市内は旧石器時代に比定される遺物が各地で採集されているものの、今のところよくわかっておらず、縄文時代に入っても住居址が散見する程度の希薄な分布状況しか把握できていない。

縄文中期になると爆発的に人口が増え、後続する後晩期までには集落址の調査事例数が増加する。拠点集落は北から**大村～堀の内～坪ノ内～小池・一ツ家・エリ穴**～川西開田と標高650mに沿って展開する。

晩期末～弥生前期は人口減少傾向にあつて小規模な集団が移住を繰り返していたからか、それまでみられていたような拠点的な集落は未だ発見されていない。

過渡期に一度寂滅した集落が各地で繁栄するのは水稲農耕が普及する弥生時代中期に入ってからである。市内ではこの頃から弥生式土器が主体的に使われるようになり、これが松木での弥生時代の幕開けである。

水稲農耕開始期は低湿地を利用して営んでいたムラが各地に点在していて、集落密度や人口密度は希薄だったと想像される。その分布は城山から標高600mの等高線に沿う様に宮瀨本村～沢村～岡の宮～横田古屋敷～泉町～出川南と円を描くように中山丘陵の突端部に至るまで点在する。この集落分布から水稲農耕開始期から弥生時代中期後半までは標高600m以下に存在する低湿地を主に利用していたと考えられる。

その後、安定した食料供給に伴って人口が爆発的に増加する。それまでの水田域では『需要>供給』となってしまうため、土木技術向上と農地拡大を模索し、弥生後期から古墳時代にかけての集落は縄文時代以来、数百年の空白期間を置いて標高650m付近に形成し直すように、各地に展開されていくことになる。

次に、縄文中期から時代を遡って本遺跡を含む女鳥羽川・薄川流域内の遺跡をみていきたい。

縄文中期は堀の内、大村塚田、柳田などが拠点集落として挙げられる。しかし、続く後晩期に比定される遺跡の発見がぐっと少なくなる。

縄文晩期の十器は女鳥羽川流域では岡田町、柳田、女鳥羽川等から、薄川流域では南方、神田、鎌田等から発見されているが、いずれの遺跡からも該期の集落址は発見されていない。両流域内では縄文後期を含めたとしても、薄川左岸山裾の緩斜面に立地する林山腰から後期の柄杓式敷石住居址が発見されているばかりである。

縄文晩期末から弥生時代前期にかけて営まれていたと考えられる集落(弥生前期に比定される十器が主体的に用いられている集落は小規模なものが点在していたからか、未だ発見はされていない)は女鳥羽川・薄川の氾濫を受け、定期的な移住を余儀なくされていたと推測され、弥生中期後半に至るまで、つまり水稲農耕が本格化されるまでは拠点的な集落は成し得なかった。

弥生中期後半になると両河川の氾濫が落ち着き、肥沃になった土地利用するために横田古屋敷・岡の宮・泉町・宮瀨本村・沢村に集落を構え、安定した食料供給によって人口増加傾向になる。古墳時代には土木技術の上達もあいまって、それまで耕作することが困難であったであろう大村～堀の内の背後に存在する山裾湿地帯河縁へと生産力不足を補うために農地拡大を図って集結し、大規模集落を形成する。そのほか、千鹿頭北も拠点集落の一つとして選定され、宮瀨本村・泉町では規模がいくらか縮小するが古墳時代に入っても集落が継続する。標高650m付近が専ら集落立地の中心になることは桜ヶ丘古墳・妙義山古墳・針塚古墳などの古墳時代中期の円墳群の存在が物語っている。

2 弥生時代の墓制

松本市内の縄文末から弥生終末までの代表的な墓址は時期を追ってみて行くと以下の遺跡が挙げられる。

縄文晩～弥生初: 高畑 (土器棺墓が2つ検出されるが、住居址は無い。土坑は発見された)

エリ穴 (土器棺墓) 後晩期に帰属する墓址

弥生前: 針塚 (再葬祭) 5基の土器棺墓が発見され16個体の土甕が出土。住居址は無い。

中期中頃：境窪（礫床木棺墓、土器棺墓、土坑墓）住居址群の東縁に礫床木棺墓等の墓域が検出された。

比較的位置関係は近く、礫床墓と直近の住居址との距離は5m余りを測る。

中期後半：横田古屋敷（礫床木棺墓）

後期：宮淵本村（礫床木棺墓、土器棺墓）中期末の住居址を破壊して構築される。5c末に直近に円墳が築かれる。

平畑（方形周溝墓）4基発見されている。場所は弘法山古墳に非常に近く、北西の裾に位置する。

白神場（方形周溝墓は出土遺物からは判断しきれぬため、類別・形態から後期に位置付けられている。

弥生中前の土坑は発見されたが、住居址は無い。）

弥生末～古墳初：弘法山古墳（前方後方墳、本古墳築造時から松本市は古墳時代となる）

前項で述べたような集落変遷の中、大型礫床木棺墓を構築した集団はこの地にこだわり続けることをしなかった。本遺跡中に葬域が構築されたことの意義をどこに求めるべきか。礫床木棺墓群は絶対的な数でこそ少ない発見ではあったが、墓4の規模は異様である。存在自体が別格と言える方形周溝墓とはまた違って、一集団墓内において明瞭な差が誰の目にも明らかで非常に分かりやすい例であると言えよう。

3 墓域と居住域

今回の調査では居住域と墓域が近接して検出されていることが特徴の一つとして挙げられ、1住と5件の中間に礫床木棺墓群が位置するように造営されていた。既述したように、これは少なくとも2つ以上の住居址支群の存在を示唆するものである。出土遺物から勘案すると礫床木棺墓は2住～7住、建物址と同時に構築されたものと推測される。住居址群とは25～30m程距離をとっており、集落縁辺の住居址とそれに附随する葬域と捉えて問題はないだろう。

しかし、礫床木棺墓に非常に近い位置に1住が検出されており、礫床木棺墓は盛上工法で構築されていたと推測されるため、重複して築かれていたことになってしまうが、地床炉を有することから生活空間であったと考えられる。住居址内出土遺物は中期後半に帰属するものが多いが後期に比定される土器が出土していることや、遺構形態も後期に多くみられる形状であること等から弥生時代後期に埋没したと考えたい。

住居址を構築する際、既に墓としての認識がなかったのであれば、とるにたらない問題とも言えるべきことだが礫床木棺墓に埋葬が行われたと想定される弥生時代中期後半から1住埋没時期までの時間幅では墓域としての認識がまだあったと考えられる。今回の調査結果からはこれ以上の追究は難しいため、今後類似するケースが発見されることを期待したい。

第3節 まとめ

今回の横田古屋敷遺跡の調査において次の成果を得ることができた。

- 1 竪穴式住居址、掘立柱建物址、平地式建物址が発見され、弥生式土器・石器の良好な遺物を得ることができた。出土遺物から弥生時代中期後半を主とする集落（一部後期初頃の土器が混じる遺構が存在する）、墓制などを明らかにすることができた。
- 2 集落に付随すると考えられる4基の礫床木棺墓が発見された。内1基は2.8×2.1mを測る大型墓域である。比較的小規模な他3基の礫床木棺墓は口の字状に配置されており、構築場所・主軸方位にも何らかの意図があるのだろう。これらの礫床木棺墓群は墓4の存在から集団墓の中に形態の差異が明らかに認められる段階にあたり、弥生時代墓制の変遷上で第2段階に相当するものと考えられる。
- 3 成人・木成人を問わずに礫床木棺墓に埋葬されているという、前例に合致するように本人骨中にも小児骨が含まれていた。
- 4 対象地北西部に設定したトレンチ内は奈良・平安時代の遺物包含層が発見されたに止まり、弥生時代包含層及び遺構は古代以降の洪水によって破壊されている状況が検出されたため、岡の宮遺跡・女鳥羽川遺跡までの

弥生集落の連続性を追うことはできなかった。しかし、直線距離約 200m で遺構検出面の比高が 1~2m、出土遺物が同時期であることなどから調査すると互いの集落の関連性を推測するには十分な資料が得られた。

- 5 2 次調査地においては、古墳時代前~中期に帰属すると推測される土器集中や、平安時代に埋没した井戸跡などが発見された。標高値が比較的近似する、南方の泉町遺跡、西方の沢村遺跡との関連性も窺いながら、弥生時代以降の横田古屋敷遺跡像について追究していく必要があるだろう。

以上、今回の調査では西に位置する女鳥羽川遺跡、岡の宮遺跡と連続性を持つ大規模集落であるという結論を導き出すには資料が乏しい結果となってしまったが、古代以降の洪水性堆積物が遺跡間に確認されたことから、旧女鳥羽川の流路の 1 つが岡の宮遺跡との間に流れていたことが判明した。そうした中で 4 基の礎床木棺墓が発見され、集落内に存在する葬域の一端を垣間見ることができたのは大きな成果である。礎床木棺墓の 1 基は 2.8 × 2.1m を測る県下最大級の草址であることも注記したい。

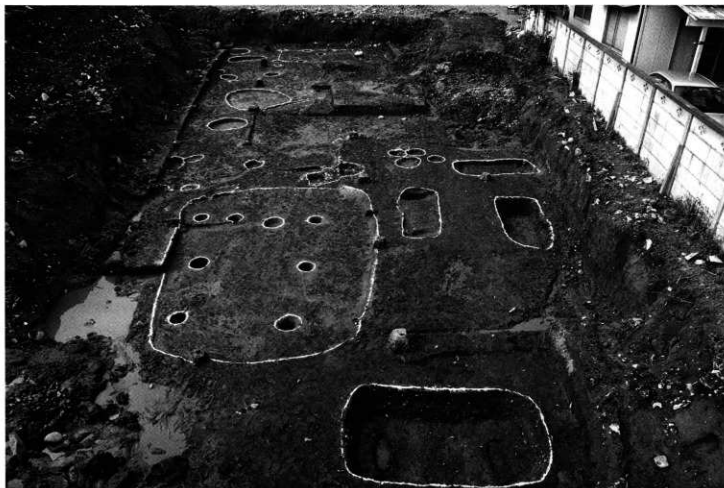
なお、本著作成中に出川南遺跡第 17 次発掘調査で礎床木棺墓発見された。墓内からの遺物の出土は希薄ではあるが、同検出面の遺構分布の状況から弥生時代中期後半~後期に帰属するものと考えられている。出川南遺跡の葬域は構成する要素が木遺跡とは違い、円形周溝墓、土器棺墓、木棺墓、土坑墓等が密集する墓址集中地帯から 1 基の礎床木棺墓が発見されており、若干離れた位置からは方形周溝墓も発見されている。今後の整理・検討によって、本報告とは違った礎床木棺墓像が明らかになっていくだろう。

【注】

- (1) 『推定信濃国府 1』の分布調査で下水道工事の跡 1 中より多量の弥生土器が収集されている。土器の含まれていた黒色土層は成層圏に認められ、女鳥羽川(川内の女鳥羽川遺跡(縄文晩期)でも検出されている。
- (2) 『推定信濃国府 1』や『松本市史研究 第 2 号』等で「元屋敷遺跡」として本遺跡が記載されている。
- (3) 『松本市史 第 4 巻 弥生時代の生活と文化』を参考に記述した。
- (4) 『宮道遺跡』で長楕円形のピットで構成された平床式建物と確認されており、2 本埋の柱材を組み合わせて一つの柱穴に立てた結果としている。
- (5) 『竹原遺跡Ⅱ』で周溝のみが検出され、報告書内「第 1 墓(まとめ)」に現状の溝状遺構についての考察がなされているので参照された。
- (6) 礎床墓は長野県と群馬県にみられる特異な埋葬形態であり、群馬県有馬遺跡では 4 歳以下の乳幼児は土器棺墓に、5 歳以上は未成年と成人を問わず礎床墓に埋葬されているという結果がでている。

【参考文献】

- 長野県 1983 『長野県史』考古資料編 全 1 巻(三) 主要遺跡(中巻)
- 松本市教育委員会 1983 『推定信濃国府 1』
- (財)長野県歴史文化財センター 2000 『1:信濃自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 5 - 長野市内 その 3 松原遺跡』
- 成井雅尚 1992 『松本市域における弥生時代以降の開発と遺跡立地』『松本市史研究』第 2 号
- 松本市教育委員会 1996 『竹原遺跡Ⅱ』
- 松本市 1996 『松本市史』歴史 I 原始・古代・中世
- 松本市教育委員会 1998 『縄文遺跡 川西開田遺跡 I・II』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『群馬の遺跡』3 弥生時代
- 久田正弘 2007 『弥生住居の想定復元』『石川県埋蔵文化財情報』第 18 号



1次A区 全景 (南から)



2次A区 全景 (南から)



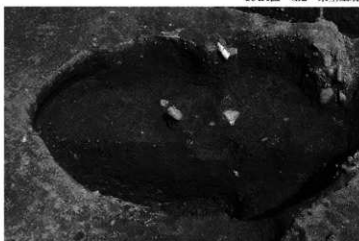
1次A区 建1 北壁土層



1次A区 墓2 東壁土層



2次B区 東壁土層断面



2次B区 土16土層断面



大規模試掘調査T1東壁土層断面



大規模試掘調査T1南壁土層断面



2住 遺物出土状況 (南から)



2~4住 完掘状況 (南から)



墓1 礎検出状況 (南から)



墓1 礎出土状況 (西から)



墓1 礎出土状況 (北から)



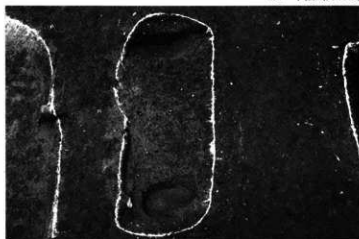
墓1 半截



墓1 半截 (南から)



墓1 半截 南小口



墓1 完掘状況



墓1 半截 北小口



墓2 礎検出状況 (西から)



墓2 礎検出状況 (南から)



墓3 礎検出状況 (北から)



墓4 礎検出状況 (北から)



墓3 東部礎検出状況



墓4 平載出況 (北から)



墓3 西部礎検出状況



墓4 覆土除去後 (北から)



墓4 掘後出状況 (西から)



墓4 巨礫検出状況



墓4 覆土除去後 (西から)



墓4 完掘状況 (西から)



平成元年 航空写真



同左地図 (●が調査地)

長野県松本市 横田古屋敷遺跡第1・2次発掘調査 報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし よこたふるやしきいせき だい1・2じほくつちうさほうこくしよ						
書名	長野県松本市 横田古屋敷遺跡 第1・2次発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名	松本市文化財調査報告						
シリーズ番号	No.209						
編著者名	直井雅尚、三村竜一、内田陽一郎、吉井理						
編集機関	松本市教育委員会						
所在地	〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号 TEL0263-34-3000(代) (記録・資料保管:松本市考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738-1 TEL0263-86-4710)						
発行年月日	2012(平成24)年3月30日 (平成23年度)						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
よこたふるやしき 横田古屋敷	ながのけんまつもとし 長野県松本市 しよまち 元町2-22	20202	82	36° 14' 34"	137° 58' 56"	1997.06.19 ～ 1997.07.14 2008.07.07 ～ 2008.08.11	第1・2次 調査 計463㎡ 遊技場建設、立体駐車場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
横田古屋敷 第1次調査	集落 その他の墓	弥生	竪穴住居址 掘立柱建物址 土坑 ビット 溝 礎床木棺墓		4軒 1棟 9基 15基 1条 4基	弥生土器 環状石斧 磨製石鏃 磨製石鏃 砥石 人骨	礎床木棺墓4基を調査。住居址内から環状石斧・磨製石斧・磨製石鏃・大量の弥生土器が出土している。
横田古屋敷 第2次調査	集落	弥生 古墳 奈良～平安	竪穴住居址(弥生) 平地式建物址(弥生) 土坑(弥生) 土坑(平安)井戸址 ビット 溝 集石遺構		3軒 1軒 8基 1基 36基 4条 1基	弥生土器 磨製石鏃 打製石鏃 土師器 灰釉陶器	掘り込みをもたず、多角形の柱穴列・地床炉を3基有する平地式建物址が1軒検出されている。
要約	<p>第1次調査：A区は検出面上層において遺物包含層を3mグリッド調査を行った結果、非常に多量の遺物を得た。また、B区2住は遺物量が極めて多量であり、環状石斧が出土した。A区の南東部部分より長方形の礎床中箇所が4箇所みられ、これらは調査の結果、礎床木棺墓であることが判明した。墓壇の周囲に及ぶほどの大量の礎が検出されたほか、土器・石器・石製品・骨片などが出土している。特に礎床木棺墓のうち一つは規模が2.8×2.1を測る大型の墓址である。</p> <p>第2次調査：第1次調査を受け、礎床木棺墓の存在や墓域の範囲を確認する意味も含まれていた調査であったが、2次調査においては礎床木棺墓は見えなかった。検出された遺構のうちの1つである平地式建物址は八角形状を呈すると推測され、3基の炉を持つ。建物址と関係が想定されるような周溝の存在は確認できなかったが、八角形の主柱穴群以外に支柱穴群が検出されている。5号住居址からは土器・石器などの良好な資料が得られた。また、一部甍片がまとまって出土して地点があり、これらの土器は古墳時代前～中期に帰属すると推定される。出土遺物は灰釉陶器の小杯1点に留まるが平安時代に帰属すると考えられる井戸址が1基検出されている。</p>						

松本市文化財調査報告 No.209

長野県松本市

横田古屋敷 第1・2次

-発掘調査報告書-

発行日 平成24年3月30日

発行者 松本市教育委員会

〒390-8620

長野県松本市丸の内3番7号

印刷 株式会社 二光印刷

the 1990s, the number of people with a mental health problem has increased in the Netherlands. The prevalence of mental health problems is estimated to be 15% (10% of the population has a mental health problem, 5% of the population has a mental health problem that is severe enough to require treatment).

There are several reasons for the increase in the prevalence of mental health problems. One reason is that the diagnostic criteria for mental health problems have become more liberal. Another reason is that the awareness of mental health problems has increased. A third reason is that the incidence of mental health problems has increased. The incidence of mental health problems is estimated to be 10% per year (5% of the population has a mental health problem that is severe enough to require treatment).

The increase in the prevalence of mental health problems has led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.

The increase in the prevalence of mental health problems has also led to a corresponding increase in the number of people who are in contact with mental health services. In the Netherlands, there are approximately 1.5 million people who are in contact with mental health services each year.